

医療の質指標(Quality Indicator)定義一覧

出 典 : 京都大学 Q I P プロジェクト、(http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/).「Quality Indicator/Improvemnt Project(Q I P) 医療の質と経済性の評価・向上にむけて～診療パフォーマンス指標の他施設比較」.(2024年7月1日閲覧)

分類	指標番号	
脳卒中	0842	脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院中に未分画ヘパリンを投与されなかった症例の割合
	2167	脳卒中症例に対する地域連携の実施割合
	2170	脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、抗血小板薬を処方された症例の割合
	2171	脳梗塞患者のスタチン処方割合
	2178	脳梗塞の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合
	2179	脳梗塞の診断で入院し、入院後早期にリハビリ治療を受けた症例の割合
	5001	脳梗塞の診断で入院し、抗痙攣薬を投与しない割合
呼吸器系	0417	喘息入院患者における退院後30日間以内の同一施設再入院割合
	2192	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率（厚労省）
循環器系疾患 薬剤	2002	急性心筋梗塞患者におけるβブロッカー投与割合
	2003	急性心筋梗塞患者におけるACE阻害剤もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤の投与割合
循環器系疾患	2077	急性心筋梗塞(再発性心筋梗塞含む)患者に対する心臓リハビリ実施割合
	2078	急性または慢性心不全患者に対する心臓リハビリ実施割合
消化器系	2126	胆管炎・急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合
整形外科	2046	大腿骨頸部骨折における早期リハビリ開始率
	2166	大腿骨頸部骨折症例に対する地域連携の実施割合
乳がん	2038	T1-2,N0M0乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検率
糖尿病	2075	糖尿病入院患者に対する栄養指導実施率
化学療法	2133	シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与
	2137	EC(エピルビン、シクロフスマイド) 療法後の急性期予防的制吐剤の投与
精神科	2127_1	75歳以上の入院症例でトリアゾラムが処方された割合
	2127_2	75歳以上の入院症例で長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合
	2127_3	75歳以上の入院症例でトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合
	2191	外来で経口抗精神病薬を処方した症例の中、定型抗精神病薬を含めない割合
	2195	外来で睡眠薬を処方された75歳以上の症例の中で、ベンゾジアゼピン系またはバルビツール系睡眠薬が処方されていない割合
	2196	外来で睡眠薬の処方のある症例のうち、睡眠薬が単剤または2剤である割合
感染症	2031_4	市中肺炎症例に対し、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例の割合
	2031_6	市中肺炎症例に対し、入院当日から抗菌薬を投与された症例の割合
	2031_7	市中肺炎症例に対する、注射抗菌薬開始時の抗緑膿菌薬投与割合
	2107	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合
	2107_6	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合（外来）
	2108	抗MRSA薬投与症例対して、細菌検査を実施された割合
	2124	カルバペネム・ニューキノロン・抗MRSA薬使用時の血液培養実施率
	2124_2	カルバペネム・ニューキノロン・抗MRSA薬使用までの培養検査実施率
	2128	経口第3世代セフェム処方が経口抗菌薬全体に占める割合
	2129	経口カルバペネム処方数が経口抗菌薬全体に占める割合
	2194	広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率（厚労省）
マネジメント	2048	薬剤管理指導実施割合（実施患者数ベース）
	2071	悪性腫瘍症例に対する退院支援の割合
	2079	糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への栄養管理実施割合
	2080	糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への早期栄養管理実施割合
	2090	DPC入院期間II以内の割合
	2091	DPC入院期間III超えの割合
	2102	誤嚥性肺炎症例に対する退院支援の割合
	2103	認知症を伴う症例に対する退院支援の割合
	2104	薬剤管理指導実施開始の平均日数
	2139	薬剤管理指導入院3日以内実施割合（実施患者数ベース）

基本情報

指標番号

0842

名称

脳梗塞（TIA 含む）の診断で入院し、入院中に未分画ヘパリンを投与されなかった症例の割合

分母

18 歳以上の脳梗塞か TIA の診断で入院した症例

分子

分母のうち、未分画ヘパリンを投与されなかった症例

指標群

脳卒中

意義

脳梗塞の治療に際しては原則として勧められない。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 解析期間に退院した症例を対象とする
- このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
- このうち、脳梗塞か TIA の診断で入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
I63\$	脳梗塞
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群

- このうち、頸動脈内膜剥離術（CEA）かステント留置術（CAS）を受けた症例を除外する。様式 1 の手術フィールド（1～10）いずれかに以下のいずれかが含まれる症例 ※1:区分 K609 枝 0 項 2。 ※2:区分 K609 枝 2 項 0。

手術点数コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
K6092※1	動脈血栓内膜摘出術	○	○	○	○	○	○	○	○
K609-2※2	経皮的頸動脈ステント留置術	○	○	○	○	○	○	○	○

- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 未分画ヘパリンを入院中に投与されなかった症例。 E/F ファイルの薬剤情報の点数コードに、以下のいずれかの薬価基準コードに対応するレセ電コードが含まれなかった症例。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
3334400	ヘパリンカルシウム	○	○	○	○	○	○	○	○
3334401	ヘパリンナトリウム	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 未分画ヘパリンを投与する医学的理由の情報が得られる場合は、その症例を分母から除外する。

参考資料

参考値

参考資料

1. American Academy of Neurology, American College of Radiology, Physician Consortium for Performance Improvement®, National Committee for Quality Assurance. Stroke and stroke rehabilitation physician performance measurement set. Chicago (IL): American Medical Association (AMA), National Committee for Quality Assurance (NCQA); 2009 Feb. 20 p. Coull BM, et al. Anticoagulants and antiplatelet agents in acute ischemic stroke: report of the Joint Stroke Guideline Development Committee of the American Academy of Neurology and the American Stroke Association (a division of the American Heart Association). Neurology 2002 Jul 9;59(1):13-22.

基本情報

指標番号

2178

名称

脳梗塞の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合

分母

18 歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子

分母のうち、リハビリテーションを受けた症例

指標群

脳卒中

意義

脳卒中後のリハビリは、機能の早期回復と低下抑制につながる。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、脳梗塞のため入院した症例。
4. 入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10 コードとして「I63\$」（脳梗塞）が含まれる症例
5. 7 日以内の死亡退院症例を除外する（入院日を 1 として、退院日が 7 日目以内でかつ退院時転帰が「6. 最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7. 最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。）
6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

末尾の一覧にあるリハ実施のレセ電コードのいずれかが算定されている症例

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。

参考資料

参考値

1. QIP の過去の同様の指標では 95%前後。

参考資料

1. American Heart Association. Heart disease and stroke statistics - 2008 update. Dallas (TX): American Heart Association; 2008. 43 p.
2. 脳卒中治療ガイドライン 2021(改定 2023)(I -2-4 予後予測)

リハビリテーションレセプト電算コード一覧

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180017910	難病患者リハビリテーション料	○	○	○	○	○	○	○	○
180027410	心大血管疾患リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027510	心大血管疾患リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	○			○	○	○	○	○
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)(その他)	○							
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)(廃用症候群以外)		○	○					
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2)	○			○	○	○	○	○
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2)(その他)	○							
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2)(廃用症候群以外)		○	○					
180027910	運動器リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027910	運動器リハビリテーション料(3)	○	○	○	○	○	○	○	○
180028010	呼吸器リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180028110	呼吸器リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180028410	障害児(者)リハビリテーション料(18歳以上)	○	○	○	○	○	○	○	○
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料(3)	○			○	○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(その他)	○							
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(廃用症候群以外)		○	○					
180032410	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)(廃用症候群)	○	○	○	○				
180032510	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2)(廃用症候群)	○	○	○	○				
180032610	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(廃用症候群)	○	○	○	○				
180032710	運動器リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180033110	がん患者リハビリテーション料	○	○	○	○	○	○	○	○
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)(要介護・入院外)				○	○	○		
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)(要介護・廃用症候群以外)		○	○					
180034010	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)(要介護・廃用症候群)		○	○	○				
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2)(要介護・廃用症候群以外)		○	○					
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2)(要介護・入院外)				○	○	○		
180034210	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2)(要介護・廃用症候群)		○	○	○				
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(要介護・入院外)				○	○	○		
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(要介護・廃用症候群以外)		○	○					
180034410	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(要介護・廃用症候群)		○	○	○				
180034510	運動器リハビリテーション料(1)(要 介護)		○	○					
180034510	運動器リハビリテーション料(1)(要 介護・入院外)				○	○	○		
180034610	運動器リハビリテーション料(2)(要 介護)		○	○					
180034610	運動器リハビリテーション料(2)(要 介護・入院外)				○	○	○		
180034710	運動器リハビリテーション料(3)(要 介護)		○	○					
180034710	運動器リハビリテーション料(3)(要 介護・入院外)				○	○	○		
180043110	認知症患者リハビリテーション料			○	○	○	○	○	○
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料 1(要介・廃用症以外)基準不適合			○					
180043530	脳血管疾患等リハビリテーション料 1(要介・廃用症)基準不適合			○	○				
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料 2(要介・廃用症以外)基準不適合			○					
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180043730	脳血管疾患等リハビリテーション料 2(要介・廃用症)基準不適合			○	○				
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料 3(要介・廃用症以外)基準不適合			○					

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180043930	脳血管疾患等リハビリテーション料 3(要介・廃用症)基準不適合			○	○				
180044030	運動器リハビリテーション料(1)(要 介護)(施設基準不適合)			○					
180044030	運動器リハビリテーション料(1)(要 介護)基準不適合				○	○	○		
180044130	運動器リハビリテーション料(2)(要 介護)(施設基準不適合)			○					
180044130	運動器リハビリテーション料(2)(要 介護)基準不適合				○	○	○		
180044230	運動器リハビリテーション料(3)(要 介護)(施設基準不適合)			○					
180044230	運動器リハビリテーション料(3)(要 介護)基準不適合				○	○	○		
180044310	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)(要介護・入院)				○	○	○	○	○
180044410	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2)(要介護・入院)				○	○	○	○	○
180044510	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3)(要介護・入院)				○	○	○	○	○
180044610	廃用症候群リハビリテーション料 (1)				○	○	○	○	○
180044710	廃用症候群リハビリテーション料 (2)				○	○	○	○	○
180044810	廃用症候群リハビリテーション料 (3)				○	○	○	○	○
180044910	廃用症候群リハビリテーション料 (1)(要介護・入院)				○	○	○	○	○
180045010	廃用症候群リハビリテーション料 (1)(要介護・入院外)				○	○	○		
180045110	廃用症候群リハビリテーション料 (2)(要介護・入院)				○	○	○	○	○
180045210	廃用症候群リハビリテーション料 (2)(要介護・入院外)				○	○	○		
180045310	廃用症候群リハビリテーション料 (3)(要介護・入院)				○	○	○	○	○
180045410	廃用症候群リハビリテーション料 (3)(要介護・入院外)				○	○	○		
180045530	廃用症候群リハビリテーション料 (1)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180045630	廃用症候群リハビリテーション料 (2)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180045730	廃用症候群リハビリテーション料 (3)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180045810	運動器リハビリテーション料(1)(要 介護・入院)				○	○	○	○	
180045910	運動器リハビリテーション料(2)(要 介護・入院)				○	○	○	○	○
180046010	運動器リハビリテーション料(3)(要 介護・入院)				○	○	○	○	○
180050330	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)(リ減)				○	○	○	○	○
180050430	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2)(リ減)				○	○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180050530	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3) (リ減)				○	○	○	○	○
180050630	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180050730	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180050830	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180050930	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180051030	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180051130	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180051230	脳血管疾患等リハビリテーション料 (1) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180051330	脳血管疾患等リハビリテーション料 (2) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180051430	脳血管疾患等リハビリテーション料 (3) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180051530	廃用症候群リハビリテーション料 (1) (リ減)				○	○	○	○	○
180051630	廃用症候群リハビリテーション料 (2) (リ減)				○	○	○	○	○
180051730	廃用症候群リハビリテーション料 (3) (リ減)				○	○	○	○	○
180051830	廃用症候群リハビリテーション料 (1) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180051930	廃用症候群リハビリテーション料 (1) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180052030	廃用症候群リハビリテーション料 (2) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180052130	廃用症候群リハビリテーション料 (2) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180052230	廃用症候群リハビリテーション料 (3) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180052330	廃用症候群リハビリテーション料 (3) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180052430	廃用症候群リハビリテーション料 (1) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180052530	廃用症候群リハビリテーション料 (2) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180052630	廃用症候群リハビリテーション料 (3) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180052730	運動器リハビリテーション料(1) (リ減)				○	○	○	○	○
180052830	運動器リハビリテーション料(2) (リ減)				○	○	○	○	○
180052930	運動器リハビリテーション料(3) (リ減)				○	○	○	○	○
180053030	運動器リハビリテーション料(1) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180053130	運動器リハビリテーション料(1) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180053230	運動器リハビリテーション料(2) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180053330	運動器リハビリテーション料(2)(要介護・入院外)(リ減)				○	○	○		
180053430	運動器リハビリテーション料(3)(要介護・入院)(リ減)				○	○	○	○	○
180053530	運動器リハビリテーション料(3)(要介護・入院外)(リ減)				○	○	○		
180053630	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)基準不適合・リ減				○	○	○		
180053730	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)基準不適合・リ減				○	○	○		
180053830	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)基準不適合・リ減				○	○	○		
180744210	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(理学療法士による場合)								○
180744310	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(作業療法士による場合)								○
180744410	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(医師による場合)								○
180744510	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(看護師による場合)								○
180744610	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(集団療法による場合)								○
180744710	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)								○
180744810	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(作業療法士による場合)								○
180744910	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(医師による場合)								○
180745010	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(看護師による場合)								○
180745110	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(集団療法による場合)								○
180745310	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)(理学療法士による場合)								○
180745410	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)(作業療法士による場合)								○
180745510	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)(言語聴覚士による場合)								○
180745610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)(医師による場合)								○
180745710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)								○

180745810	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（作業療法士による場合）								○
180745910	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（言語聴覚士による場合）								○
180746010	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（医師による場合）								○
180746110	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（理学療法士による場合）								○
180746210	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（作業療法士による場合）								○
180746310	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（言語聴覚士による場合）								○
180746410	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（医師による場合）								○
180746510	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（イからニまで以外の場合）								○
180746610	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（理学療法士）								○
180746710	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（作業療法士）								○
180746810	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（言語聴覚士）								○
180746910	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（医師）								○
180747010	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（理学療法士）								○
180747110	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（作業療法士）								○
180747210	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（言語聴覚士）								○
180747310	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（医師）								○
180747410	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（理学療法士）								○
180747510	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（作業療法士）								○
180747610	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（言語聴覚士）								○
180747710	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（医師）								○

180747810	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（1 から 4 以外）								○
180747930	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（理学療法士）（リ減）								○
180748030	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（作業療法士）（リ減）								○
180748130	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（言語聴覚士）（リ減）								○
180748230	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（医師）（リ減）								○
180748330	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（理学療法士）（リ減）								○
180748430	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（作業療法士）（リ減）								○
180748530	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（言語聴覚士）（リ減）								○
180748630	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（医師）（リ減）								○
180748730	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（理学療法士）（リ減）								○
180748830	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（作業療法士）（リ減）								○
180748930	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（言語聴覚士）（リ減）								○
180749030	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（医師）（リ減）								○
180749130	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（1 から 4 以外）（リ減）								○
180749230	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（理学）（リ減）								○
180749330	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（作業）（リ減）								○
180749430	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（言語）（リ減）								○
180749530	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護）（医師）（リ減）								○
180749630	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（理学）（リ減）								○
180749730	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（作業）（リ減）								○

180749830	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（言語）（リ減）								○
180749930	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護）（医師）（リ減）								○
180750030	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（理学）（リ減）								○
180750130	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（作業）（リ減）								○
180750230	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（言語）（リ減）								○
180750330	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（要介護）（医師）（リ減）								○
180750430	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）要介護・1 から4 以外・リ減								○
180750510	廃用症候群リハビリテーション料（1）（理学療法士による場合）								○
180750610	廃用症候群リハビリテーション料（1）（作業療法士による場合）								○
180750710	廃用症候群リハビリテーション料（1）（言語聴覚士による場合）								○
180750810	廃用症候群リハビリテーション料（1）（医師による場合）								○
180750910	廃用症候群リハビリテーション料（2）（理学療法士による場合）								○
180751010	廃用症候群リハビリテーション料（2）（作業療法士による場合）								○
180751110	廃用症候群リハビリテーション料（2）（言語聴覚士による場合）								○
180751210	廃用症候群リハビリテーション料（2）（医師による場合）								○
180751310	廃用症候群リハビリテーション料（3）（理学療法士による場合）								○
180751410	廃用症候群リハビリテーション料（3）（作業療法士による場合）								○
180751510	廃用症候群リハビリテーション料（3）（言語聴覚士による場合）								○
180751610	廃用症候群リハビリテーション料（3）（医師による場合）								○
180751710	廃用症候群リハビリテーション料（3）（イからニまで以外の場合）								○

180751810	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（理学）								○
180751910	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（作業）								○
180752010	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（言語）								○
180752110	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（医師）								○
180752210	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（理学）								○
180752310	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（作業）								○
180752410	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（言語）								○
180752510	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（医師）								○
180752610	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（理学）								○
180752710	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（作業）								○
180752810	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（言語）								○
180752910	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（医師）								○
180753010	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（イからニ以外）								○
180753130	廃用症候群リハビリテーション料（１）（理学）（リ減）								○
180753230	廃用症候群リハビリテーション料（１）（作業）（リ減）								○
180753330	廃用症候群リハビリテーション料（１）（言語）（リ減）								○
180753430	廃用症候群リハビリテーション料（１）（医師）（リ減）								○
180753530	廃用症候群リハビリテーション料（２）（理学）（リ減）								○
180753630	廃用症候群リハビリテーション料（２）（作業）（リ減）								○
180753730	廃用症候群リハビリテーション料（２）（言語）（リ減）								○
180753830	廃用症候群リハビリテーション料（２）（医師）（リ減）								○
180753930	廃用症候群リハビリテーション料（３）（理学）（リ減）								○
180754030	廃用症候群リハビリテーション料（３）（作業）（リ減）								○
180754130	廃用症候群リハビリテーション料（３）（言語）（リ減）								○
180754230	廃用症候群リハビリテーション料（３）（医師）（リ減）								○
180754330	廃用症候群リハビリテーション料（３）（イからニ以外）（リ減）								○
180754430	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（理学）（リ減）								○

180754530	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（作業）（リ減）								○
180754630	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（言語）（リ減）								○
180754730	廃用症候群リハビリテーション料（１）（要介護）（医師）（リ減）								○
180754830	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（理学）（リ減）								○
180754930	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（作業）（リ減）								○
180755030	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（言語）（リ減）								○
180755130	廃用症候群リハビリテーション料（２）（要介護）（医師）（リ減）								○
180755230	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（理学）（リ減）								○
180755330	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（作業）（リ減）								○
180755430	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（言語）（リ減）								○
180755530	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）（医師）（リ減）								○
180755630	廃用症候群リハビリテーション料（３）（要介護）イからニ以外・リ減								○
180755710	運動器リハビリテーション料（１）（理学療法士による場合）								○
180755810	運動器リハビリテーション料（１）（作業療法士による場合）								○
180755910	運動器リハビリテーション料（１）（医師による場合）								○
180756010	運動器リハビリテーション料（２）（理学療法士による場合）								○
180756110	運動器リハビリテーション料（２）（作業療法士による場合）								○
180756210	運動器リハビリテーション料（２）（医師による場合）								○
180756310	運動器リハビリテーション料（３）（理学療法士による場合）								○

180756410	運動器リハビリテーション料 (3) (作業療法士による場合)								○
180756510	運動器リハビリテーション料 (3) (医師による場合)								○
180756610	運動器リハビリテーション料 (3) (イからハ以外)								○
180756730	運動器リハビリテーション料 (1) (理学療法士による場合) (リ減)								○
180756830	運動器リハビリテーション料 (1) (作業療法士による場合) (リ減)								○
180756930	運動器リハビリテーション料 (1) (医師による場合) (リ減)								○
180757030	運動器リハビリテーション料 (2) (理学療法士による場合) (リ減)								○
180757130	運動器リハビリテーション料 (2) (作業療法士による場合) (リ減)								○
180757230	運動器リハビリテーション料 (2) (医師による場合) (リ減)								○
180757330	運動器リハビリテーション料 (3) (理学療法士による場合) (リ減)								○
180757430	運動器リハビリテーション料 (3) (作業療法士による場合) (リ減)								○
180757530	運動器リハビリテーション料 (3) (医師による場合) (リ減)								○
180757630	運動器リハビリテーション料 (3) (イからハ以外) (リ減)								○
180757710	運動器リハビリテーション料 (1) (要介護) (理学)								○
180757810	運動器リハビリテーション料 (1) (要介護) (作業)								○
180757910	運動器リハビリテーション料 (1) (要介護) (医師)								○
180758010	運動器リハビリテーション料 (2) (要介護) (理学)								○
180758110	運動器リハビリテーション料 (2) (要介護) (作業)								○
180758210	運動器リハビリテーション料 (2) (要介護) (医師)								○
180758310	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) (理学)								○
180758410	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) (作業)								○
180758510	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) (医師)								○

180758610	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) (1 から 3 以外)								○
180758730	運動器リハビリテーション料 (1) (要介護) (理学) (リ減)								○
180758830	運動器リハビリテーション料 (1) (要介護) (作業) (リ減)								○
180758930	運動器リハビリテーション料 (1) (要介護) (医師) (リ減)								○
180759030	運動器リハビリテーション料 (2) (要介護) (理学) (リ減)								○
180759130	運動器リハビリテーション料 (2) (要介護) (作業) (リ減)								○
180759230	運動器リハビリテーション料 (2) (要介護) (医師) (リ減)								○
180759330	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) (理学) (リ減)								○
180759430	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) (作業) (リ減)								○
180759530	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) (医師) (リ減)								○
180759630	運動器リハビリテーション料 (3) (要介護) 1 から 3 以外・リ減								○
180759710	呼吸器リハビリテーション料 (1) (理学療法士による場合)								○
180759810	呼吸器リハビリテーション料 (1) (作業療法士による場合)								○
180759910	呼吸器リハビリテーション料 (1) (言語聴覚士による場合)								○
180760010	呼吸器リハビリテーション料 (1) (医師による場合)								○
180760110	呼吸器リハビリテーション料 (2) (理学療法士による場合)								○
180760210	呼吸器リハビリテーション料 (2) (作業療法士による場合)								○
180760310	呼吸器リハビリテーション料 (2) (言語聴覚士による場合)								○
180760410	呼吸器リハビリテーション料 (2) (医師による場合)								○
190207870	早期離床・リハビリテーション加算 (特定集中治療室管理料)					○	○	○	○

190245810	早期離床・リハビリテーション加算 (救命救急入院料)							○	○
190247710	早期離床・リハビリテーション加算 (ハイケア)							○	○
190248070	早期離床・リハビリテーション加算 (脳卒中ケア)							○	○
190248510	早期離床・リハビリテーション加算 (小児特定集中治療室管理料)							○	○
193012370	早期離床・リハビリテーション加算 (特定集中治療室管理料)					○	○	○	○
193013410	早期離床・リハビリテーション加算 (救命救急入院料)							○	○
193015310	早期離床・リハビリテーション加算 (ハイケア)							○	○
193015670	早期離床・リハビリテーション加算 (脳卒中ケア)							○	○
193015910	早期離床・リハビリテーション加算 (小児特定集中治療室管理料)							○	○
193315470	早期離床・リハビリテーション加算 (特定集中治療室管理料)					○	○	○	○
193316510	早期離床・リハビリテーション加算 (救命救急入院料)							○	○
193318410	早期離床・リハビリテーション加算 (ハイケア)							○	○
193318770	早期離床・リハビリテーション加算 (脳卒中ケア)							○	○
193319010	早期離床・リハビリテーション加算 (小児特定集中治療室管理料)							○	○
193521770	早期離床・リハビリテーション加算 (特定集中治療室管理料)					○	○	○	○
193587410	早期離床・リハビリテーション加算 (救命救急入院料)							○	○
193589310	早期離床・リハビリテーション加算 (ハイケア)							○	○
193589670	早期離床・リハビリテーション加算 (脳卒中ケア)							○	○
193589910	早期離床・リハビリテーション加算 (小児特定集中治療室管理料)							○	○

基本情報

指標番号

2179

名称

脳梗塞の診断で入院し、入院後早期にリハビリ治療を受けた症例の割合

分母

18 歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子

分母のうち、入院後早期（3 日以内）にリハビリテーション治療を受けた症例

指標群

脳卒中

意義

脳卒中の診断後、できるだけ早期にリハビリを開始することが、機能の早期回復と低下抑制につながる。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、脳梗塞のため入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10 コードとして「I63\$」（脳梗塞）が含まれる症例
4. このうち、脳卒中の発症時期が 3 日以内の症例 2010 年度～2011 年度 脳卒中の発症時期に入力された日付が、入院日より 3 日以内 例： 2010 年 9 月 10 日発症 2010 年 9 月 13 日入院 →4 日目入院であり含めない 2012 年度～ 脳卒中の発症時期「1（発症 3 日以内）」
5. このうち、7 日以内の死亡退院症例を除外する（入院日を 1 として、退院日が 7 日目以内でかつ退院時転帰が「6. 最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7. 最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。）
6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

入院日後 3 日以内（入院日を 1 とする）に、末尾の一覧に記載されたリハ実施のレセ電コードのいずれかが算定されている症例

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
2. リハビリテーションの実施の内容としては、離床だけではなく、理学療法、作業療法・言語聴覚療法も含まれる。
3. 参考資料としている脳卒中ガイドライン 2021 では発症 24 時間以内の離床開始は推奨されておらず、「入院 3 日以内のリハビリテーション開始」の本指標では 24 時間以内の離床開始も含まれる。
4. 「発症 24 時間以内の離床開始を想定した入院 1 日目のリハビリテーション開始」を除外した指標が参考となる

参考値

1. QIP の過去の指標では 85%前後。

参考資料

1. 脳卒中治療ガイドライン 2021（脳卒中一般 I -b）
2. AVERT trial collaboration group: Efficacy and safety of very early mobilisation within 24 h of stroke onset (AVERT): a randomised controlled trial. Lancet. 2015; 386: 46-55.
3. Langhorne P, Collier JM, Bate PJ, Thuy MN, Bernhardt J. Very early versus delayed mobilisation after stroke. Cochrane Database Syst Rev. 2018 Oct 16;10(10):CD006187.

4. Otokita S, Uematsu H, Kunisawa S, Sasaki N, Fushimi K, Imanaka Y. Impact of rehabilitation start time on functional outcomes after stroke. J Rehabil Med. 2021 Jan 13;53(1):jrm00145.

リハビリテーションレセプト電算コード一覧

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180017910	難病患者リハビリテーション料	○	○	○	○	○	○	○	○
180027410	心大血管疾患リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027510	心大血管疾患リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	○			○	○	○	○	○
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (その他)	○							
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (廃用症候群以外)		○	○					
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2)	○			○	○	○	○	○
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (その他)	○							
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (廃用症候群以外)		○	○					
180027910	運動器リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027910	運動器リハビリテーション料(3)	○	○	○	○	○	○	○	○
180028010	呼吸器リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180028110	呼吸器リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180028410	障害児(者)リハビリテーション料(18歳以上)	○	○	○	○	○	○	○	○
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料(3)	○			○	○	○	○	○
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (その他)	○							
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (廃用症候群以外)		○	○					
180032410	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (廃用症候群)	○	○	○	○				
180032510	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (廃用症候群)	○	○	○	○				
180032610	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (廃用症候群)	○	○	○	○				
180032710	運動器リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180033110	がん患者リハビリテーション料	○	○	○	○	○	○	○	○
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護・入院外)				○	○	○		
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護・廃用症候群以外)		○	○					
180034010	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護・廃用症候群)		○	○	○				
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護・廃用症候群以外)		○	○					

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護・入院外)				○	○	○		
180034210	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護・廃用症候群)		○	○	○				
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護・入院外)				○	○	○		
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護・廃用症候群以外)		○	○					
180034410	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護・廃用症候群)		○	○	○				
180034510	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)		○	○					
180034510	運動器リハビリテーション料(1)(要介護・入院外)				○	○	○		
180034610	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)		○	○					
180034610	運動器リハビリテーション料(2)(要介護・入院外)				○	○	○		
180034710	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)		○	○					
180034710	運動器リハビリテーション料(3)(要介護・入院外)				○	○	○		
180043110	認知症患者リハビリテーション料			○	○	○	○	○	○
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)基準不適合				○	○	○		
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料1(要介護・廃用症以外)基準不適合			○					
180043530	脳血管疾患等リハビリテーション料1(要介護・廃用症)基準不適合			○	○				
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料2(要介護・廃用症以外)基準不適合			○					
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)基準不適合				○	○	○		
180043730	脳血管疾患等リハビリテーション料2(要介護・廃用症)基準不適合			○	○				
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料3(要介護・廃用症以外)基準不適合			○					
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)基準不適合				○	○	○		
180043930	脳血管疾患等リハビリテーション料3(要介護・廃用症)基準不適合			○	○				
180044030	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(施設基準不適合)			○					
180044030	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180044130	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(施設基準不適合)			○					
180044130	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180044230	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(施設基準不適合)			○					
180044230	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)基準不適合				○	○	○		
180044310	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護・入院)				○	○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180044410	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護・入院)				○	○	○	○	○
180044510	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護・入院)				○	○	○	○	○
180044610	廃用症候群リハビリテーション料(1)				○	○	○	○	○
180044710	廃用症候群リハビリテーション料(2)				○	○	○	○	○
180044810	廃用症候群リハビリテーション料(3)				○	○	○	○	○
180044910	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要 介護・入院)				○	○	○	○	○
180045010	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要 介護・入院外)				○	○	○		
180045110	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要 介護・入院)				○	○	○	○	○
180045210	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要 介護・入院外)				○	○	○		
180045310	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要 介護・入院)				○	○	○	○	○
180045410	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要 介護・入院外)				○	○	○		
180045530	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要 介護)基準不適合				○	○	○		
180045630	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要 介護)基準不適合				○	○	○		
180045730	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要 介護)基準不適合				○	○	○		
180045810	運動器リハビリテーション料(1)(要介 護・入院)				○	○	○	○	
180045910	運動器リハビリテーション料(2)(要介 護・入院)				○	○	○	○	○
180046010	運動器リハビリテーション料(3)(要介 護・入院)				○	○	○	○	○
180050330	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (リ減)				○	○	○	○	○
180050430	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (リ減)				○	○	○	○	○
180050530	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (リ減)				○	○	○	○	○
180050630	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護・入院)(リ減)				○	○	○	○	○
180050730	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護・入院外)(リ減)				○	○	○		
180050830	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護・入院)(リ減)				○	○	○	○	○
180050930	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護・入院外)(リ減)				○	○	○		
180051030	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護・入院)(リ減)				○	○	○	○	○
180051130	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護・入院外)(リ減)				○	○	○		
180051230	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)基準不適合・リ減				○	○	○		
180051330	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)基準不適合・リ減				○	○	○		

レセコード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180051430	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180051530	廃用症候群リハビリテーション料(1) (リ減)				○	○	○	○	○
180051630	廃用症候群リハビリテーション料(2) (リ減)				○	○	○	○	○
180051730	廃用症候群リハビリテーション料(3) (リ減)				○	○	○	○	○
180051830	廃用症候群リハビリテーション料(1) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180051930	廃用症候群リハビリテーション料(1) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180052030	廃用症候群リハビリテーション料(2) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180052130	廃用症候群リハビリテーション料(2) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180052230	廃用症候群リハビリテーション料(3) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180052330	廃用症候群リハビリテーション料(3) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180052430	廃用症候群リハビリテーション料(1) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180052530	廃用症候群リハビリテーション料(2) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180052630	廃用症候群リハビリテーション料(3) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180052730	運動器リハビリテーション料(1) (リ減)				○	○	○	○	○
180052830	運動器リハビリテーション料(2) (リ減)				○	○	○	○	○
180052930	運動器リハビリテーション料(3) (リ減)				○	○	○	○	○
180053030	運動器リハビリテーション料(1) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180053130	運動器リハビリテーション料(1) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180053230	運動器リハビリテーション料(2) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180053330	運動器リハビリテーション料(2) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180053430	運動器リハビリテーション料(3) (要介護・入院) (リ減)				○	○	○	○	○
180053530	運動器リハビリテーション料(3) (要介護・入院外) (リ減)				○	○	○		
180053630	運動器リハビリテーション料(1) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180053730	運動器リハビリテーション料(2) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180053830	運動器リハビリテーション料(3) (要介護) 基準不適合・リ減				○	○	○		
180744210	心大血管疾患リハビリテーション料(1) (理学療法士による場合)								○
180744310	心大血管疾患リハビリテーション料(1) (作業療法士による場合)								○
180744410	心大血管疾患リハビリテーション料(1) (医師による場合)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180744510	心大血管疾患リハビリテーション料(1) (看護師による場合)								○
180744610	心大血管疾患リハビリテーション料(1) (集団療法による場合)								○
180744710	心大血管疾患リハビリテーション料(2) (理学療法士による場合)								○
180744810	心大血管疾患リハビリテーション料(2) (作業療法士による場合)								○
180744910	心大血管疾患リハビリテーション料(2) (医師による場合)								○
180745010	心大血管疾患リハビリテーション料(2) (看護師による場合)								○
180745110	心大血管疾患リハビリテーション料(2) (集団療法による場合)								○
180745310	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (理学療法士による場合)								○
180745410	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (作業療法士による場合)								○
180745510	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (言語聴覚士による場合)								○
180745610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (医師による場合)								○
180745710	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (理学療法士による場合)								○
180745810	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (作業療法士による場合)								○
180745910	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (言語聴覚士による場合)								○
180746010	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (医師による場合)								○
180746110	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (理学療法士による場合)								○
180746210	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (作業療法士による場合)								○
180746310	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (言語聴覚士による場合)								○
180746410	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (医師による場合)								○
180746510	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (イからニまで以外の場合)								○
180746610	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(理学療法士)								○
180746710	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(作業療法士)								○
180746810	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(言語聴覚士)								○
180746910	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(医師)								○
180747010	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(理学療法士)								○
180747110	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(作業療法士)								○
180747210	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(言語聴覚士)								○
180747310	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(医師)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180747410	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(理学療法士)								○
180747510	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(作業療法士)								○
180747610	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(言語聴覚士)								○
180747710	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(医師)								○
180747810	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(1から4以外)								○
180747930	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (理学療法士)(リ減)								○
180748030	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (作業療法士)(リ減)								○
180748130	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (言語聴覚士)(リ減)								○
180748230	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (医師)(リ減)								○
180748330	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (理学療法士)(リ減)								○
180748430	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (作業療法士)(リ減)								○
180748530	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (言語聴覚士)(リ減)								○
180748630	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (医師)(リ減)								○
180748730	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (理学療法士)(リ減)								○
180748830	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (作業療法士)(リ減)								○
180748930	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (言語聴覚士)(リ減)								○
180749030	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (医師)(リ減)								○
180749130	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (1から4以外)(リ減)								○
180749230	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(理学)(リ減)								○
180749330	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(作業)(リ減)								○
180749430	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(言語)(リ減)								○
180749530	脳血管疾患等リハビリテーション料(1) (要介護)(医師)(リ減)								○
180749630	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(理学)(リ減)								○
180749730	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(作業)(リ減)								○
180749830	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(言語)(リ減)								○
180749930	脳血管疾患等リハビリテーション料(2) (要介護)(医師)(リ減)								○
180750030	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(理学)(リ減)								○
180750130	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(作業)(リ減)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180750230	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(言語)(リ減)								○
180750330	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) (要介護)(医師)(リ減)								○
180750430	脳血管疾患等リハビリテーション料(3) 要介護・1から4以外・リ減								○
180750510	廃用症候群リハビリテーション料(1)(理 学療法士による場合)								○
180750610	廃用症候群リハビリテーション料(1)(作 業療法士による場合)								○
180750710	廃用症候群リハビリテーション料(1)(言 語聴覚士による場合)								○
180750810	廃用症候群リハビリテーション料(1)(医 師による場合)								○
180750910	廃用症候群リハビリテーション料(2)(理 学療法士による場合)								○
180751010	廃用症候群リハビリテーション料(2)(作 業療法士による場合)								○
180751110	廃用症候群リハビリテーション料(2)(言 語聴覚士による場合)								○
180751210	廃用症候群リハビリテーション料(2)(医 師による場合)								○
180751310	廃用症候群リハビリテーション料(3)(理 学療法士による場合)								○
180751410	廃用症候群リハビリテーション料(3)(作 業療法士による場合)								○
180751510	廃用症候群リハビリテーション料(3)(言 語聴覚士による場合)								○
180751610	廃用症候群リハビリテーション料(3)(医 師による場合)								○
180751710	廃用症候群リハビリテーション料(3)(イ から二まで以外の場合)								○
180751810	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要 介護)(理学)								○
180751910	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要 介護)(作業)								○
180752010	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要 介護)(言語)								○
180752110	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要 介護)(医師)								○
180752210	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要 介護)(理学)								○
180752310	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要 介護)(作業)								○
180752410	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要 介護)(言語)								○
180752510	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要 介護)(医師)								○
180752610	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要 介護)(理学)								○
180752710	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要 介護)(作業)								○
180752810	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要 介護)(言語)								○
180752910	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要 介護)(医師)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180753010	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要介護)(イからニ以外)								○
180753130	廃用症候群リハビリテーション料(1)(理学)(リ減)								○
180753230	廃用症候群リハビリテーション料(1)(作業)(リ減)								○
180753330	廃用症候群リハビリテーション料(1)(言語)(リ減)								○
180753430	廃用症候群リハビリテーション料(1)(医師)(リ減)								○
180753530	廃用症候群リハビリテーション料(2)(理学)(リ減)								○
180753630	廃用症候群リハビリテーション料(2)(作業)(リ減)								○
180753730	廃用症候群リハビリテーション料(2)(言語)(リ減)								○
180753830	廃用症候群リハビリテーション料(2)(医師)(リ減)								○
180753930	廃用症候群リハビリテーション料(3)(理学)(リ減)								○
180754030	廃用症候群リハビリテーション料(3)(作業)(リ減)								○
180754130	廃用症候群リハビリテーション料(3)(言語)(リ減)								○
180754230	廃用症候群リハビリテーション料(3)(医師)(リ減)								○
180754330	廃用症候群リハビリテーション料(3)(イからニ以外)(リ減)								○
180754430	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要介護)(理学)(リ減)								○
180754530	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要介護)(作業)(リ減)								○
180754630	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要介護)(言語)(リ減)								○
180754730	廃用症候群リハビリテーション料(1)(要介護)(医師)(リ減)								○
180754830	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要介護)(理学)(リ減)								○
180754930	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要介護)(作業)(リ減)								○
180755030	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要介護)(言語)(リ減)								○
180755130	廃用症候群リハビリテーション料(2)(要介護)(医師)(リ減)								○
180755230	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要介護)(理学)(リ減)								○
180755330	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要介護)(作業)(リ減)								○
180755430	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要介護)(言語)(リ減)								○
180755530	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要介護)(医師)(リ減)								○
180755630	廃用症候群リハビリテーション料(3)(要介護)イからニ以外・リ減								○
180755710	運動器リハビリテーション料(1)(理学療法士による場合)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180755810	運動器リハビリテーション料(1)(作業療法士による場合)								○
180755910	運動器リハビリテーション料(1)(医師による場合)								○
180756010	運動器リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)								○
180756110	運動器リハビリテーション料(2)(作業療法士による場合)								○
180756210	運動器リハビリテーション料(2)(医師による場合)								○
180756310	運動器リハビリテーション料(3)(理学療法士による場合)								○
180756410	運動器リハビリテーション料(3)(作業療法士による場合)								○
180756510	運動器リハビリテーション料(3)(医師による場合)								○
180756610	運動器リハビリテーション料(3)(イからハ以外)								○
180756730	運動器リハビリテーション料(1)(理学療法士による場合)(リ減)								○
180756830	運動器リハビリテーション料(1)(作業療法士による場合)(リ減)								○
180756930	運動器リハビリテーション料(1)(医師による場合)(リ減)								○
180757030	運動器リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)(リ減)								○
180757130	運動器リハビリテーション料(2)(作業療法士による場合)(リ減)								○
180757230	運動器リハビリテーション料(2)(医師による場合)(リ減)								○
180757330	運動器リハビリテーション料(3)(理学療法士による場合)(リ減)								○
180757430	運動器リハビリテーション料(3)(作業療法士による場合)(リ減)								○
180757530	運動器リハビリテーション料(3)(医師による場合)(リ減)								○
180757630	運動器リハビリテーション料(3)(イからハ以外)(リ減)								○
180757710	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(理学)								○
180757810	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(作業)								○
180757910	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(医師)								○
180758010	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(理学)								○
180758110	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(作業)								○
180758210	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(医師)								○
180758310	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(理学)								○
180758410	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(作業)								○
180758510	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(医師)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180758610	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(1から3以外)								○
180758730	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(理学)(リ減)								○
180758830	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(作業)(リ減)								○
180758930	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(医師)(リ減)								○
180759030	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(理学)(リ減)								○
180759130	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(作業)(リ減)								○
180759230	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(医師)(リ減)								○
180759330	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(理学)(リ減)								○
180759430	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(作業)(リ減)								○
180759530	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(医師)(リ減)								○
180759630	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)1から3以外・リ減								○
180759710	呼吸器リハビリテーション料(1)(理学療法士による場合)								○
180759810	呼吸器リハビリテーション料(1)(作業療法士による場合)								○
180759910	呼吸器リハビリテーション料(1)(言語聴覚士による場合)								○
180760010	呼吸器リハビリテーション料(1)(医師による場合)								○
180760110	呼吸器リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)								○
180760210	呼吸器リハビリテーション料(2)(作業療法士による場合)								○
180760310	呼吸器リハビリテーション料(2)(言語聴覚士による場合)								○
180760410	呼吸器リハビリテーション料(2)(医師による場合)								○
190207870	早期離床・リハビリテーション加算(特定集中治療室管理料)					○	○	○	○
190245810	早期離床・リハビリテーション加算(救命救急入院料)							○	○
190247710	早期離床・リハビリテーション加算(ハイケア)							○	○
190248070	早期離床・リハビリテーション加算(脳卒中ケア)							○	○
190248510	早期離床・リハビリテーション加算(小児特定集中治療室管理料)							○	○
193012370	早期離床・リハビリテーション加算(特定集中治療室管理料)					○	○	○	○
193013410	早期離床・リハビリテーション加算(救命救急入院料)							○	○
193015310	早期離床・リハビリテーション加算(ハイケア)							○	○
193015670	早期離床・リハビリテーション加算(脳卒中ケア)							○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
193015910	早期離床・リハビリテーション加算(小児特定集中治療室管理料)							○	○
193315470	早期離床・リハビリテーション加算(特定集中治療室管理料)					○	○	○	○
193316510	早期離床・リハビリテーション加算(救命救急入院料)							○	○
193318410	早期離床・リハビリテーション加算(ハイケア)							○	○
193318770	早期離床・リハビリテーション加算(脳卒中ケア)							○	○
193319010	早期離床・リハビリテーション加算(小児特定集中治療室管理料)							○	○
193521770	早期離床・リハビリテーション加算(特定集中治療室管理料)					○	○	○	○
193587410	早期離床・リハビリテーション加算(救命救急入院料)							○	○
193589310	早期離床・リハビリテーション加算(ハイケア)							○	○
193589670	早期離床・リハビリテーション加算(脳卒中ケア)							○	○
193589910	早期離床・リハビリテーション加算(小児特定集中治療室管理料)							○	○

基本情報

指標番号

2167

名称

脳卒中症例に対する地域連携の実施割合

分母

脳卒中で入院した症例

分子

分母のうち、地域連携に関する算定のある症例

指標群

脳卒中

意義

地域連携実績を評価する。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 解析期間に退院した症例を対象とする。
- このうち、入院の契機となった傷病名および最も資源を投入した傷病名のコードが両方とも I6\$（脳血管疾患）の症例
- このうち、退院時転帰が死亡ではないもの。退院時転帰の値として以下のいずれかが入力されている症例を除外する

退院時転帰	説明
6	最も医療資源を投入した傷病による死亡
7	最も医療資源を投入した傷病以外による死亡

- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 地域連携に関する算定がある症例

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190192870	地域連携診療計画加算（入退院支援加算）				○	○	○	○	○
113009010	地域連携診療計画管理料	○	○	○	○				
113032310	連携強化診療情報提供料							○	○
180016110	診療情報提供料（I）	○	○	○	○	○	○	○	○
113008910	退院時共同指導料 2	○	○	○	○	○	○	○	○
190024910	開放型病院共同指導料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
113011710	介護支援等連携指導料		○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 分子で挙げた算定にはそれぞれ算定条件があり、実際に何らかの「地域連携」を行っていても、指標の集計には反映されていないことがあり得る
2. 条件（一部の療養病棟入院や転院等）により分子の診療報酬が算定できない場合、指標値が小さくなりえる。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号

2170

名称

脳梗塞（TIA 含む）の診断で入院し、抗血小板薬を処方された症例の割合

分母

18 歳以上の脳梗塞か TIA の診断で入院した症例

分子

分母のうち、抗血小板薬を処方された症例

指標群

脳卒中

意義

脳梗塞の 3 次予防に抗血小板薬は有効である。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、在院日数が 120 日以下の症例
4. このうち、脳梗塞か TIA の診断で入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
I63\$	脳梗塞
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群

5. このうち、退院時に抗凝固薬を処方された症例を除外する。F ファイル、もしくは EF ファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。退院時処方判定：2010 年度～2015 年度：F ファイルもしくは EF ファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」2016 年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12 桁の数値）の 1 桁目「退院時処方区分」が「1」

薬価基準コード 7 桁	薬剤名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
3332001	ワルファリンカリウム	○	○	○	○	○	○	○	○
3339001	ダビガトランエテキシラート	○	○	○	○	○	○	○	○
3339002	エドキサバントシル酸		○	○	○	○	○	○	○
3339003	リバーロキサバン		○	○	○	○	○	○	○
3339004	アピキサバン		○	○	○	○	○	○	○

6. このうち、退院時転帰が「6. 最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7. 最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。
7. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 抗血小板薬を処方された症例（持参薬登録を含む）。

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1143001	アスピリン	○	○	○	○	○	○	○	○
1143010	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○	○	
1143700	アスピリン	○	○						
3399001	チクロピジン	○	○	○	○	○	○	○	○
3399002	シロスタゾール	○	○	○	○	○	○	○	
3399007	アスピリン	○	○	○	○	○	○	○	○
3399008	クロピドグレル	○	○	○	○	○	○	○	○
3399011	チカグレロル				○	○	○	○	○
3399100	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○	○	○
3399101	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン		○	○	○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○	○	○
3399103	アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩						○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 非心原性脳梗塞の再発予防には、抗凝固薬よりも抗血小板薬の投与が（2015 年ガイドラインでは強く）推奨される（グレード A）：脳卒中治療ガイドライン 2009、2015 非心原性 TIA の脳梗塞発症予防には抗血小板療法が推奨される（グレード A）：脳卒中治療ガイドライン 2009 TIA 急性期以降の治療は、脳梗塞の再発予防に準じて行う：脳卒中治療ガイドライン 2015 抗血小板薬を投与しない医学的理由の情報が得られる場合は、その症例を分母から除外することが望ましい
2. 2020 年 5 月にアスピリン/ボノプラザンフマル酸塩配合剤が新規販売開始で追加した。

参考資料

参考値

参考資料

1. Albers GW, et al. Antithrombotic and thrombolytic therapy for ischemic stroke. Chest 2001 Jan;119(1 Suppl):300S-20S.American Academy of Neurology, American College of Radiology, Physician Consortium for Performance Improvement®, National Committee for Quality Assurance. Stroke and stroke rehabilitation physician performance measurement set. Chicago (IL): American Medical Association (AMA), National Committee for Quality Assurance (NCQA); 2009 Feb. 20 p.Sacco RL, et al. Guidelines for prevention of stroke in patients with ischemic stroke or transient ischemic attack: a statement for healthcare professionals from the American Heart Association/American Stroke Association Council on Stroke [trunc]. Stroke 2006 Feb;37(2):577-617.Anticoagulants and antiplatelet agents in acute ischemic stroke: report of the Joint Stroke Guideline Development Committee of the American Academy of Neurology and the American Stroke Association (a division of the American Heart Association).Guidelines for the early management of adults with ischemic stroke. A guideline from the American Heart Association/American Stroke Association Stroke Council, Clinical Cardiology Council, Cardiovascular Radiology and Intervention Council, and the Atherosclerotic Peripheral Vascular Disease and Quality of Care Outcomes in Research Interdisciplinary Working Groups.Guidelines for prevention of stroke in patients with ischemic stroke or transient ischemic attack.Update to the AHA/ASA recommendations for the prevention of stroke in patients with stroke and transient ischemic attack.
2. 脳卒中治療ガイドライン 2009 および 2015 （1-4. 急性期抗血小板療法）
3. 脳卒中治療ガイドライン 2021(改訂 2023). 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会

基本情報

指標番号

2171

名称

脳梗塞患者のスタチン処方割合

分母

脳梗塞で入院した症例数

分子

分母のうち、スタチンが投与された症例数

指標群

脳卒中

意義

退院後の再発予防内容をみるプロセス指標

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする。
2. このうち、脳梗塞の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名と主傷病名の ICD-10 コードがともに下記である症例。疑い病名は含めない。

ICD-10 コード	病名
I63\$	脳梗塞

3. このうち、退院日が入院後 3 日以降である症例。（入院日を 1 とする）。
4. このうち、退院時転帰が死亡ではないもの。退院時転帰の値として以下のいずれかが入力されている症例を除外する

退院時転帰	説明
6	最も医療資源を投入した傷病による死亡
7	最も医療資源を投入した傷病以外による死亡

5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. スタチンを処方された症例（持参薬登録を含む）。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
2189010	プラバスタチンナトリウム	○	○	○	○	○	○	○	○
2189011	シンバスタチン	○	○	○	○	○	○	○	○
2189012	フルバスタチンナトリウム	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
2189015	アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
2189016	ピタバスタチンカルシウム	○	○	○	○	○	○	○	○
2189017	ロスバスタチンカルシウム	○	○	○	○	○	○	○	○
2189101	エゼチミブ・アトルバスタチンカルシウム水和物					○	○	○	○
2189102	エゼチミブ・ロスバスタチンカルシウム					○	○	○	○
2189103	ピタバスタチンカルシウム水和物・エゼチミブ							○	○
2190101	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
2190102	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
2190103	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
2190104	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. アレルギーなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
2. エゼチミブ, ロスバスタチンカルシウム 2019 年 5 月新規合剤販売開始で追加。

参考資料

参考値

参考資料

1. 脳卒中治療ガイドライン（2009 年版 4-1（3）および 2015 年版 3-1（3） 脳梗塞慢性期 脂質異常症）
2. 脳卒中ガイドライン 2015. p92. 3-1

3. 脳卒中治療ガイドライン 2021(改訂 2023). 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会

基本情報

指標番号

5001

名称

脳梗塞の診断で入院し、抗凝固薬を投与しない割合

分母

18 歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子

分母のうち、抗凝固薬内服を投与されていない症例

指標群

脳卒中

意義

Choosing Wisely

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例
3. このうち、脳梗塞のため入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10 コードとして「I63\$」（脳梗塞）が含まれる症例
4. このうち、退院時転帰が「6. 最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7. 最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。
5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母のうち、抗凝固薬の内服を処方されていない症例

薬 価 基 準 コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○	○	○	○	○
1124017	ジアゼパム	○	○	○	○	○	○	○	○
1124402	ジアゼパム	○	○	○	○	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1125004	フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1125402	フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1132002	フェニトイン	○	○	○	○	○	○	○	○
1135002	プリミドン	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準 コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1139002	カルバマゼピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1139004	バルプロ酸ナトリウム	○	○	○	○	○	○	○	○
1139005	ゾニサミド		○	○	○	○	○	○	○
1169015	ゾニザミド			○	○	○	○	○	○
1139008	トピラマート				○	○	○	○	○
1139009	ラモトリギン					○	○	○	○
1139100	フェニトイン・フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1139103	フェニトイン・フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1139104	フェニトイン・フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1139105	フェニトイン・フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 予防治療をしない率を測定する指標であるが、治療が必要な症例も混在している。
2. 抗てんかん薬は、他の効能（例：抗精神病薬）もありほかの治療目的に利用している場合指標値に誤差がでる。

参考資料

参考値

参考資料

1. Don't routinely use seizure prophylaxis in patients following ischemic stroke.
<http://www.choosingwisely.org/clinician-lists/american-association-neurological-surgeons-seizure-prophylaxis-following-ischemic-stroke/>
2. 脳卒中治療ガイドライン 2021(改訂 2023). 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会

基本情報

指標番号

0417

名称

喘息入院患者における退院後 30 日間以内の同一施設再入院割合

分母

喘息に関連した原因による 5 歳以上の入院症例数

分子

分母のうち、退院後 30 日間以内に喘息に関連した原因で再入院した症例数

指標群

呼吸器系

意義

治療成績をみるアウトカム指標。 他施設よりも値が特に高い施設では再発予防に向けた慢性期管理を見直す契機になる。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 5 歳以上の症例。
3. このうち、喘息の診断を受けた症例。 主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名の ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれ、かつ以下の標準病名が部分一致（疑い病名は対象外）すれば対象とする

ICD-10 コード	病名
J45\$	喘息
J46\$	喘息発作重積状態

4. 退院から 30 日以内のデータが病院から提出されていない場合は除外する
5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母の症例と施設コード・データ識別番号が一致する別の様式 1 レコードを同定する
2. I) の入院日が分母の退院日より 1 日後(翌日)～30 日後になっており、かつ主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかに上記の ICD-10 コードが該当し、かつ上記の標準病名が部分一致（疑い病名は除く）すれば対象とする。

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 再入院後の入院日数が特に長い症例は分子から外れて、値が低くなる可能性がある。様式 1 データ提出に中断期間があると直前の月は分母がゼロに近くなる。

参考資料

参考値

1. 米国保健社会福祉省(DHHS)では 2010 年全施設平均値として 11.89
<https://healthmeasures.aspe.hhs.gov/measure/8b> (リンク切れ)

参考資料

1. Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI). Diagnosis and management of asthma. Bloomington (MN): Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI); 2010 Jun. 64 p
2. Diagnosis and management of asthma: percentage of discharged patients with asthma who are readmitted to hospital within 30 days of discharge. 2010 Jun. NQMC:006176
3. Sveum R, Bergstrom J, Brottman G, Hanson M, Heiman M, Johns K, Malkiewicz J, Manney S, Moyer L, Myers C, Myers N, O'Brien M, Rethwill M, Schaefer K, Uden D. Diagnosis and management of asthma. Bloomington (MN): Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI); 2012 Jul. 86 p.
4. Bergstrom J, Manney Kurth S, Bruhl E, Heiman M, Kaderabek D, Malkiewicz J, McKenzie M, Moyer L, O'Brien M, Varadarajulu S, Vespa J. Diagnosis and Management of Asthma. Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI); 2016 Dec. 9 p.

基本情報

指標番号
2192

名称
リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率（厚労省）

分母
肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

分子
肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数

指標群
呼吸器系

意義
周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は発生率を下げることに繋がる。

年度
2022,2023,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. 入院時年齢が 15 歳未満の患者を除外する。
3. 別表 1 の危険因子の手術リストに該当する手術名がある患者を抽出する。区分 1 は 15 歳以上の患者（年齢の上限なし）、区分 2 は 40 歳以上の患者を対象とする。
4. 入院後 24 時間以内に死亡した患者、生後 1 週間以内に死亡した新生児、下記臓器移植は対象外とする。

手術コード	手術名	2022	2023	2024
K014	皮膚移植術(生体・培養)	△	○	△
K014-2	皮膚移植術(死体)	△	○	△
K514-4	同種死体肺移植術	△	○	△
K514-6	生体部分肺移植術	△	○	△
K605-2	同種心移植術	△	○	△
K605-4	同種心肺移植術	△	○	△
K697-5	生体部分肝移植術	△	○	△
K697-7	同種死体肝移植術	△	○	△
K709-3	同種死体脾臓移植術	△	○	△

手術コード	手術名	2022	2023	2024
K709-5	同種死体腓肭腎移植術	△	○	△
K709-6	同種死体腓肭島移植術	△	○	△
K716-4	生体部分小腸移植術	△	○	△
K716-6	同種死体小腸移植術	△	○	△
K780	同種死体腎移植術	△	○	△
K780-2	生体腎移植術	△	○	△
K922	造血幹細胞移植	△	○	△

5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母のうち、EF ファイルに当該入院期間中に以下のいずれかに該当する患者を抽出する。

(ア) 以下の算定があった患者

診療行為コード	名称	2022	2023	2024
113006910	肺血栓栓塞症予防管理料	△	○	△

(イ) 抗凝固療法（以下の薬価基準コードの薬剤が用いられたもの）が行われた患者

薬価基準コード 7桁	名称	2022	2023	2024
3332\$	ワルファリンカリウム	△	○	△
3334400\$	ヘパリンカルシウム	△	○	△
3334401\$	ヘパリンナトリウム	△	○	△
3334406\$	エノキサパリンナトリウム	△	○	△
3339001\$	ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩	△	○	△
3339002\$	エドキサバントシル酸塩水和物	△	○	△
3339003\$	リバーロキサバン	△	○	△
3339004\$	アピキサバン	△	○	△
3339400\$	フォンダパリヌクスナトリウム	△	○	△

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 厚労省の示す 2023 年度データによる計測定義では、2023 年度データを利用することになっているが、QIP での計測では、例えば 2023 年 4 月 1 日退院の症例について、2022 年度の EF ファイルなど、他年度の EF ファイルデータも用いる。
2. 分母は入院単位で算出する。入院中に該当する複数の手術の実施がみられても、1 症例を 1 として算出する。

参考資料

参考値

参考資料

別表 1

区分	コード	診療行為名	2022	2023	2024
区分 1	150009410	筋膜切離術	△	○	△
区分 1	150009510	筋膜切開術	△	○	△
区分 1	150009610	筋切離術	△	○	△
区分 1	150009710	股関節内転筋切離術	△	○	△
区分 1	150009810	股関節筋群解離術	△	○	△
区分 1	150009910	筋炎手術（腸腰筋）	△	○	△
区分 1	150010010	筋炎手術（殿筋）	△	○	△
区分 1	150010110	筋炎手術（大腿筋）	△	○	△
区分 1	150011110	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（大腿）	△	○	△
区分 1	150011210	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（下腿）	△	○	△
区分 1	150011410	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（足）	△	○	△
区分 1	150011810	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術（大腿）	△	○	△
区分 1	150011910	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術（下腿）	△	○	△
区分 1	150012110	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術（足）	△	○	△
区分 1	150019210	骨折観血の手術（大腿）	△	○	△
区分 1	150019410	骨折観血の手術（下腿）	△	○	△
区分 1	150019610	骨折観血の手術（膝蓋骨）	△	○	△
区分 1	150019810	骨折観血の手術（足）	△	○	△
区分 1	150020710	骨内異物（挿入物を含む）除去術（大腿）	△	○	△
区分 1	150021110	骨内異物（挿入物を含む）除去術（膝蓋骨）	△	○	△
区分 1	150021310	骨内異物（挿入物を含む）除去術（足）	△	○	△
区分 1	150021610	骨部分切除術（大腿）	△	○	△
区分 1	150021810	骨部分切除術（下腿）	△	○	△
区分 1	150022010	骨部分切除術（膝蓋骨）	△	○	△
区分 1	150022210	骨部分切除術（足）	△	○	△
区分 1	150022710	腐骨摘出術（大腿）	△	○	△
区分 1	150022910	腐骨摘出術（下腿）	△	○	△
区分 1	150023110	腐骨摘出術（膝蓋骨）	△	○	△
区分 1	150024910	骨腫瘍切除術（大腿）	△	○	△
区分 1	150025110	骨腫瘍切除術（下腿）	△	○	△
区分 1	150025510	骨腫瘍切除術（足）	△	○	△
区分 1	150026710	骨悪性腫瘍手術（大腿）	△	○	△
区分 1	150026910	骨悪性腫瘍手術（下腿）	△	○	△
区分 1	150027710	骨切り術（大腿）	△	○	△
区分 1	150027910	骨切り術（下腿）	△	○	△
区分 1	150028110	骨切り術（膝蓋骨）	△	○	△
区分 1	150028310	骨切り術（足）	△	○	△
区分 1	150028810	偽関節手術（大腿）	△	○	△
区分 1	150029010	偽関節手術（下腿）	△	○	△
区分 1	150029210	偽関節手術（膝蓋骨）	△	○	△
区分 1	150029410	偽関節手術（足）	△	○	△

区分	コード	診療行為名	2022	2023	2024
区分 1	150032010	関節切開術（股）	△	○	△
区分 1	150032110	関節切開術（膝）	△	○	△
区分 1	150035310	関節脱臼観血的整復術（股）	△	○	△
区分 1	150035410	関節脱臼観血的整復術（膝）	△	○	△
区分 1	150035810	関節脱臼観血的整復術（足）	△	○	△
区分 1	150036310	関節内異物（挿入物を含む）除去術（股）	△	○	△
区分 1	150036410	関節内異物（挿入物を含む）除去術（膝）	△	○	△
区分 1	150036810	関節内異物（挿入物を含む）除去術（足）	△	○	△
区分 1	150037210	関節滑膜切除術（股）	△	○	△
区分 1	150037310	関節滑膜切除術（膝）	△	○	△
区分 1	150037710	関節滑膜切除術（足）	△	○	△
区分 1	150038350	滑液膜摘出術（膝）	△	○	△
区分 1	150038750	滑液膜摘出術（足）	△	○	△
区分 1	150040910	半月板切除術	△	○	△
区分 1	150041810	関節切除術（股）	△	○	△
区分 1	150041910	関節切除術（膝）	△	○	△
区分 1	150042310	関節切除術（足）	△	○	△
区分 1	150042710	関節内骨折観血の手術（股）	△	○	△
区分 1	150042810	関節内骨折観血の手術（膝）	△	○	△
区分 1	150043210	関節内骨折観血の手術（足）	△	○	△
区分 1	150043510	靱帯断裂縫合術（十字靱帯）	△	○	△
区分 1	150043610	靱帯断裂縫合術（膝側副靱帯）	△	○	△
区分 1	150045410	観血の関節授動術（膝）	△	○	△
区分 1	150045810	観血の関節授動術（足）	△	○	△
区分 1	150046210	観血の関節制動術（股）	△	○	△
区分 1	150046310	観血の関節制動術（膝）	△	○	△
区分 1	150047110	観血の関節固定術（股）	△	○	△
区分 1	150047210	観血の関節固定術（膝）	△	○	△
区分 1	150047610	観血の関節固定術（足）	△	○	△
区分 1	150047910	靱帯断裂形成手術（十字靱帯）	△	○	△
区分 1	150048010	靱帯断裂形成手術（膝側副靱帯）	△	○	△
区分 1	150048310	関節形成手術（股）	△	○	△
区分 1	150048410	関節形成手術（膝）	△	○	△
区分 1	150048810	関節形成手術（足）	△	○	△
区分 1	150049510	人工骨頭挿入術（股）	△	○	△
区分 1	150050010	人工骨頭挿入術（足）	△	○	△
区分 1	150050410	人工関節置換術（股）	△	○	△
区分 1	150050510	人工関節置換術（膝）	△	○	△
区分 1	150050910	人工関節置換術（足）	△	○	△
区分 1	150051610	四肢切断術（大腿）	△	○	△
区分 1	150051710	四肢切断術（下腿）	△	○	△
区分 1	150051810	四肢切断術（足）	△	○	△
区分 1	150052210	四肢関節離断術（股）	△	○	△
区分 1	150052310	四肢関節離断術（膝）	△	○	△
区分 1	150052610	四肢関節離断術（足）	△	○	△
区分 1	150052950	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（股）	△	○	△
区分 1	150053050	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（膝）	△	○	△
区分 1	150053350	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（足）	△	○	△
区分 1	150058810	腸骨窩膿瘍切開術	△	○	△
区分 1	150058910	腸骨窩膿瘍掻爬術	△	○	△
区分 1	150059310	脊椎骨掻爬術	△	○	△
区分 1	150059410	骨盤骨掻爬術	△	○	△
区分 1	150059810	脊椎、骨盤脱臼観血の手術	△	○	△
区分 1	150060210	仙腸関節脱臼観血の手術	△	○	△
区分 1	150060310	恥骨結合離開観血の手術	△	○	△
区分 1	150060810	腸骨翼骨折観血の手術	△	○	△
区分 1	150060910	骨盤骨折観血の手術（腸骨翼及び寛骨臼骨折観血の手術を除く）	△	○	△
区分 1	150061810	脊椎内異物（挿入物）除去術	△	○	△
区分 1	150061910	骨盤内異物（挿入物）除去術	△	○	△
区分 1	150062910	黄色靱帯骨化症手術	△	○	△
区分 1	150063110	椎間板摘出術（前方摘出術）	△	○	△
区分 1	150063210	椎間板摘出術（後方摘出術）	△	○	△
区分 1	150063310	椎間板摘出術（側方摘出術）	△	○	△
区分 1	150063710	脊椎腫瘍切除術	△	○	△
区分 1	150063810	骨盤腫瘍切除術	△	○	△
区分 1	150063910	脊椎悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 1	150064010	骨盤悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 1	150064210	骨盤切断術	△	○	△
区分 1	150064410	脊椎披裂手術（神経処置を伴う）	△	○	△
区分 1	150064510	脊椎披裂手術（その他）	△	○	△
区分 1	150064610	脊椎骨切り術	△	○	△

区分	コード	診療行為名	2022	2023	2024
区分 1	150064710	骨盤骨切り術	△	○	△
区分 1	150064810	臼蓋形成手術	△	○	△
区分 1	150066110	仙腸関節固定術	△	○	△
区分 1	150067210	試験開頭術	△	○	△
区分 1	150067410	減圧開頭術（その他）	△	○	△
区分 1	150067510	脳膿瘍排膿術	△	○	△
区分 1	150067710	耳性頭蓋内合併症手術	△	○	△
区分 1	150067850	耳科の硬脳膜外膿瘍切開術	△	○	△
区分 1	150067910	鼻性頭蓋内合併症手術	△	○	△
区分 1	150068310	脳切截術（開頭）	△	○	△
区分 1	150068410	延髄における脊髄視床路切截術	△	○	△
区分 1	150068510	三叉神経節後線維切截術	△	○	△
区分 1	150068610	視神経管開放術	△	○	△
区分 1	150068710	顔面神経減圧手術（乳様突起経由）	△	○	△
区分 1	150068850	顔面神経管開放術	△	○	△
区分 1	150068910	脳神経手術（開頭）	△	○	△
区分 1	150069050	頭蓋内微小血管減圧術	△	○	△
区分 1	150069110	頭蓋骨腫瘍摘出術	△	○	△
区分 1	150069210	頭皮、頭蓋骨悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 1	150069510	頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜外）	△	○	△
区分 1	150069610	頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜下）	△	○	△
区分 1	150069710	頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）	△	○	△
区分 1	150069850	脳血管塞栓摘出術	△	○	△
区分 1	150069950	脳血管血栓摘出術	△	○	△
区分 1	150070010	脳内異物摘出術	△	○	△
区分 1	150070110	脳膿瘍全摘術	△	○	△
区分 1	150070210	頭蓋内腫瘍摘出術	△	○	△
区分 1	150070310	脳切除術	△	○	△
区分 1	150070510	頭蓋内腫瘍摘出術（松果体部腫瘍）	△	○	△
区分 1	150071010	経鼻的下垂体腫瘍摘出術	△	○	△
区分 1	150071310	脳・脳膜脱手術	△	○	△
区分 1	150072110	頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）	△	○	△
区分 1	150072210	頭蓋骨形成手術（硬膜形成を伴う）	△	○	△
区分 1	150072950	骨形成的片側椎弓切除術と髄核摘出術	△	○	△
区分 2	150121610	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術（乳腺全摘術））	△	○	△
区分 2	150121710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）	△	○	△
区分 2	150121810	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施する）	△	○	△
区分 2	150121910	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術（郭清を併施する））	△	○	△
区分 2	150123810	胸壁悪性腫瘍摘出術（胸壁形成手術を併施）	△	○	△
区分 2	150123910	胸壁悪性腫瘍摘出術（その他）	△	○	△
区分 2	150124150	胸骨悪性腫瘍摘出術（胸壁形成手術を併施）	△	○	△
区分 2	150124710	試験開胸術	△	○	△
区分 2	150127350	試験的開胸開腹術	△	○	△
区分 2	150128310	縦隔腫瘍、胸腺摘出術	△	○	△
区分 2	150128610	縦隔悪性腫瘍手術（単純摘出）	△	○	△
区分 2	150129710	肺切除術（楔状部分切除）	△	○	△
区分 2	150129810	肺切除術（区域切除（1 肺葉に満たない））	△	○	△
区分 2	150129910	肺切除術（肺葉切除）	△	○	△
区分 2	150130010	肺切除術（複合切除（1 肺葉を超える））	△	○	△
区分 2	150130110	肺切除術（1 側肺全摘）	△	○	△
区分 2	150132210	食道縫合術（穿孔、損傷）（開胸手術）	△	○	△
区分 2	150132310	食道縫合術（穿孔、損傷）（開腹手術）	△	○	△
区分 2	150132410	食道周囲膿瘍切開誘導術（開胸手術）	△	○	△
区分 2	150132610	食道周囲膿瘍切開誘導術（その他（頸部手術を含む））	△	○	△
区分 2	150133810	食道切除再建術（頸部、胸部、腹部の操作）	△	○	△
区分 2	150133910	食道切除再建術（胸部、腹部の操作）	△	○	△
区分 2	150134010	食道切除再建術（腹部の操作）	△	○	△
区分 2	150134110	食道悪性腫瘍手術（単に切除のみ）（頸部食道）	△	○	△
区分 2	150134210	食道悪性腫瘍手術（単に切除のみ）（胸部食道）	△	○	△
区分 2	150135110	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（頸部、胸部、腹部の操作）	△	○	△
区分 2	150135210	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（胸部、腹部の操作）	△	○	△
区分 2	150135310	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（腹部の操作）	△	○	△
区分 2	150135510	食道アカラシア形成手術	△	○	△
区分 2	150136510	食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡）	△	○	△
区分 2	150136610	横隔膜縫合術（経胸）	△	○	△
区分 2	150136710	横隔膜縫合術（経腹）	△	○	△
区分 2	150136810	横隔膜縫合術（経胸及び経腹）	△	○	△
区分 2	150136950	横隔膜レラクサチオ手術（経胸）	△	○	△
区分 2	150137050	横隔膜レラクサチオ手術（経腹）	△	○	△
区分 2	150137150	横隔膜レラクサチオ手術（経胸及び経腹）	△	○	△

区分	コード	診療行為名	2022	2023	2024
区分2	150137210	胸腹裂孔ヘルニア手術（経胸）	△	○	△
区分2	150137310	胸腹裂孔ヘルニア手術（経腹）	△	○	△
区分2	150137410	胸腹裂孔ヘルニア手術（経胸及び経腹）	△	○	△
区分2	150137810	後胸骨ヘルニア手術	△	○	△
区分2	150137910	食道裂孔ヘルニア手術（経胸）	△	○	△
区分2	150138010	食道裂孔ヘルニア手術（経腹）	△	○	△
区分2	150138110	食道裂孔ヘルニア手術（経胸及び経腹）	△	○	△
区分2	150138210	心膜縫合術	△	○	△
区分2	150138310	心筋縫合止血術（外傷性）	△	○	△
区分2	150138410	心膜切開術	△	○	△
区分2	150138510	心膜嚢胞、心膜腫瘍切除術	△	○	△
区分2	150160810	急性汎発性腹膜炎手術	△	○	△
区分2	150162310	後腹膜悪性腫瘍手術	△	○	△
区分2	150165210	胃切除術（単純切除術）	△	○	△
区分2	150166110	胃全摘術（単純全摘術）	△	○	△
区分2	150168010	胃切除術（悪性腫瘍手術）	△	○	△
区分2	150168110	胃全摘術（悪性腫瘍手術）	△	○	△
区分2	150169950	胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局するもの（リンパ節郭清を含む））	△	○	△
区分2	150170310	食道下部迷走神経切除術（幹迷切）（胃切除術を併施）	△	○	△
区分2	150171310	胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む）	△	○	△
区分2	150171510	十二指腸空腸吻合術	△	○	△
区分2	150172410	胆嚢摘出術	△	○	△
区分2	150173110	胆管形成手術（胆管切除術を含む）	△	○	△
区分2	150176110	肝内結石摘出術（開腹）	△	○	△
区分2	150176210	肝嚢胞、肝膿瘍摘出術	△	○	△
区分2	150177210	肝内胆管（肝管）胃（腸）吻合術	△	○	△
区分2	150177310	肝内胆管外瘻造設術（開腹）	△	○	△
区分2	150177410	肝内胆管外瘻造設術（経皮経肝）	△	○	△
区分2	150178110	脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術）（脾同時切除）	△	○	△
区分2	150178210	脾体尾部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）	△	○	△
区分2	150178410	脾頭部腫瘍切除術（脾頭十二指腸切除術）	△	○	△
区分2	150178710	脾全摘術	△	○	△
区分2	150179110	脾管空腸吻合術	△	○	△
区分2	150179310	脾嚢胞外瘻造設術（開腹）	△	○	△
区分2	150179710	脾縫合術（部分切除を含む）	△	○	△
区分2	150179810	脾摘出術	△	○	△
区分2	150180010	破裂腸管縫合術	△	○	△
区分2	150180110	腸切開術	△	○	△
区分2	150180210	腸管癒着症手術	△	○	△
区分2	150180350	腸閉塞症手術（腸管癒着症手術）	△	○	△
区分2	150180550	腸閉塞症手術（腸重積症整復術）（観血的）	△	○	△
区分2	150180650	腸閉塞症手術（小腸切除術）（その他）	△	○	△
区分2	150180750	腸閉塞症手術（結腸切除術）（小範囲切除）	△	○	△
区分2	150180850	腸閉塞症手術（結腸切除術）（結腸半側切除）	△	○	△
区分2	150180950	腸閉塞症手術（結腸切除術）（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）	△	○	△
区分2	150181110	腸重積症整復術（観血的）	△	○	△
区分2	150181210	小腸切除術（その他）	△	○	△
区分2	150181310	小腸腫瘍、小腸憩室摘出術（メッケル憩室炎手術を含む）	△	○	△
区分2	150181710	結腸切除術（小範囲切除）	△	○	△
区分2	150181810	結腸切除術（結腸半側切除）	△	○	△
区分2	150181910	結腸切除術（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）	△	○	△
区分2	150183110	結腸腫瘍摘出術（回盲部腫瘍摘出術を含む）	△	○	△
区分2	150183510	結腸ポリープ切除術（開腹）	△	○	△
区分2	150184110	腸吻合術	△	○	△
区分2	150187110	直腸切除・切断術（切除術）	△	○	△
区分2	150187210	直腸切除・切断術（切断術）	△	○	△
区分2	150192810	副腎悪性腫瘍手術	△	○	△
区分2	150193010	腎破裂縫合術	△	○	△
区分2	150193150	腎破裂手術	△	○	△
区分2	150194610	腎部分切除術	△	○	△
区分2	150194810	腎嚢胞切除縮小術	△	○	△
区分2	150195010	腎摘出術	△	○	△
区分2	150195210	腎（尿管）悪性腫瘍手術	△	○	△
区分2	150200610	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わない））	△	○	△
区分2	150209310	前立腺悪性腫瘍手術	△	○	△
区分1	150215110	子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮位置矯正術）	△	○	△
区分1	150215310	子宮脱手術（マンチェスター手術）	△	○	△
区分1	150215410	子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）（腔式、腹式）	△	○	△
区分1	150216010	子宮頸管ポリープ切除術	△	○	△
区分1	150216510	子宮頸部（腔部）切除術	△	○	△

区分	コード	診療行為名	2022	2023	2024
区分 1	150216910	子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	△	○	△
区分 1	150217050	痕跡副角子宮手術（腹式）	△	○	△
区分 1	150217510	子宮全摘術	△	○	△
区分 1	150217610	広靱帯内腫瘍摘出術	△	○	△
区分 1	150217710	子宮悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 1	150219010	奇形子宮形成手術（ストラスマン手術）	△	○	△
区分 1	150219210	腔式卵巣嚢腫内容排除術	△	○	△
区分 1	150219410	子宮付属器癒着剥離術（両側）（開腹）	△	○	△
区分 1	150219650	卵管口切開術（開腹）	△	○	△
区分 1	150219710	卵巣部分切除術（腔式を含む）（開腹）	△	○	△
区分 1	150219850	卵管結紮術（腔式を含む）（両側）（開腹）	△	○	△
区分 1	150220010	子宮付属器腫瘍摘出術（両側）（開腹）	△	○	△
区分 1	150220150	卵管全摘除術（両側）（開腹）	△	○	△
区分 1	150220250	卵管腫瘍全摘除術（両側）（開腹）	△	○	△
区分 1	150220450	子宮卵管留血腫手術（両側）（開腹）	△	○	△
区分 1	150220710	子宮付属器悪性腫瘍手術（両側）	△	○	△
区分 1	150220910	卵管形成手術（卵管・卵巣移植、卵管架橋等）	△	○	△
区分 1	150222110	帝王切開術（緊急帝王切開）	△	○	△
区分 1	150222210	帝王切開術（選択帝王切開）	△	○	△
区分 1	150222810	子宮破裂手術（子宮全摘除を行う）	△	○	△
区分 1	150222910	子宮破裂手術（子宮腔上部切断を行う）	△	○	△
区分 1	150223010	子宮破裂手術（その他）	△	○	△
区分 1	150223110	妊娠子宮摘出術（ボロー手術）	△	○	△
区分 1	150224510	異所性妊娠手術（開腹）	△	○	△
区分 1	150243210	体外式脊椎固定術	△	○	△
区分 1	150243410	脳動脈瘤被包術（1 箇所）	△	○	△
区分 1	150243510	脳動脈瘤被包術（2 箇所以上）	△	○	△
区分 1	150243610	脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭）（1 箇所）	△	○	△
区分 1	150243710	脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭）（2 箇所以上）	△	○	△
区分 1	150243810	脳動脈瘤頸部クリッピング（1 箇所）	△	○	△
区分 1	150243910	脳動脈瘤頸部クリッピング（2 箇所以上）	△	○	△
区分 1	150245310	骨盤内臓全摘術	△	○	△
区分 2	150245410	直腸切除・切断術（低位前方切除術）	△	○	△
区分 2	150245510	副腎腫瘍摘出術（皮質腫瘍）	△	○	△
区分 2	150245610	副腎腫瘍摘出術（髄質腫瘍（褐色細胞腫））	△	○	△
区分 2	150245910	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（尿管 S 状結腸吻合利用で尿路変更を行う））	△	○	△
区分 2	150246010	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸導管利用で尿路変更を行う））	△	○	△
区分 2	150246110	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（代用膀胱利用で尿路変更を行う））	△	○	△
区分 2	150253610	食道腫瘍摘出術（開胸又は開腹手術）	△	○	△
区分 2	150254110	腹腔鏡下胆嚢摘出術	△	○	△
区分 1	150256010	人工関節再置換術（股）	△	○	△
区分 1	150256110	人工関節再置換術（膝）	△	○	△
区分 1	150256510	人工関節再置換術（足）	△	○	△
区分 1	150261910	半月板縫合術	△	○	△
区分 2	150262710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴う））	△	○	△
区分 2	150264410	精巣悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 2	150264510	腹腔鏡下子宮内膜症病巣除去術	△	○	△
区分 1	150264610	子宮付属器癒着剥離術（両側）（腹腔鏡）	△	○	△
区分 1	150264710	卵巣部分切除術（腔式を含む）（腹腔鏡）	△	○	△
区分 1	150264910	異所性妊娠手術（腹腔鏡）	△	○	△
区分 2	150266610	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	△	○	△
区分 1	150267650	卵管結紮術（腔式を含む）（両側）（腹腔鏡）	△	○	△
区分 1	150267750	卵管口切開術（腹腔鏡）	△	○	△
区分 1	150268050	卵管全摘除術（両側）（腹腔鏡）	△	○	△
区分 1	150268150	卵管腫瘍全摘除術（両側）（腹腔鏡）	△	○	△
区分 1	150268250	子宮卵管留血腫手術（両側）（腹腔鏡）	△	○	△
区分 1	150270010	子宮付属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	△	○	△
区分 2	150270150	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	△	○	△
区分 2	150270750	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	△	○	△
区分 2	150270850	胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術	△	○	△
区分 2	150271550	腹腔鏡下腸管癒着剥離術	△	○	△
区分 2	150271850	腹腔鏡下脾摘出術	△	○	△
区分 2	150271950	腹腔鏡下小腸切除術（その他）	△	○	△
区分 1	150272250	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	△	○	△
区分 1	150273310	椎間板摘出術（経皮的髄核摘出術）	△	○	△
区分 2	150274710	食道腫瘍摘出術（腹腔鏡下）	△	○	△
区分 2	150274810	内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術）	△	○	△
区分 2	150275110	腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術	△	○	△
区分 2	150277410	膝体尾部腫瘍切除術（周辺臓器の合併切除を伴う腫瘍切除術）	△	○	△
区分 2	150277510	膝体尾部腫瘍切除術（血行再建を伴う腫瘍切除術）	△	○	△

区分	コード	診療行為名	2022	2023	2024
区分 2	150277710	腹腔鏡下肝嚢胞切開術	△	○	△
区分 2	150277810	腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	△	○	△
区分 1	150278510	子宮筋腫摘出（核出）術（腔式）	△	○	△
区分 2	150279210	腹腔鏡下副腎摘出術	△	○	△
区分 1	150282510	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（前方椎体固定）	△	○	△
区分 1	150282610	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）	△	○	△
区分 1	150282750	脊椎側彎症手術（固定術）	△	○	△
区分 1	150284510	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	△	○	△
区分 2	150288310	食道腫瘍摘出術（縦隔鏡下）	△	○	△
区分 1	150291010	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	△	○	△
区分 1	150291110	顕微鏡使用によるてんかん手術（焦点切除術）	△	○	△
区分 1	150291210	顕微鏡使用によるてんかん手術（側頭葉切除術）	△	○	△
区分 1	150291310	顕微鏡使用によるてんかん手術（脳梁離断術）	△	○	△
区分 1	150294110	腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術	△	○	△
区分 2	150296310	腹腔鏡下食道アカラシア形成手術	△	○	△
区分 2	150296910	膝頭部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）	△	○	△
区分 2	150297010	膝頭部腫瘍切除術（十二指腸温存膝頭切除術）	△	○	△
区分 2	150297110	膝頭部腫瘍切除術（周辺臓器の合併切除を伴う腫瘍切除術）	△	○	△
区分 2	150297210	膝頭部腫瘍切除術（血行再建を伴う腫瘍切除術）	△	○	△
区分 2	150297310	小腸切除術（複雑）	△	○	△
区分 2	150297410	結腸憩室摘出術	△	○	△
区分 2	150297510	直腸切除・切断術（超低位前方切除術）	△	○	△
区分 2	150298750	胸腔鏡下肺縫縮術	△	○	△
区分 2	150299350	腸閉塞症手術（小腸切除術）（複雑）	△	○	△
区分 1	150299850	腹腔鏡下多嚢胞性卵巣焼灼術	△	○	△
区分 1	150300310	人工関節抜去術（股）	△	○	△
区分 1	150300410	人工関節抜去術（膝）	△	○	△
区分 2	150303110	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））	△	○	△
区分 1	150308510	股関節周囲筋腱解離術（変形性股関節症）	△	○	△
区分 1	150308610	四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術（軀幹）	△	○	△
区分 1	150308710	四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術（軀幹）	△	○	△
区分 1	150308810	大腿骨頭回転骨切り術	△	○	△
区分 1	150308910	大腿骨近位部（転子間を含む）骨切り術	△	○	△
区分 1	150309510	関節鏡下関節内異物（挿入物を含む）除去術（膝）	△	○	△
区分 1	150309910	関節鏡下関節内異物（挿入物を含む）除去術（足）	△	○	△
区分 1	150310310	関節鏡下関節滑膜切除術（股）	△	○	△
区分 1	150310410	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	△	○	△
区分 1	150310810	関節鏡下関節滑膜切除術（足）	△	○	△
区分 1	150311210	関節鏡下滑液膜摘出術（股）	△	○	△
区分 1	150311310	関節鏡下滑液膜摘出術（膝）	△	○	△
区分 1	150313110	関節鏡下半月板切除術	△	○	△
区分 1	150313210	関節鏡下半月板縫合術	△	○	△
区分 1	150313310	関節鏡下靱帯断裂縫合術（十字靱帯）	△	○	△
区分 1	150313710	関節鏡下靱帯断裂形成手術（十字靱帯）	△	○	△
区分 1	150313810	関節鏡下靱帯断裂形成手術（膝側副靱帯）	△	○	△
区分 1	150314210	内視鏡下椎弓切除術	△	○	△
区分 1	150314410	内視鏡下椎間板摘出（切除）術（後方摘出術）	△	○	△
区分 1	150314510	寛骨臼移動術	△	○	△
区分 1	150314610	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）	△	○	△
区分 1	150314710	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（前方後方同時固定）	△	○	△
区分 1	150314810	内視鏡下脊椎固定術（胸椎又は腰椎前方固定）	△	○	△
区分 2	150316510	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））	△	○	△
区分 2	150317110	肺切除術（気管支形成を伴う肺切除）	△	○	△
区分 2	150317710	食道腫瘍摘出術（胸腔鏡下）	△	○	△
区分 2	150323410	腹腔鏡下胃切除術（単純切除術）	△	○	△
区分 2	150323510	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	△	○	△
区分 2	150323710	腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）	△	○	△
区分 2	150324010	胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（葉以上）を伴う）	△	○	△
区分 2	150324110	胆嚢悪性腫瘍手術（膝頭十二指腸切除を伴う）	△	○	△
区分 2	150324210	胆嚢悪性腫瘍手術（膝頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴う）	△	○	△
区分 2	150324910	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	△	○	△
区分 2	150325210	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	△	○	△
区分 2	150325710	腹腔鏡下腎部分切除術	△	○	△
区分 2	150325810	腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術	△	○	△
区分 2	150325910	腹腔鏡下腎摘出術	△	○	△
区分 2	150326010	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 2	150326110	腹腔鏡下腎盂形成手術	△	○	△
区分 2	150326510	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 1	150327210	腹腔鏡下広靱帯内腫瘍摘出術	△	○	△
区分 1	150335610	減圧開頭術（キアリ奇形、脊髄空洞症）	△	○	△

区分	コード	診療行為名	2022	2023	2024
区分 1	150335810	頭蓋骨形成手術（骨移動を伴う）	△	○	△
区分 2	150336810	内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	△	○	△
区分 2	150337210	噴門側胃切除術（単純切除術）	△	○	△
区分 2	150337310	噴門側胃切除術（悪性腫瘍切除術）	△	○	△
区分 2	150337710	腹腔鏡下結腸切除術（全切除、亜全切除）	△	○	△
区分 2	150337810	腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）	△	○	△
区分 2	150337910	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）	△	○	△
区分 2	150338110	腹腔鏡下小切開副腎摘出術	△	○	△
区分 2	150338310	腹腔鏡下小切開腎摘出術	△	○	△
区分 2	150338410	腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 2	150338810	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 1	150343910	脊椎側彎症手術（矯正術）（初回挿入）	△	○	△
区分 1	150344010	脊椎側彎症手術（矯正術）（交換術）	△	○	△
区分 1	150344110	脊椎側彎症手術（矯正術）（伸展術）	△	○	△
区分 1	150344250	脊椎側彎症手術（矯正術）（交換術）（胸郭変形矯正用材料使用）	△	○	△
区分 2	150346310	食道空置バイパス作成術	△	○	△
区分 2	150347910	肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建なし）	△	○	△
区分 2	150348110	腹腔鏡下肝切除術（外側区域切除）	△	○	△
区分 2	150348410	脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術）（脾温存）	△	○	△
区分 1	150352210	観血の整復固定術（インプラント周囲骨折）（大腿）	△	○	△
区分 1	150352410	観血の整復固定術（インプラント周囲骨折）（下腿）	△	○	△
区分 1	150352610	観血の整復固定術（インプラント周囲骨折）（足）	△	○	△
区分 1	150353310	関節鏡下関節内骨折観血の手術（股）	△	○	△
区分 1	150353410	関節鏡下関節内骨折観血の手術（膝）	△	○	△
区分 1	150353810	関節鏡下関節内骨折観血の手術（足）	△	○	△
区分 1	150354110	関節鏡下靱帯断裂形成手術（内側膝蓋大腿靱帯）	△	○	△
区分 1	150354810	腫瘍脊椎骨全摘術	△	○	△
区分 1	150354910	脊椎制動術	△	○	△
区分 1	150355010	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	△	○	△
区分 1	150355110	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	△	○	△
区分 1	150355210	経皮的椎体形成術	△	○	△
区分 2	150356910	胸腔鏡下試験開胸術	△	○	△
区分 2	150357110	膿胸腔有茎大網充填術	△	○	△
区分 2	150357210	胸腔鏡下胸管結紮術（乳糜胸手術）	△	○	△
区分 2	150357310	胸腔鏡下縦隔切開術	△	○	△
区分 2	150357410	縦隔悪性腫瘍手術（広汎摘出）	△	○	△
区分 2	150357810	肺悪性腫瘍手術（部分切除）	△	○	△
区分 2	150357910	肺悪性腫瘍手術（区域切除）	△	○	△
区分 2	150358010	肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	△	○	△
区分 2	150358110	肺悪性腫瘍手術（肺全摘）	△	○	△
区分 2	150358210	肺悪性腫瘍手術（隣接臓器合併切除を伴う肺切除）	△	○	△
区分 2	150358310	肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	△	○	△
区分 2	150358410	肺悪性腫瘍手術（気管分岐部切除を伴う肺切除）	△	○	△
区分 2	150358510	肺悪性腫瘍手術（気管分岐部再建を伴う肺切除）	△	○	△
区分 2	150358610	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	△	○	△
区分 2	150358710	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	△	○	△
区分 2	150358810	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	△	○	△
区分 2	150359110	胸腔鏡下（腹腔鏡下を含む）横隔膜縫合術	△	○	△
区分 2	150361610	腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術	△	○	△
区分 2	150361710	腹腔鏡下大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術	△	○	△
区分 2	150362010	腹腔鏡下胃腸吻合術	△	○	△
区分 2	150362210	胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（亜区域切除以上））	△	○	△
区分 2	150362710	肝切除術（亜区域切除）	△	○	△
区分 2	150362810	肝切除術（外側区域切除）	△	○	△
区分 2	150362910	肝切除術（1区域切除（外側区域切除を除く））	△	○	△
区分 2	150363010	肝切除術（2区域切除）	△	○	△
区分 2	150363110	肝切除術（3区域切除以上）	△	○	△
区分 2	150363210	肝切除術（2区域切除以上で血行再建）	△	○	△
区分 2	150363710	腹腔鏡下小腸切除術（複雑）	△	○	△
区分 2	150363810	全結腸・直腸切除・肛門吻合術	△	○	△
区分 2	150364210	腹腔鏡下腸閉鎖症手術	△	○	△
区分 2	150364610	腹腔鏡下直腸脱手術	△	○	△
区分 2	150364710	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	△	○	△
区分 2	150365010	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	△	○	△
区分 2	150365110	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	△	○	△
区分 2	150365310	腹腔鏡下膀胱内手術	△	○	△
区分 2	150365710	経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術（ホルミウムレーザー等使用）	△	○	△
区分 1	150366010	腹腔鏡下子宮腔上部切断術	△	○	△
区分 1	150366110	腹腔鏡下卵管形成術	△	○	△
区分 2	150366910	腹腔鏡下食道静脈瘤手術（胃上部血行遮断術）	△	○	△

基本情報

指標番号
2002

名称
急性心筋梗塞患者における β ブロッカー投与割合

分母
急性心筋梗塞で入院した症例数

分子
分母のうち、 β ブロッカーが投与された症例数

指標群
循環器系疾患 薬剤

意義
治療内容をみるプロセス指標

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする。
2. このうち、急性心筋梗塞の診断を受けた症例。 資源を最も投入した傷病名と主傷病名の ICD-10 コードが下記である症例

ICD-10 コード	病名
I21\$	急性心筋梗塞

3. このうち、退院日が入院後 3 日以降である症例。（入院日を 1 とする）。
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. β ブロッカーが処方されている症例。 F ファイル、もしくは EF ファイルにおいて、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
2123001	アセブトロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	
2123002	アルプレノロール塩酸塩	○	○	○	○	○			
2123004	オクスプレノロール塩酸塩	○	○						
2123005	カルテオロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2123006	ブフェトロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2123008	プロプラノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2123009	ピンドロロール	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
2123011	アテノロール	○	○	○	○	○	○	○	○
2123014	アロチノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2123015	ナドロール	○	○	○	○	○	○	○	○
2123016	ビソプロロールフマル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2123402	プロプラノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2123404	ランジオロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2123405	エスモロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149009	ラベタロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149010	メトプロロール酒石酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149011	ピンドロール	○	○	○	○	○	○	○	
2149014	プロプラノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149018	アモスラロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149021	ニブラジロール	○	○	○	○	○	○	○	○
2149025	カルテオロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149028	チリソロール塩酸塩	○	○	○					
2149029	セリプロロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149031	ベタキシソロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149032	カルベジロール	○	○	○	○	○	○	○	
2149033	ボピンドロール マロン酸塩	○							
2149036	ベバントロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149700	ビソプロロール		○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- アレルギーなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
- アセブトロール塩酸塩[薬価基準コード 7 桁:2123001]とピンドロール[薬価基準コード 7 桁:2149011]は、2022 年 3 月 31 日に廃止

参考資料

参考値

1. QIP の過去の指標では 40 %前後。

参考資料

1. Specifications manual for national hospital inpatient quality measures, version 3.1a. Centers for Medicare & Medicaid Services (CMS), The Joint Commission; 2010 Apr 1. various p. Acute myocardial infarction: percent of patients who are prescribed a beta-blocker at hospital discharge. 2010 Apr. NQMC:006064
2. 一般社団法人日本循環器学会,急性冠症候群ガイドライン（2018 年改訂版）

基本情報

指標番号
2003

名称
急性心筋梗塞患者における ACE 阻害剤もしくはアンギオテンシン II 受容体阻害剤の投与割合

分母
急性心筋梗塞で入院した症例数

分子
分母のうち、ACE 阻害剤（ACEI）もしくはアンギオテンシン II 受容体阻害剤（ARB）が投与された症例数

指標群
循環器系疾患 薬剤

意義
治療内容をみるプロセス指標

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする。
2. このうち、急性心筋梗塞の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名と主傷病名の ICD-10 コードが下記である症例

ICD-10 コード	病名
I21\$	急性心筋梗塞

3. このうち、退院日が入院後 3 日以降である症例。（入院日を 1 とする）。
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. ACEI もしくは ARB が処方されている症例。F ファイル、もしくは EF ファイルにおいて、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
2144001	カプトプリル	○	○	○	○	○	○	○	○
2144002	エナラプリルマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2144003	アラセプリル	○	○	○	○	○	○	○	○
2144004	デラプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2144005	シラザプリル水和物	○	○	○	○	○	○		
2144006	リシノプリル水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
2144007	ベナゼプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
2144008	イミダプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2144009	テモカプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2144010	キナプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	
2144011	トランドラプリル	○	○	○	○	○	○	○	○
2144012	ペリンドプリルエルブミン	○	○	○	○	○	○	○	○
2149039	ロサルタンカリウム	○	○	○	○	○	○	○	○
2149040	カンデサルタンシレキセチル	○	○	○	○	○	○	○	○
2149041	バルサルタン	○	○	○	○	○	○	○	○
2149042	テルミサルタン	○	○	○	○	○	○	○	○
2149044	オルメサルタンメドキシミル	○	○	○	○	○	○	○	○
2149046	イルベサルタン	○	○	○	○	○	○	○	○
2149047	アリスキレンフマル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149048	アジルサルタン		○	○	○	○	○	○	○
2149110	ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○	○	○
2149111	カンデサルタンシレキセチル・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○	○	○
2149112	バルサルタン・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○	○	○
2149113	テルミサルタン・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○	○	○
2149114	バルサルタン・アムロジピンベシル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149115	オルメサルタンメドキシミル・アゼルニジピン	○	○	○	○	○	○	○	○
2149116	カンデサルタンシレキセチル・アムロジピンベシル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149117	テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2149118	イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩		○	○	○	○	○	○	○
2149119	イルベサルタン・トリクロルメチアジド			○	○	○	○	○	○
2149120	バルサルタン・シルニジピン			○	○	○	○	○	○
2149121	アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩			○	○	○	○	○	○
2149122	テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩・ヒドロクロロチアジド				○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. アレルギーや左室機能不全ではないなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
2. キナプリル塩酸塩[薬価基準コード 7 桁:2144010]は 2022 年 3 月 31 日に廃止

参考資料

参考値

1. アメリカにおいては 90%前後。QIP の過去の指標でも 90

参考資料

1. Specifications manual for national hospital inpatient quality measures, version 3.1a. Centers for Medicare & Medicaid Services (CMS), The Joint Commission; 2010 Apr 1. various p
2. 一般社団法人日本循環器学会,急性冠症候群ガイドライン (2018 年改訂版)

基本情報

指標番号

2077

名称

急性心筋梗塞(再発性心筋梗塞含む)患者に対する心臓リハビリ実施割合

分母

急性心筋梗塞(再発性心筋梗塞含む)で入院した症例数

分子

分母のうち、心臓リハビリが実施された症例数

指標群

循環器系疾患

意義

プロセス指標

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より求めた入院時年齢が 18 歳以上の症例。
3. このうち、急性心筋梗塞（再発性心筋梗塞含む）の診断を受けた症例。主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名の ICD-10 コードが下記のいずれかに該当する（疑い病名は除く）※

ICD-10 コード	病名
I21\$	急性心筋梗塞
I22\$	再発性心筋梗塞

4. 在院日数が 90 日以上 の症例は除く。
5. 治験例は除く
6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 心大血管疾患リハビリテーションを受けた症例。入院中に末尾の一覧に記載されたりハ実施のレセ電コードのいずれかが算定されている症例

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 適応外の患者もあり、100
2. 保険診療請求上、B001 の 17 に掲げる慢性疼痛疾患管理料を算定する患者についてはリハビリテーション料を算定しないことになっているが、月 1 回の 170 点算定の管理料よりも、リハビリの方を算定することが多いと思われる。
3. 平成 24 年（2012 年）の診療報酬改定で、リハビリの標榜がなくても、循環器内科・心臓血管外科だけで算定が取れることが明らかになった（疑義解釈）。2016 年からリハビリ算定要件の 1 つである、施設基準が緩和した。測定結果としても指標値は上昇傾向にある。

参考資料

参考値

1. 運動療法を中心とした心臓リハビリテーションは虚血性心疾患の二次予防に有効であるとする報告は多くなされている。1,2
2. 慢性心不全に対する運動療法単独無作為比較試験のメタアナリシスでは、虚血性慢性心不全において、運動療法自体が生命予後改善効果と入院率の減少をもたらすと報告されている。3,4,5
3. 心筋梗塞後の包括的心血管疾患リハビリテーション(運動療法中心)により、心筋梗塞の再発減少、心臓血管死および全死亡の減少（20～25%）が報告されている。3,6,7

参考資料

1. Balady GJ, Williams MA, Ades PA, et al. Core Components of Cardiac Rehabilitation/Secondary Prevention Programs: 2007 Update: A Scientific Statement From the American Heart Association Exercise, Cardiac Rehabilitation, and Prevention Committee, the Council on Clinical Cardiology; the Councils on Cardiovascular Nursing, Epidemiology and Prevention, and Nutrition, Physical Activity, and Metabolism; and the American Association of Cardiovascular and Pulmonary Rehabilitation. *Circulation* 2007; 115: 2675-2682.
2. Werf FV, Bax J, Betriu A, et al. Management of acute myocardial infarction in patients presenting with persistent ST-segment elevation: The Task Force on the management of ST-segment elevation acute myocardial infarction of the European Society of Cardiology. *Eur Heart J* 2008; 29: 2909-2945.
3. 循環器病の診断と治療に関するガイドライン. 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン（2007 年改訂版）. http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2007_nohara_h.pdf
4. (2013 年 4 月 24 日アクセス可能)
5. Belardinelli R, Georgion D, Giovanni C, Purcaro A: Randomized controlled trial of long term moderate training in chronic heart failure. *Circulation* 1999; 99: 1173-1182.
6. Piepoli, MF, Davos, C, Francis, DP, Coats, AJ: Exercise training meta-analysis of trials in patients with chronic heart failure (ExTraMATCH). *BMJ* 2004; 328: 189.
7. Oldridge NB, Guyatt GH, Fischer ME, Rimm AA: Cardiac rehabilitation after myocardial infarction. Combined experience of randomized clinical trials. *JAMA* 1988; 260: 945-950 (A)

8. O'Connor GT, Buring JE, Yusuf S, Goldhaber SZ, Olmstead EM, Paffenberger RS, Hennenkens CH: An overview of randomized trials of rehabilitation with exercise after myocardial infarction. Circulation 1989; 80: 234-244
9. 日本循環器学会, 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン (2021 年改訂版)

・リハビリテーションレセプト電算コード一覧

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180027410	心大血管疾患リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027510	心大血管疾患リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180744210	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(理学療法士による場合)								○
180744310	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(作業療法士による場合)								○
180744410	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(医師による場合)								○
180744510	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(看護師による場合)								○
180744610	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(集団療法による場合)								○
180744710	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)								○
180744810	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(作業療法士による場合)								○
180744910	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(医師による場合)								○
180745010	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(看護師による場合)								○
180745110	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(集団療法による場合)								○

基本情報

指標番号

2078

名称

急性または慢性心不全患者に対する心臓リハビリ実施割合

分母

急性または慢性心不全で入院した症例数

分子

分母のうち、心臓リハビリが実施された症例数

指標群

循環器系疾患

意義

プロセス指標

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より求めた入院時年齢が 18 歳以上の症例。
3. このうち、急性・慢性心不全の治療目的で入院した症例。医療資源を最も投入した傷病名の ICD-10 コードが I50\$（疑い病名は除く）※かつ、病名付加コードが 30100（慢性）または 30101（急性）または 30102(慢性の急性増悪)の 3 つのうちいずれかがコードされている

ICD-10 コード	病名
I50\$	心不全

4. 在院日数が 90 日以上 の症例は除く。
5. 治験例は除く
6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 心大血管疾患リハビリテーションを受けた症例。入院中に末尾の一覧に記載されたりハ実施のレセ電コードのいずれかが算定されている症例

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 適応外の患者もあり、100
2. 保険診療請求上、B001 の 17 に掲げる慢性疼痛疾患管理料を算定する患者についてはリハビリテーション料を算定しないことになっているが、月 1 回の 170 点算定の管理料よりも、リハビリの方を算定することが多いと思われる。
3. 平成 24 年（2012 年）の診療報酬改定で、リハビリの標榜がなくても、循環器内科・心臓血管外科だけで算定が取れることが明らかになった（疑義解釈）。2016 年からリハビリ算定要件の 1 つである、施設基準が緩和した。測定結果としても指標値は上昇傾向にある。

参考資料

参考値

1. 運動療法を中心とした心臓リハビリテーションは虚血性心疾患の二次予防に有効であるとする報告は多くなされている。1,2
2. 慢性心不全に対する運動療法単独無作為比較試験のメタアナリシスでは、虚血性慢性心不全において、運動療法自体が生命予後改善効果と入院率の減少をもたらすと報告されている。3,4,5
3. 心筋梗塞後の包括的心血管疾患リハビリテーション(運動療法中心)により、心筋梗塞の再発減少、心臓血管死および全死亡の減少（20～25%）が報告されている。3,6,7

参考資料

1. Balady GJ, Williams MA, Ades PA, et al. Core Components of Cardiac Rehabilitation/Secondary Prevention Programs: 2007 Update: A Scientific Statement From the American Heart Association Exercise, Cardiac Rehabilitation, and Prevention Committee, the Council on Clinical Cardiology; the Councils on Cardiovascular Nursing, Epidemiology and Prevention, and Nutrition, Physical Activity, and Metabolism; and the American Association of Cardiovascular and Pulmonary Rehabilitation. *Circulation* 2007; 115: 2675-2682.
2. Werf FV, Bax J, Betriu A, et al. Management of acute myocardial infarction in patients presenting with persistent ST-segment elevation: The Task Force on the management of ST-segment elevation acute myocardial infarction of the European Society of Cardiology. *Eur Heart J* 2008; 29: 2909-2945.
3. 循環器病の診断と治療に関するガイドライン. 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン（2007 年改訂版）. http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2007_nohara_h.pdf
4. (2013 年 4 月 24 日アクセス可能)
5. Belardinelli R, Georgion D, Giovanni C, Purcaro A: Randomized controlled trial of long term moderate training in chronic heart failure. *Circulation* 1999; 99: 1173-1182.
6. Piepoli, MF, Davos, C, Francis, DP, Coats, AJ: Exercise training meta-analysis of trials in patients with chronic heart failure (ExTraMATCH). *BMJ* 2004; 328: 189.
7. Oldridge NB, Guyatt GH, Fischer ME, Rimm AA: Cardiac rehabilitation after myocardial infarction. Combined experience of randomized clinical trials. *JAMA* 1988; 260: 945-950 (A)

8. O'Connor GT, Buring JE, Yusuf S, Goldhaber SZ, Olmstead EM, Paffenberger RS, Hennenkens CH: An overview of randomized trials of rehabilitation with exercise after myocardial infarction. Circulation 1989; 80: 234-244
9. 循環器病の診断と治療に関するガイドライン. 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン (2012 年改訂版)
10. 日本循環器学会, 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン (2021 年改訂版)

リハビリテーションレセプト電算コード一覧

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180027410	心大血管疾患リハビリテーション料(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
180027510	心大血管疾患リハビリテーション料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
180744210	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(理学療法士による場合)								○
180744310	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(作業療法士による場合)								○
180744410	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(医師による場合)								○
180744510	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(看護師による場合)								○
180744610	心大血管疾患リハビリテーション料(1)(集団療法による場合)								○
180744710	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)								○
180744810	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(作業療法士による場合)								○
180744910	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(医師による場合)								○
180745010	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(看護師による場合)								○
180745110	心大血管疾患リハビリテーション料(2)(集団療法による場合)								○

基本情報

指標番号

2126

名称

胆管炎・急性胆嚢炎に対する入院 2 日以内の超音波検査実施割合

分母

胆管炎・急性胆嚢炎で入院した症例

分子

分母のうち、入院日から 2 日以内に超音波検査が実施された症例

指標群

消化器系

意義

急性胆嚢炎の治療方針の決定のため重要である（プロセス指標）

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、胆管炎もしくは急性胆嚢炎で入院した症例。入院の契機となった傷病名に下記の ICD-10 コードが該当すれば対象とする

ICD-10 コード	病名
K800	急性胆のう<嚢>炎を伴う胆のう<嚢>結石
K803	(総)胆管結石性胆管炎
K810	急性胆のう<嚢>炎
K830	胆管炎

分子の定義

1. 入院日から 2 日以内に腹部超音波検査を受けた症例。EF ファイルで入院日または入院日翌日に下記が請求されている症例

レセ電コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
160072210	超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）	○	○	○	○	○	○	○	○
160072110	超音波検査（Aモード法）	○	○	○	○	○	○	○	○
160072450	超音波検査（心臓超音波検査以外）（断層撮影法とMモード法）	○	○	○	○	○	○	○	○
160072750	超音波検査（心臓超音波検査以外）（Mモード法）	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 急性胆嚢炎において、超音波検査は重症度の評価、診療方針の決定に必須の検査とされている。
2. 胆管炎は急性胆管炎症例に限定したいが、ICD10 コードや病名からの絞りこみが困難のため、慢性胆管炎症例が一部含まれる。

参考資料

参考値

参考資料

1. 科学的根拠に基づく急性胆管炎・胆嚢炎の診療ガイドライン. 急性胆道炎の診療ガイドライン作成出版委員会 編 2005
2. TG18 新基準掲載-急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン 2018 急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン改訂出版委員会

基本情報

指標番号
2046

名称
大腿骨頸部骨折における早期リハビリ開始率

分母
大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた症例

分子
分母のうち、大腿骨頸部手術後 3 日以内にリハビリを実施した症例

指標群
整形外科

意義
機能回復においてリハビリを早期に始めることが重要である。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする。
2. このうち、大腿骨頸部骨折の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名の ICD-10 コードが下記に含まれる症例

ICD-10 コード	病名
S7200	大腿骨頸部骨折 閉鎖性
S7201	大腿骨頸部骨折 開放性

3. このうち、大腿骨頸部骨折に対する手術が行われている症例。手術 1 の K コードが下記に含まれる症例。

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
K0441	骨折非観血的整復術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○	○
K046-21	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの） 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○	○
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○	○
K0611	関節脱臼非観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○	○	○
K0631	関節脱臼観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○	○	○
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股	○	○	○	○	○	○	○	○

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
K083	鋼線等による直達牽引（初日。観血的に行った場合の手技料を含む。） （1 局所につき）	○	○	○	○	○	○	○	○

4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 運動器リハビリテーションが行われている症例。E/F ファイルにおいて、下記の処置が行われている症例。

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180027810	運動器リハビリテーション料（2）	○	○	○	○	○	○	○	○
180027910	運動器リハビリテーション料（3）	○	○	○	○	○	○	○	○
180032710	運動器リハビリテーション料（1）	○	○	○	○	○	○	○	○
180034510	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）		○	○					
180034510	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院外）				○	○	○		
180034610	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）		○	○					
180034610	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院外）				○	○	○		
180034710	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）		○	○					
180034710	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院外）				○	○	○		
180044030	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）（施設基準不適合）			○					
180044030	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）基準不適合				○	○	○		
180044130	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）（施設基準不適合）			○					
180044130	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）基準不適合				○	○	○		
180044230	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）（施設基準不適合）			○					
180044230	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）基準不適合				○	○	○		
180045810	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院）				○	○	○	○	○
180045910	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院）				○	○	○	○	○
180046010	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院）				○	○	○	○	○
180052730	運動器リハビリテーション料（1） （リ減）				○	○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180052830	運動器リハビリテーション料（2） （リ減）				○	○	○	○	○
180052930	運動器リハビリテーション料（3） （リ減）				○	○	○	○	○
180053030	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院）（リ減）				○	○	○	○	○
180053130	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院外）（リ減）				○	○	○		
180053230	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院）（リ減）				○	○	○	○	○
180053330	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院外）（リ減）				○	○	○		
180053430	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院）（リ減）				○	○	○	○	○
180053530	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院外）（リ減）				○	○	○		
180053630	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）基準不適合・リ減				○	○	○		
180053730	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）基準不適合・リ減				○	○	○		
180053830	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）基準不適合・リ減				○	○	○		
180755710	運動器リハビリテーション料(1)(理 学療法士による場合)								○
180755810	運動器リハビリテーション料(1)(作 業療法士による場合)								○
180755910	運動器リハビリテーション料(1)(医 師による場合)								○
180756010	運動器リハビリテーション料(2)(理 学療法士による場合)								○
180756110	運動器リハビリテーション料(2)(作 業療法士による場合)								○
180756210	運動器リハビリテーション料(2)(医 師による場合)								○
180756310	運動器リハビリテーション料(3)(理 学療法士による場合)								○
180756410	運動器リハビリテーション料(3)(作 業療法士による場合)								○
180756510	運動器リハビリテーション料(3)(医 師による場合)								○
180756610	運動器リハビリテーション料(3)(イ からハ以外)								○
180756730	運動器リハビリテーション料(1)(理 学療法士による場合)(リ減)								○
180756830	運動器リハビリテーション料(1)(作 業療法士による場合)(リ減)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180756930	運動器リハビリテーション料(1)(医師による場合)(リ減)								○
180757030	運動器リハビリテーション料(2)(理学療法士による場合)(リ減)								○
180757130	運動器リハビリテーション料(2)(作業療法士による場合)(リ減)								○
180757230	運動器リハビリテーション料(2)(医師による場合)(リ減)								○
180757330	運動器リハビリテーション料(3)(理学療法士による場合)								○
180757430	運動器リハビリテーション料(3)(作業療法士による場合)								○
180757530	運動器リハビリテーション料(3)(医師による場合)								○
180757630	運動器リハビリテーション料(3)(イからハ以外)								○
180757710	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(理学)								○
180757810	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(作業)								○
180757910	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(医師)								○
180758010	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(理学)								○
180758110	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(作業)								○
180758210	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(医師)								○
180758310	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(理学)								○
180758410	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(作業)								○
180758510	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(医師)								○
180758610	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(1 から 3 以外)								○
180758730	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(理学)(リ減)								○
180758830	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(作業)(リ減)								○
180758930	運動器リハビリテーション料(1)(要介護)(医師)(リ減)								○
180759030	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(理学)(リ減)								○
180759130	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(作業)(リ減)								○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
180759230	運動器リハビリテーション料(2)(要介護)(医師)(リ減)								○
180759330	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(理学)(リ減)								○
180759430	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(作業)(リ減)								○
180759530	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)(医師)(リ減)								○
180759630	運動器リハビリテーション料(3)(要介護)1 から 3 以外・リ減								○

- このうち、処置が手術日以後 3 日以内に実施されている症例。E/F ファイルの実施年月日が手術 1 の手術日後 3 日以内である症例。

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- リハビリの禁忌患者など、対象患者が全員早期リハビリテーションの適応になるとは限らない。

参考資料

参考値

参考資料

- 日本整形外科学会, 日本骨折治療学会. 大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン 改訂第 2 版. 南江堂. 2011
- 日本整形外科学会, 日本骨折治療学会. 大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン 改訂第 3 版. 南江堂. 2021

基本情報

指標番号

2166

名称

大腿骨頸部骨折症例に対する地域連携の実施割合

分母

大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた症例

分子

分母のうち、地域連携に関する算定のある症例

指標群

整形外科

意義

地域連携実績を評価する。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする。
2. このうち、大腿骨頸部骨折の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名の ICD-10 コードが下記に含まれる症例

ICD-10 コード	病名
S7200	大腿骨頸部骨折 閉鎖性
S7201	大腿骨頸部骨折 開放性

3. このうち、大腿骨頸部骨折に対する手術が行われている症例。手術 1 の K コードが下記に含まれる症例。

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
K0441	骨折非観血的整復術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○	○
K046-21	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの） 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○	○
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○	○
K0611	関節脱臼非観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○	○	○
K0631	関節脱臼観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○	○	○
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股	○	○	○	○	○	○	○	○

K083	鋼線等による直達牽引（初日。観血的に行った場合の手技料を含む。）（1局所につき）	○	○	○	○	○	○	○	○
------	--	---	---	---	---	---	---	---	---

4. このうち、退院時転帰が死亡ではないもの。退院時転帰の値として以下のいずれかが入力されている症例を除外する

退院時転帰	説明
6	最も医療資源を投入した傷病による死亡
7	最も医療資源を投入した傷病以外による死亡

5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 地域連携に関する算定がある症例

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190192870	地域連携診療計画加算（入退院支援加算）				○	○	○	○	○
113009010	地域連携診療計画管理料	○	○	○	○				
113032310	連携強化診療情報提供料							○	○
180016110	診療情報提供料（I）	○	○	○	○	○	○	○	○
113008910	退院時共同指導料 2	○	○	○	○	○	○	○	○
190024910	開放型病院共同指導料(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
113011710	介護支援等連携指導料		○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- 分子で挙げた算定にはそれぞれ算定条件があり、実際に何らかの「地域連携」を行っていても、指標の集計には反映されていないことがあり得る
- 条件（一部の療養病棟入院や転院等）により分子の診療報酬が算定できない場合、指標値が小さくなりえる。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号
2038

名称

T1-2,N0M0 乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検率

分母

T1-2,N0M0 の乳がん(初発)で入院して手術を施行した症例数

分子

分母のうち、センチネルリンパ節生検が実施された症例数

指標群

乳がん

意義

プロセス指標：検査実施割合

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 解析期間に退院した症例を対象とする
- このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求めた 18 歳以上の症例。
- このうち、乳房の悪性新生物（乳がん）の診断を受けた症例。いずれかの病名の ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例。かつ、以下の 2 条件を満たす症例。①様式 1 「がんの初発、再発」が「初発」かつ②「UICC 病期分類(T),(N),(M)」が T1\$（3 桁以降はワイルドカード、T1a 等を含む）または T2、かつ N0、かつ M0

ICD-10 コード	病名
C50\$	乳房の悪性新生物

4.

レセ電コード	手術名	手術点数コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
150121610	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	K4761	○	○	○	○	○	○	○	○
150303110	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	K4762	○	○	○	○	○	○	○	○
150316510	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	K4763	○	○	○	○	○	○	○	○

150262710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴う）	K4764	○	○	○	○	○	○	○	○
150121710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施しないもの）	K4765	○	○	○	○	○	○	○	○
150121810	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施するもの）	K4766	○	○	○	○	○	○	○	○
150121910	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術）	K4767	○	○	○	○	○	○	○	○
150122150	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術	K4767	○	○	○					
150386410	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わない））	K4768				○	○	○	○	○
150386510	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴う））	K4769				○	○	○	○	○

5. このうち、下記手術を受けた症例。以下の手技のいずれかが算定されている症例（レセ電コードで抽出）

6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. センチネルリンパ節生検を受けた症例。以下の手技のいずれかが算定されている症例（レセ電コードで抽出）

レセ電コード	手術名	手術点数コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
150345870	乳がんセンチネルリンパ節加算 1	K4768	○	○	○	○	○	○	○	○
150345970	乳がんセンチネルリンパ節加算 2	K4769	○	○	○	○	○	○	○	○
160188010	センチネルリンパ節生検（併用法）	D409-21	○	○	○	○	○	○	○	○
160188110	センチネルリンパ節生検（単独法）	D409-22	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 他の施設と指標値が大きく異なる場合は、診療行為の見直しのきっかけとなる。
2. 「UICC 病期分類」は治療前に得られた臨床情報も含む情報に基づく分類(cTNM)であり、pTNM(術後病理所見による),sTNM(手術所見による)と異なる場合があり、本来ならセンチネルリンパ節生検の適応にならない症例も含まれる可能性がある。
3. センチネルリンパ節生検は外来日帰りでも行えるため、手術前に外来で施行されている場合や他院で施行され、紹介入院となっている場合もある。結果が低値だったとしても解釈に注意が必要である。

参考資料

参考値

参考資料

1. 臨床的腋窩リンパ節転移陰性乳癌において、センチネルリンパ節生検で転移陰性と診断された場合には、腋窩リンパ節郭清の省略をすることが標準治療である。SNB は、臨床的腋窩リンパ節転移陰性早期乳癌の腋窩リンパ節転移の有無をほぼ正確に診断できる（偽陰性率<10%）。この結果に基づいて ALND を省略する治療法は、ALND と比べ長期予後に及ぼす影響は同等であり、さらに術後合併症、後遺症も有意に少なく、現時点での標準的治療法と考えられる。[乳がん診療ガイドライン 2018]
2. 日本乳癌学会 乳癌診療ガイドライン 2018,2022

基本情報

指標番号
2075

名称
糖尿病入院患者に対する栄養指導実施率

分母
入院時の病名に糖尿病のある症例

分子
分母のうち栄養指導を行った症例

指標群
糖尿病

意義
プロセス指標 処置実施割合

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 解析期間に退院した症例を対象とする
- このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求めた 18 歳以上の症例。
- このうち、糖尿病の病名のある症例。主病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
E10\$	インスリン依存性糖尿病< I D D M >
E11\$	インスリン非依存性糖尿病< N I D D M >
E12\$	栄養障害に関連する糖尿病
E13\$	その他の明示された糖尿病
E14\$	詳細不明の糖尿病

- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 分母のうち、以下のいずれかの算定が一回以上なされている症例。

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
113003310	入院栄養食事指導料	○	○						
113014810	入院栄養食事指導料 1			○					
113014910	入院栄養食事指導料 2			○					
113017610	入院栄養食事指導料 1（初回） （週 1 回）				○	○	○	○	○

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
113017710	入院栄養食事指導料 1（2 回目）（週 1 回）				○	○	○	○	○
113017810	入院栄養食事指導料 2（初回）（週 1 回）				○	○	○	○	○
113017910	入院栄養食事指導料 2（2 回目）（週 1 回）				○	○	○	○	○
113003410	集団栄養食事指導料	○	○	○	○	○	○	○	○
190147110	栄養サポートチーム加算（指定地域）（週 1 回）		○						
190147110	栄養サポートチーム加算（特定地域）（週 1 回）			○	○	○	○	○	○
190136810	栄養サポートチーム加算（週 1 回）	○	○	○	○	○	○	○	○
150425190	周術期栄養管理実施加算							○	○
190247810	早期栄養介入管理加算（ハイケアユニット入院医療管理料）							○	○
193589410	早期栄養介入管理加算（ハイケアユニット入院医療管理料）（DPC）							○	○
193318510	早期栄養介入管理加算（ハイケアユニット入院医療管理料）（専門病院）							○	○
193015410	早期栄養介入管理加算（ハイケアユニット入院医療管理料）（特定機能病院）							○	○
190245910	早期栄養介入管理加算（救命救急入院料）							○	○
193587510	早期栄養介入管理加算（救命救急入院料）（DPC）							○	○
193316610	早期栄養介入管理加算（救命救急入院料）（専門病院）							○	○
193013510	早期栄養介入管理加算（救命救急入院料）（特定機能病院）							○	○
190247910	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（ハイケアユニット入院医療管理料）							○	○
193589510	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（ハイケアユニット入院医療管理料）（DPC）							○	○
193318610	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（ハイケアユニット入院医療管理料）（専門病院）							○	○
193015510	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（ハイケアユニット入院医療管理料）（特定機能病院）							○	○
190246010	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（救命救急入院料）							○	○

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
193587610	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（救命救急入院料）（D P C）							○	○
193316710	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（救命救急入院料）（専門病院）							○	○
193013610	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（救命救急入院料）（特定機能病院）							○	○
190219270	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（特定集中治療室管理料）							○	○
193521870	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（特定集中治療室管理料）（D P C）							○	○
193315570	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（特定集中治療室管理料）（専門病院）							○	○
193012470	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（特定集中治療室管理料）（特定機能病院）							○	○
190248210	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）							○	○
193589810	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）（D P C）							○	○
193318910	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）（専門病院）							○	○
193015810	早期栄養介入管理加算（経腸栄養）（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）（特定機能病院）							○	○
190219270	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）						○		
190247310	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）							○	○
193521870	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）（D P C）						○		
193588970	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）（D P C）							○	○
193315570	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）（専門病院）						○		
193318070	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）（専門病院）							○	○
193012470	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）（特定機能病院）						○		

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
193014970	早期栄養介入管理加算（特定集中治療室管理料）（特定機能病院）							○	○
190248110	早期栄養介入管理加算（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）							○	○
193589710	早期栄養介入管理加算（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）（D P C）							○	○
193318810	早期栄養介入管理加算（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）（専門病院）							○	○
193015710	早期栄養介入管理加算（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）（特定機能病院）							○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- 他の施設と指標値が大きく異なる場合は、診療行為の見直しのきっかけとなる。

参考資料

参考値

参考資料

- 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2013、2024（日本糖尿病学会）

基本情報

指標番号

2133

名称

シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合

分母

18 歳以上の症例で、入院にてシスプラチンを含む化学療法を受けた、実施日数

分子

分母の実施日の前日または当日に、5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの 3 剤すべてを併用した数

指標群

化学療法

意義

化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 解析期間に入退院した症例のうち、新生物で入院した症例 主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名の ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD- 10 コード	病名
C00\$-D48\$	新生物<腫瘍>

- このうち、胆道がん、血液腫瘍症例は除外する。主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名に以下のいずれかが含まれる症例を除外する

ICD- 10 コード	病名
C22\$	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>
C81\$-C96\$	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>、原発

- このうち、様式 1 の生年月日、入院日より年齢を求め 18 歳以上の症例
- このうち、抗がん剤としてシスプラチンを受けた症例を対象とし、シスプラチンの実施日を検索する。このとき、シスプラチンは静注用のみを含む。F ファイル、もしくは EF ファイルにおいて解析期間において、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる実施日数。※注 4291401D は動注用シスプラチン

成分名	薬価基準コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
シスプラチン	4291401A****	○	○	○	○	○	○	○	○

- 4 で同定した実施日について、連続する実施日は除外する。

- 例) 4 月 2 日、3 日 に実施 4 月 3 日は除外し、4 月 2 日のみ分母の候補とする
6 月 1 日、2 日、3 日、4 日、5 日に実施 6 月 1 日のみ分母の候補とする
7 月 2 日、4 日、6 日に実施 3 日とも分母の候補とする
- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く。
 - 解析期間に退院した症例を対象とする。

分子の定義

- 分母の抗がん剤投与日当日あるいは前日に 5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬、デキサメタゾンの 3 剤がすべて併用されている数。2 日間の内、必ずしもいずれかの日にまとまって併用されている必要はなく、2 日間に少なくとも 3 剤がそれぞれ 1 回以上実施されている場合に分子とする。

E/F ファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の 3 つのカテゴリについてそれぞれいずれかの薬価基準コード 7 桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬、デキサメタゾン（いずれも内服もしくは注射）。

名称	薬価基準 コード 7 桁	成分名	投与 経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
5HT3 受容体拮抗薬	2391400	グラニセトロン 塩酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2391401	オンダンセトロ ン塩酸塩水和物	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2391402	アザセトロン塩 酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	
5HT3 受容体拮抗薬	2391403	ラモセトロン塩 酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2391404	パロノセトロン 塩酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
NK1 受容体拮抗薬	2391405	ホスアプレピタ ントメグルミン	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
デキサメタゾン	2454405	デキサメタゾン リン酸エステル ナトリウム	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2391001	オンダンセトロ ン塩酸塩水和物	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2391002	グラニセトロン 塩酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2391003	トロピセトロン 塩酸塩	内服 薬	○	○	○					
5HT3 受容体拮抗薬	2391004	ラモセトロン塩 酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2391005	アザセトロン塩 酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○			
5HT3 受容体拮抗薬	2391006	オンダンセトロ ン	内服 薬	○	○	○	○	○			
5HT3 受容体拮抗薬	2391007	インジセトロン 塩酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○	○		
NK1 受容体拮抗薬	2391008	アプレピタント	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮抗薬	2399014	ラモセトロン塩 酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○

名称	薬価基準 コード 7 桁	成分名	投与 経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
デキサメタゾン	2454002	デキサメタゾン	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
NK1 受容体拮抗 薬	2391406	ホスネツピタン ト塩化物塩酸塩	注射 薬							○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- ステロイドを使用できない理由がある場合（糖尿病など）、NK1 受容体拮抗薬を使用できない理由がある場合（相互作用のある薬剤を内服している）など、低く見積もられる可能性がある
- 持参薬がデータに反映されていない場合、低く見積もられる可能性がある（2016 年度以前は原則持参薬の使用は禁止、以降は EF ファイルに登録可能となっている）
- オランザピンが制吐剤として 2017 年 6 月に保険承認された。海外ではオランザピンを含む 4 剤併用がガイドライン上推奨されているが、本邦における推奨用量、使用方法については未だ検証段階であるため、適切な患者に慎重に投与とされている。（一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】一部改訂版 ver.2.2（2018 年 10 月）より）
- 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】では、シスプラチンを含むレジメンの内、胆道がんに対する GEM/CDDP のみ中等度リスクとしているため、本指標ではこれに該当する症例を除外した。
- 新薬のホスネツピタントは、制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】には記載されていないが、添付文書および臨床試験（国内 10057030 試験）を参照し、NK1 受容体拮抗薬の一つとして分子測定に含めた（2023 年 10 月現在）。
- 内服処方箋は数日分がまとめて処方される可能性があること、パロノセトロンなど連続投与日数の限られているものがあることを考慮し、連続する実施日は除外した。ただし、例えば隔日投与などのスケジュールは除外されないため、指標値が低く算出される可能性がある。

参考資料

参考値

1. 高度催吐性リスクの化学療法を受けた患者のうち 83%が 5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬、デキサメタゾンの 3 剤併用で予防が実施されていた。(一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】より)

参考資料

1. 良好な治療アドヒアランスを得て化学療法を円滑に進めるために、催吐リスクに応じた予防的な制吐剤の使用は重要である。高度の抗がん薬による急性の悪心・嘔吐に対しては、アプレピタント（もしくはホスアプレピタント）と 5HT3 受容体拮抗薬およびデキサメタゾンを併用する。
(推奨グレード A) シスプラチンは「高度催吐性リスク」に分類される。 一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】

基本情報

指標番号

2137

名称

EC（エピルビシン、シクロホスファミド）療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合

分母

18 歳以上の症例で、入院にてドキソルビシン、シクロホスファミドの両薬剤を同日に含む化学療法を受けた実施日数

分子

分母の実施日の前日または当日に、5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの 3 剤すべてを併用した数

指標群

化学療法

意義

化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 解析期間に入退院した症例のうち、新生物で入院した症例 主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名の ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD- 10 コード	病名
C00\$-D48\$	新生物<腫瘍>

- このうち、胆道がん、血液腫瘍症例は除外する。主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名に以下のいずれかが含まれる症例を除外する

ICD- 10 コード	病名
C22\$	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>
C81\$-C96\$	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>、原発

- このうち、様式 1 の生年月日、入院日より年齢を求め 18 歳以上の症例
- このうち、エピルビシン、シクロホスファミドの両薬剤を同日に実施した症例を対象とし、実施日を検索する。 F ファイル、もしくは EF ファイルにおいて解析期間において、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる実施日数。

薬価基準コード 7 桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
4211401	シクロホスファミド水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○	○
4235404	エピルビシン塩酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○	○

5. 4 で同定した実施日について、連続する実施日は除外する。
例) 4 月 2 日、3 日 に実施 4 月 3 日は除外し、4 月 2 日のみ分母の候補とする
6 月 1 日、2 日、3 日、4 日、5 日に実施 6 月 1 日のみ分母の候補とする
7 月 2 日、4 日、6 日に実施 3 日とも分母の候補とする
6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く。
7. 解析期間に退院した症例を対象とする。

分子の定義

1. 分母の抗がん剤投与日当日あるいは前日に 5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬、デキサメタゾンの 3 剤がすべて併用されている数。2 日間の内、必ずしもいずれかの日にまとめて併用されている必要はなく、2 日間に少なくとも 3 剤がそれぞれ 1 回以上実施されている場合に分子とする。

E/F ファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の 3 つのカテゴリーについてそれぞれいずれかの薬価基準コード 7 桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬、デキサメタゾン（いずれも内服もしくは注射）。

名称	薬価基準 コード 7 桁	成分名	投与 経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
5HT3 受容体拮 抗薬	2391400	グラニセトロン 塩酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮 抗薬	2391401	オンダンセトロ ン塩酸塩水和物	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮 抗薬	2391402	アザセトロン塩 酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	
5HT3 受容体拮 抗薬	2391403	ラモセトロン塩 酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮 抗薬	2391404	パロノセトロン 塩酸塩	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
NK1 受容体拮抗 薬	2391405	ホスアプレピタ ントメグルミン	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
デキサメタゾン	2454405	デキサメタゾン リン酸エステル ナトリウム	注射 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮 抗薬	2391001	オンダンセトロ ン塩酸塩水和物	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮 抗薬	2391002	グラニセトロン 塩酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮 抗薬	2391003	トロピセトロン 塩酸塩	内服 薬	○	○	○					
5HT3 受容体拮 抗薬	2391004	ラモセトロン塩 酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○
5HT3 受容体拮 抗薬	2391005	アザセトロン塩 酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○			
5HT3 受容体拮 抗薬	2391006	オンダンセトロ ン	内服 薬	○	○	○	○	○			
5HT3 受容体拮 抗薬	2391007	インジセトロン 塩酸塩	内服 薬	○	○	○	○	○	○		
NK1 受容体拮抗 薬	2391008	アプレピタント	内服 薬	○	○	○	○	○	○	○	○

名称	薬価基準 コード 7 桁	成分名	投与 経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
5HT3 受容体拮抗薬	2399014	ラモセトロン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
デキサメタゾン	2454002	デキサメタゾン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
NK1 受容体拮抗薬	2391406	ホスネツピタント塩化物塩酸塩	注射薬							○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- ステロイドを使用できない理由がある場合（糖尿病など）、NK1 受容体拮抗薬を使用できない理由がある場合（相互作用のある薬剤を内服している）など、低く見積もられる可能性がある
- 持参薬がデータに反映されていない場合、低く見積もられる可能性がある（2016 年度以前は原則持参薬の使用は禁止、以降は EF ファイルに登録可能となっている）
- オランザピンが制吐剤として 2017 年 6 月に保険承認された。海外ではオランザピンを含む 4 剤併用がガイドライン上推奨されているが、本邦における推奨用量、使用方法については未だ検証段階であるため、適切な患者に慎重に投与とされている。（一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】一部改訂版 ver.2.2（2018 年 10 月）より）
- 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】では、シスプラチンを含むレジメンの内、胆道がんに対する GEM/CDDP のみ中等度リスクとしているため、本指標ではこれに該当する症例を除外した。
- 新薬のホスネツピタントは、制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】には記載されていないが、添付文書および臨床試験（国内 10057030 試験）を参照し、NK1 受容体拮抗薬の一つとして分子測定に含めた（2023 年 10 月現在）。
- 内服処方箋は数日分がまとめて処方される可能性があること、パロノセトロンなど連続投与日数の限られているものがあることを考慮し、連続する実施日は除外した。ただし、例えば隔日投与などのスケジュールは除外されないため、指標値が低く算出される可能性がある。

参考資料

参考値

1. 高度催吐性リスクの化学療法を受けた患者のうち 83%が 5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬、デキサメタゾンの 3 剤併用で予防が実施されていた。(一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】より)

参考資料

1. 良好な治療アドヒアランスを得て化学療法を円滑に進めるために、催吐リスクに応じた予防的な制吐剤の使用は重要である。高度の抗がん薬による急性の悪心・嘔吐に対しては、アプレピタント（もしくはホスアプレピタント）と 5HT3 受容体拮抗薬およびデキサメタゾンを併用する。
（推奨グレード A） シスプラチンは「高度催吐性リスク」に分類される。 一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】

基本情報

指標番号

2127_1

名称

75 歳以上の入院症例でトリアゾラムが処方された割合

分母

75 歳以上の入院症例

分子

トリアゾラムが処方された症例

指標群

精神科

意義

高齢者の安全な薬物療法

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 75 歳以上の入院症例
- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 分母のうちトリアゾラムが処方された症例

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 の特に慎重な投与を要する薬物のリストで、トリアゾラムは健忘のリスクがあり使用するべきでないとされている。また、かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン（第 2 版）では、75 歳以上、中等度以上の認知症にベンゾジアゼピンは推奨しない、ベンゾジアゼピンでせん妄を惹起することがあるとされている。

参考資料

参考値

参考資料

1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015.(編)日本老年医学会、日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究研究班. メジカルビュー社
20170808_01.pdf (jpn-geriat-soc.or.jp) (2024 年 6 月 24 日 アクセス可能)
2. かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン（第 2 版）
0000140619.pdf (mhlw.go.jp) (2024 年 6 月 24 日 アクセス可能)

基本情報

指標番号

2127_2

名称

75 歳以上の入院症例で長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合

分母

75 歳以上の入院症例

分子

長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

指標群

精神科

意義

高齢者の安全な薬物療法

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 75 歳以上の入院症例
- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 分母のうち長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1124002	フルラゼパム塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1124005	ハロキサゾラム	○	○	○	○	○	○	○	○
1124017	ジアゼパム	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

コメントの追加 [1]:【指標の近年の推移】指標 2127_2：2.6%から徐々に低下し近年は 1.3→1.2%と低下。
【この指標の内容は変更や終了の必要があるか】継続すべきと考える。中止するくらいであればクアゼパムを候補に加えてもよいかもしれない。参考文献等を加筆した。
【これに関連して新たな指標をつくる必要はあるか】特に必要ないと考える。

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 で、ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬は、認知機能低下、転倒・骨折、日中の倦怠感などのリスクがあるので可能な限り使用は控え、特に長時間作用型は使用するべきでないとされている。なお、同文書内で長時間作用型としてフルラゼパム、ハロキサゾラム、ジアゼパムを指定し、クアゼパムは筋弛緩作用が弱く高齢者の不眠症に有効との報告があるが、やはり長時間作用型薬物であることから慎重に投与すべき薬剤であるとされている。

参考資料

参考値

参考資料

1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015.(編)日本老年医学会、日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究研究班。メジカルビュー社
2. 薬剤の分類についての参考 Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275. および 治療薬マニュアル 2020
3. 2021 年に本指標の分子について、「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」を参照して再整理した。

基本情報

指標番号

2127_3

名称

75 歳以上の入院症例でトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合

分母

75 歳以上の入院症例

分子

トリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

指標群

精神科

意義

高齢者の安全な薬物療法

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 75 歳以上の入院症例
- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 分母のうちトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1124002	フルラゼパム塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1124005	ハロキサゾラム	○	○	○	○	○	○	○	○
1124017	ジアゼパム	○	○	○	○	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

コメントの追加 [1]: 【関連指標の近年の推移】

指標 2127_1 : 1.5%から徐々に低下し近年は 1.0→0.9→0.8%と低下。指標 2127_2 : 2.6%から徐々に低下し近年は 1.3→1.2%と低下。指標 2127_3 : 4.1%から徐々に低下し近年は 2.3→2.1→2.0%と低下。

【この指標の内容は変更や終了の必要があるか】継続してもよいと考える。もし 2127_1 または 2127_2 に変更を行う場合はこの指標も同時に更新する必要がある。

【これに関連して新たな指標をつくる必要はあるか】特に必要ないと考える。

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 の特に慎重な投与を要する薬物のリストで、トリアゾラムは健忘のリスクがあり使用するべきでないとされ、またベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬は、認知機能低下、転倒・骨折、日中の倦怠感などのリスクがあるので可能な限り使用は控え、特に長時間作用型は使用するべきでないとされている。なお、同文書内で長時間作用型としてフルラゼパム、ハロキサゾラム、ジアゼパムを指定し、クアゼパムは筋弛緩作用が弱く高齢者の不眠症に有効との報告があるが、やはり長時間作用型薬物であることから慎重に投与すべき薬剤であるとされている。

参考資料

参考値

参考資料

1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015.(編)日本老年医学会、日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究研究班、メジカルビュー社
2. 薬剤の分類について下記参照（改訂に際しては、同著者、日本精神神経学会/日本精神神経薬理学会による最新情報を随時参照のこと） Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275.

基本情報

指標番号
2191

名称
外来で経口抗精神病薬を処方した症例の中、定型抗精神病薬を含めない割合

分母
外来にて経口抗精神病薬処方がされた人月

分子
分母のうち外来にて経口定型抗精神病薬処方がされていない人月

指標群
精神科

意義
統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 において、抗精神病薬は FGA（定型抗精神病薬）よりも第二世代抗精神病薬（非定型抗精神病薬）が望ましいとされている。また、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 において定型抗精神病薬の使用はできるだけ控えるよう記載がある。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、経口抗精神病薬（下記リスト）の含まれる処方が実施された人月を算出する。1 か月に複数の種類、複数日、複数回処方されているなどいずれも、1 人月とする。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1171001	クロルプロマジン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1171005	クロルプロマジンフェノールフタリン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172004	ペルフェナジンフェンジゾ酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172005	プロペリシアジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172006	ペルフェナジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172007	ペルフェナジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172008	トリフロペラジンマレイン酸塩	○	○	○					
1172009	フルフェナジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172010	プロクロルペラジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172013	ペルフェナジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172014	レボメプロマジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179006	ピパンペロン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179011	オキシペルチン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179015	スピペロン	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1179016	スルピリド	○	○	○	○	○	○	○	○
1179020	ハロペリドール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179022	ピモジド	○	○	○	○	○	○		
1179024	ゾテピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179026	チミペロン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179028	ブロムペリドール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179029	カルピプラミン塩酸塩水和物	○	○						
1179030	クロカプラミン塩酸塩水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
1179031	カルピプラミンマレイン酸塩	○	○	○					
1179032	スルトプリド塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179035	モサプラミン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179036	ネモナプリド	○	○	○	○	○	○	○	○
1179038	リスペリドン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179042	クエチアピンフマル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179043	ペロスピロン塩酸塩水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
1179044	オランザピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179045	アリピプラゾール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179048	ブロナンセリン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179049	クロザピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179053	パリペリドン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179056	アセナピンマレイン酸塩				○	○	○	○	○
1179058	ブレクスピプラゾール					○	○	○	○
1179061	ルラシドン塩酸塩						○	○	○
1179100	クロルプロマジン・プロメタジン	○	○	○	○				
1179101	クロルプロマジン・プロメタジン	○	○	○	○				
1190004	チアプリド塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2329009	スルピリド	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母のうち、外来 EF ファイルより、経口定型抗精神病薬（下記リスト）の含まれる処方が実施されていない人月を算出する。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1171001	クロルプロマジン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1171005	クロルプロマジンフェノールフタリン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172004	ペルフェナジンフェンジゾ酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172005	プロペリシアジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172006	ペルフェナジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172007	ペルフェナジン	○	○	○	○	○	○	○	○
1172008	トリフロペラジンマレイン酸塩	○	○	○					
1172009	フルフェナジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172010	プロクロルペラジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1172013	ペルフェナジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1172014	レボメプロマジンマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179006	ピバンペロン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179011	オキシペルチン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179015	スピペロン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179016	スルピリド	○	○	○	○	○	○	○	○
1179020	ハロペリドール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179022	ピモジド	○	○	○	○	○	○		
1179024	ゾテピン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179026	チミペロン	○	○	○	○	○	○	○	○
1179028	ブロムペリドール	○	○	○	○	○	○	○	○
1179029	カルピプラミン塩酸塩水和物	○	○						
1179030	クロカプラミン塩酸塩水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
1179031	カルピプラミンマレイン酸塩	○	○	○					
1179032	スルトプリド塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179035	モサプラミン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
1179036	ネモナプリド	○	○	○	○	○	○	○	○
1179100	クロルプロマジン・プロメタジン	○	○	○	○				
1179101	クロルプロマジン・プロメタジン	○	○	○	○				
1190004	チアプリド塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
2329009	スルピリド	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

%

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 非定型抗精神病薬の分類は「今日の治療薬 2024」の p. 874 を参照した。

参考資料

参考値

参考資料

1. 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 2022 年 5 月 20 日公開 2023 年 8 月 17 日改訂

- https://www.jsnp-org.jp/csrinfo/img/togo_guideline2022_0817.pdf
2. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015
20170808_01.pdf (jpn-geriat-soc.or.jp)
 3. 伊豆津宏二ら 今日の治療薬 2024 解説と便覧 南江堂

基本情報

指標番号

2195

名称

外来で睡眠薬を処方された 75 歳以上の症例の中で、ベンゾジアゼピン系またはバルビツール系睡眠薬が処方されていない割合

分母

外来で経口睡眠薬を処方された 75 歳以上の人月

分子

分母のうち、外来でベンゾジアゼピン系またはバルビツール系睡眠薬処方がされていない人月

指標群

精神科

意義

高齢者に対しベンゾジアゼピン系およびバルビツール系睡眠薬は副作用が出やすく、使用を控えるよう記載されている。

年度

2018,2020,2022,2024

必要データセット

外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、経口睡眠薬（下記コード）の含まれる処方が 75 歳以上で実施された人月を算出する。年齢は EF-3（生年月日）と EF-24（実施年月日）を用いる。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124001	エスタゾラム	○	○	○	○
1124002	フルラゼパム塩酸塩	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○
1124004	ニメタゼパム				
1124005	ハロキサゾラム	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○
1124009	ブロチゾラム	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124010	ロルメタゼパム	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	○	○	○	○
1125001	アモバルビタール	○	○	○	○
1125002	バルビタール	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125004	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125006	ペントバルビタールカルシウム	○	○	○	○
1129006	リルマザホン塩酸塩水和物	○	○	○	○
1129007	ゾピクロン	○	○	○	○
1129009	ゾルピデム酒石酸塩	○	○	○	○
1129010	エスゾピクロン	○	○	○	○
1190016	ラメルテオン	○	○	○	○
1190023	スボレキサント	○	○	○	○
1190027	レンボレキサント		○	○	○

分子の定義

1. 分母のうち、外来 EF ファイルより、経口ベンゾジアゼピン系睡眠薬またはバルビツール系睡眠薬（下記薬価基準コード）の含まれる処方されていない人月を算出する（75 歳以上：年齢は EF-3（生年月日）と EF-24（実施年月日）を用いる）。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124001	エスタゾラム	○	○	○	○
1124002	フルラゼパム塩酸塩	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○
1124004	ニメタゼパム				
1124005	ハロキサゾラム	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124009	プロチゾラム	○	○	○	○
1124010	ロルメタゼパム	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	○	○	○	○
1125001	アモバルビタール	○	○	○	○
1125002	バルビタール	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125004	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125006	ペントバルビタールカルシウム	○	○	○	○
1129006	リルマザホン塩酸塩水和物	○	○	○	○
1129007	ゾピクロン	○	○	○	○
1129009	ゾルピデム酒石酸塩	○	○	○	○
1129010	エスゾピクロン	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 では高齢者に対しベンゾジアゼピン系は認知機能低下、転倒・骨折、日中の倦怠感などのリスクがあるので可能な限り使用を控えることとされている。かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドラインではベンゾジアゼピンはせん妄を惹起することがあり、75 歳以上にベンゾジアゼピンは推奨しないとされている。
2. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 でバルビツール系薬剤はふらつきなどの副作用が出やすく、また中止によってけいれんなどの離脱症状が誘発されやすいため現在ほとんど使用されず、使用を控えるべき薬剤にも挙げられている。

3. ゾピクロン、ゾルピデム、エスゾピクロンは非ベンゾジアゼピン系睡眠薬に分類されるが、ベンゾジアゼピン系と機序が類似し転倒・骨折のリスクが報告されており、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 において非ベンゾジアゼピン系睡眠薬についても特に慎重に投与すべき薬剤に挙げられていることから本指標の対象に含めた。

参考資料

1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015
https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20170808_01.pdf （2024 年 6 月 11 日アクセス可能）
2. かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン（第 2 版）
0000140619.pdf (mhlw.go.jp) （2024 年 6 月 11 日アクセス可能）

基本情報

指標番号

2196

名称

外来で睡眠薬の処方のある症例のうち、睡眠薬が単剤または 2 剤である割合

分母

外来で睡眠薬の処方のある症例数（人月）

分子

分母のうち、睡眠薬の処方が単剤または 2 剤である症例数（人月）

指標群

精神科

意義

睡眠薬の多くはベンゾジアゼピン系に分類され、不眠症あるいは不眠症状に対して処方される。日本睡眠学会の睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドラインでは、睡眠薬は単剤治療を原則とし、特に、三種類以上のベンゾジアゼピン系ないし非ベンゾジアゼピン系睡眠薬の併用は避けなくてはならないとの記載がある。うつ病学会のうつ病治療ガイドラインではベンゾジアゼピン系睡眠薬は 1 剤以内が原則とされ、かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドラインでは 75 歳以上、中等度以上の認知症にベンゾジアゼピンは推奨しないとされている。また、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 では高齢者に対しベンゾジアゼピン系は可能な限り使用を控えることとされている。

向精神薬の過量処方や過量処方による副作用に対する安全性指標（プロセス指標）診療報酬（精神科継続外来支援・指導料）において、1 回の処方で 3 剤以上の睡眠薬を投与した場合には、所定点数の 100 分の 20 の点数が減算される。ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬は薬理作用が共通している一方、催眠作用の強い抗不安薬を睡眠薬代わりに用いることに科学的妥当性はないため、2018 年度からは睡眠薬及び抗不安薬が 4 剤以上の場合、処方料、処方箋料、薬剤料が減算されるようになった。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

外来 EF ファイル（F ファイル部分）

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、睡眠薬（注射薬を除く）（下記リスト）の含まれる処方が実施された人月を算出する。1 か月に複数の種類、複数日、複数回処方されているなどいずれも、1 人月とする。

薬価基準コード 7 桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1121001	プロモバレリル尿素	プロバリン原末	○	○	○	○	○	○	○	○
1123001	抱水クロラール	抱水クロラール	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1124001	エスタゾラム	エスタゾラム錠 1 m g 「アメル」	○	○	○	○	○	○	○	○
1124002	フルラゼパム塩酸塩	ダルメートカプセル 1 5 1 5 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	ニトラゼパム錠 1 0 m g 「J G」	○	○	○	○	○	○	○	○
1124004	ニメタゼパム	エリミン錠 3 m g	○	○	○	○				
1124005	ハロキサゾラム	ソメリン細粒 1 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	トリアゾラム錠 0. 1 2 5 m g 「E M E C」	○	○	○	○	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	サイレース錠 1 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124009	ブロチゾラム	ブロチゾラム M 錠 0. 2 5 「E M E C」 0. 2 5 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124010	ロルメタゼパム	エバミール錠 1. 0 1 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	クアゼパム錠 1 5 m g 「M N P」	○	○	○	○	○	○	○	○
1125001	アモバルビタール	アモバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1125002	バルビタール	バルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	フェノバル散 1 0 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1125004	フェノバルビタール	フェノバルエリキシル 0. 4 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1125006	ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠 5 0 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1126001	臭化カリウム	臭化カリウム	○	○	○	○	○	○	○	○
1129004	トリクロホスナトリウム	トリクロリールシロップ 1 0 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1129006	リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー錠 1 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1129007	ゾピクロン	アモバンテス錠 1 0 1 0 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1129009	ゾルピデム酒石酸塩	マイスリー錠 1 0 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1129010	エスゾピクロン	ルネスタ錠 1 m g		○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1190016	ラメルテオン	ロゼレム錠 8 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1190023	スボレキサント	ベルソムラ錠 2 0 m g			○	○	○	○	○	○
1190027	レンボレキサント	デエビゴ錠 5 m g						○	○	○
1190028	メラトニン	メラトベル顆粒小児用 0 . 2 %						○	○	○

分子の定義

1. 分母のうち、外来処方各日、処方された睡眠薬の薬剤種数（成分名でカウント）が 2 種類以下の症例。日毎に睡眠薬の処方の薬剤種数を求める。1 か月に複数回の処方日がみられる場合、すべての処方日において、それぞれ、睡眠薬の薬剤種数が 2 種類以下の場合に分子として算出される。1 か月のうち 1 回でも 3 種類以上の処方がある場合は、分子には含まれない

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 薬価基準コードに対する成分名は厚労省ホームページより取得
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp120305-01.html>

参考資料

参考値

参考資料

1. Australian Council on Healthcare Standards (ACHS). Australasian Clinical Indicator Report 2003 – 2010 12th Edition Mental Health Inpatient, version 6 Clinical Indicators
http://www.achs.org.au/media/3871/MentalHealthInpatient_www.pdf (2013 年 1 月 4 日アクセス可能)
2. 三島和夫, 片寄泰子, 榎本みのり, 他. 診療報酬データを用いた向精神薬処方に関する実態調査研究. 平成 22 年度厚生労働省科学研究費補助金 特別研究事業 向精神薬の処方実態に関する国内外の比較研究分担研究方向書. 2010 年. <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001tjq1.html> (2013 年 1 月 4 日アクセス可能)

3. 厚生労働省.過量服薬への取り組み-薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて 2010 年 www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/torimatome_5.pdf (2013 年 1 月 4 日アクセス可能)
4. 薬剤の分類について下記参照（改訂に際しては、同著者、日本精神神経学会/日本精神神経薬理学会による最新情報を随時参照のこと） Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275.
5. 日本睡眠学会 睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン 2014 年 7 月 22 日更新 <https://jssr.jp/files/guideline/suiminyaku-guideline.pdf> (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)
6. 日本うつ病学会治療ガイドライン II.うつ病(DSM-5)/大うつ病性障害 2016 (2024 年 3 月 1 日改訂) <https://www.secretariat.ne.jp/jsmd/iinkai/katsudou/data/20240301.pdf> (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)
7. かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン (第 2 版) 0000140619.pdf (mhlw.go.jp) (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)
8. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 20170808_01.pdf (jpn-geriat-soc.or.jp) (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)

基本情報

指標番号

2031_4

名称

市中肺炎症例に対し、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例の割合

分母

18 歳以上の市中肺炎症例

分子

分母のうち、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例

指標群

感染症系

意義

病原微生物の同定は、治療の最適化や耐性菌の対策上重要である。

年度

2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル,D ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、市中肺炎症例。DPC コードの上 6 桁が 040070（インフルエンザ、ウイルス性肺炎）、040080（肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎）いずれかでかつ、肺炎の重症度分類の 7 桁目（コードでは 8. 院内肺炎、市中肺炎）が「5」（市中肺炎）の症例
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例。診療行為の点数コードのいずれかに以下が含まれる症例

診療行為コード	検査点数コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
160104250	D012-21	尿中肺炎球菌抗原	○	○						
160104250	D012-24	肺炎球菌抗原定性（尿）				○	○	○		
160104250	D012-25	肺炎球菌抗原定性（尿）			○				○	
160104250	D012-26	肺炎球菌抗原定性（尿）								○
160177150	D012-27	尿中肺炎球菌莢膜抗原	○	○						
160177150	D012-34	肺炎球菌莢膜抗原定性（尿）					○			
160177150	D012-36	肺炎球菌莢膜抗原定性（尿）			○	○		○		
160177150	D012-39	肺炎球菌莢膜抗原定性（尿）							○	
160188850	D012-27	肺炎球菌細胞壁抗原（定性）		○						
160188850	D012-33	肺炎球菌細胞壁抗原定性					○			
160188850	D012-35	肺炎球菌細胞壁抗原定性			○	○		○		
160188850	D012-38	肺炎球菌細胞壁抗原定性							○	○
160177150	D012-41	尿中肺炎球菌莢膜抗原								○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- 必ずしもすべての症例に必要な検査ではなく、100%を目指す指標ではない。
- D ファイルのない場合の結果は参考値（QIP では疑似的に DPC コードを生成し、そのコードを利用し指標値を算出している）

参考資料

参考値

参考資料

- 成人肺炎診療ガイドライン 2024. 日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン 2024 作成委員会

基本情報

指標番号

2031_6

名称

市中肺炎症例に対し、入院当日から抗菌薬を投与された症例の割合

分母

18 歳以上の市中肺炎症例

分子

分母のうち、入院当日から抗菌薬を投与された症例

指標群

感染症系

意義

早期診断並びに治療の適時性

年度

2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル,D ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、市中肺炎症例。DPC コードの上 6 桁が 040070（インフルエンザ、ウイルス性肺炎）、040080（肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎）いずれかでかつ、肺炎の重症度分類の 7 桁目（コードでは 8. 院内肺炎、市中肺炎）が「5」（市中肺炎）の症例
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 入院日と同一日に抗菌薬（内服薬もしくは注射薬）を投与された症例。EF ファイルの薬剤情報の点数コードに、下記いずれかの薬価基準コード 7 桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。
※薬価基準コード上 7 桁について、上 2～4 ケタ情報を利用、「xxx」は 001～699 として内服薬・注射薬を指定

薬価基準コード 7 桁	成分名	投与経路	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6111002	ベンジルペニシリンベンザチン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6111400	ベンジルペニシリンカリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6112001	クリンダマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6112003	リンコマイシン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6112400	リンコマイシン塩酸塩水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6112401	クリンダマイシンリン酸エステル	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6113001	バンコマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6113400	バンコマイシン塩酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6119001	フィダキソマイシン	内服薬				○	○	○	○
6119400	アルベカシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6119401	テイコプラニン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6119402	ダプトマイシン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6119500	キヌプリスチン・ダルホプリスチン	注射薬	○	○	○	○	○		
6121001	ピブメシリナム塩酸塩	内服薬	○	○					
6122400	アズトレオナム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6123003	カナマイシン一硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6123401	トブラマイシン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6123402	アミカシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6123404	イセパマイシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6124400	スペクチノマイシン塩酸塩水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6125001	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬		○	○	○	○	○	○
6125001	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6125400	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6126001	ポリミキシシンB硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6129001	セフチブテン水和物	内服薬	○	○	○	○	○		
6129400	チゲサイクリン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6131001	アモキシシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6131002	アンピシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6131004	バカンピシリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6131008	スルタミシリントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6131400	アンピシリンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6131403	ピペラシリンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6131405	アスポキシシリン水和物	注射薬	○						
6132002	セファレキシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132005	セファクロル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6132006	セフロキサジン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132008	セフィキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132009	セフテラム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132010	セフロキシム アキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132011	セフポドキシム プロキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132012	セフォチアム ヘキセチル塩酸塩	内服薬	○	○	○				
6132013	セフジニル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132015	セフジトレン ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132016	セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132400	セフォチアム塩酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132401	セファゾリンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132403	セファロチンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132408	セフメタゾールナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132409	セフォタキシムナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132410	セフォペラゾンナトリウム	注射薬	○	○	○				
6132413	セフメノキシム塩酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132418	セフトジジム水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132419	セフトリアキソンナトリウム水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132422	セフミノクスナトリウム水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132423	セフォジジムナトリウム	注射薬	○	○	○				
6132424	セフピロム硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○		
6132425	セフェピム塩酸塩水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6132426	セフォゾプラン塩酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6133400	ラタモキセフナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6133401	フロモキセフナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6134400	ジベカシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6134401	リボスタマイシン硫酸塩	注射薬	○	○	○				
6134407	ゲンタマイシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6135001	ホスホマイシンカルシウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6135400	ホスホマイシンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139001	ファロペネムナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6139002	テビペネム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6139100	アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6139400	メロペネム水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139401	ビアペネム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139402	ドリペネム水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139500	スルバクタムナトリウム・セフォペラゾンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139500	セフォペラゾンナトリウム・スルバクタムナトリウム	注射薬					○	○	○
6139501	イミペネム水和物・シラスタチンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139503	パニペネム・ベタミプロン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139504	スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139505	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6139506	セフトロザン硫酸塩・タゾバクタムナトリウム	注射薬				○	○	○	○
6141001	エリスロマイシンエチルコハク酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6141002	エリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6141004	エリスロマイシンステアリン酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6141400	エリスロマイシンラクトビオン酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6142001	スピラマイシン酢酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6145001	ジョサマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	
6145002	ジョサマイシンプロピオン酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	
6149001	ロキタマイシン	内服薬	○	○					
6149002	ロキシスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6149003	クラリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6149004	アジスロマイシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6149400	アジスロマイシン水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6151001	クロラムフェニコール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6151401	クロラムフェニコールコハク酸エステルナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6152002	テトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6152003	デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6152004	ドキシサイクリン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6152005	ミノサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6152401	ミノサイクリン塩酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6161400	ストレプトマイシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6162001	サイクロセリン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6164001	リファンピシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6165400	エンビオマイシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6169001	リファブチン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6169400	カナマイシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6171001	ナイスタチン	内服薬	○	○	○	○			
6173001	アムホテリシンB	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6173400	アムホテリシンB	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6179001	ポリコナゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6179002	ボサコナゾール	内服薬					○	○	○
6179400	ミカファンギンナトリウム	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6179401	ポリコナゾール	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6179402	カスポファンギン酢酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6179403	ボサコナゾール	注射薬					○	○	○
6191001	アンピシリン水和物・クロキシシリンナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6199001	リファキシミン	内服薬			○	○	○	○	○
6199100	ランソプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○			
6199101	ランソプラゾール・アモキシシリン・メトロニダゾール	内服薬	○	○	○	○			
6199102	ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・クラリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6199103	ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・メトロニダゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6199104	ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン水和物・クラリスロマイシン	内服薬			○	○	○	○	○
6199105	ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン水和物・メトロニダゾール	内服薬			○	○	○	○	○
6212002	スルファメトキサゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6213001	スルファジメトキシ	内服薬	○	○					
6213001	スルファジメトキシ	内服薬	○	○	○				

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6213400	スルファジメトキシシ	注射薬	○	○	○				
6219001	サラズスルファピリジン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6219002	スルファメチゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241001	ナリジクス酸	内服薬	○	○	○				
6241002	ピペミド酸水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	
6241004	シノキサシン	内服薬	○	○					
6241005	ノルフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241006	オフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241008	塩酸シプロフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241009	塩酸ロメフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241010	トスフロキサシントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241013	レボフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241015	プルリフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241016	モキシフロキサシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241017	メシル酸ガレノキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241018	シタフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241019	ラスクフロキサシン塩酸塩	内服薬				○	○	○	○
6241400	シプロフロキサシン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6241401	パズフロキサシンメシル酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6241402	レボフロキサシン水和物	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6241403	ラスクフロキサシン塩酸塩	注射薬					○	○	○
6249002	リネゾリド	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6249003	テジゾリドリン酸エステル	内服薬				○	○	○	○
6249401	リネゾリド	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6249402	テジゾリドリン酸エステル	注射薬				○	○	○	○
6290001	フルシトシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6290002	フルコナゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6290003	ミコナゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6290004	イトラコナゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6290005	テルビナフィン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6290006	アトバコン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6290007	ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物	内服薬				○	○	○	○
6290100	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	投与経路	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6290400	ミコナゾール	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6290401	フルコナゾール	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6290402	ホスフルコナゾール	注射薬	○	○	○	○	○	○	○
6290403	イトラコナゾール	注射薬	○	○	○	○	○	○	

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 成人市中肺炎診療ガイドラインでは、診断後 4 時間以内の抗生剤投与開始が勧められている。AHRQ では、4 時間以内の投与を指標として提案している。投与時刻のデータがなく、日単位での把握では適時性を十分に評価できているとはいいいにくい。
2. D ファイルのない場合の結果は参考値（QIP では疑似的に DPC コードを生成し、そのコードを利用し指標値を算出している）
3. 市中肺炎の起炎菌になり得ない菌にしか適応のない抗菌薬は入っていない（薬価基準コード 6129500 レレバクタム水和物・イミペネム水和物：適応が本剤に感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、緑膿菌、アシネトバクター属 ただし、カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株に限るとなっているため）他にメトロニダゾール薬価基準コード 6419002、チニダゾール薬価基準コード 6419001、メフロキン薬価基準コード 6419003、パロモマイシン薬価基準コード 6419004、プリマキンリン酸塩 6419005、スピラマイシン 6419006、アトバコン・プログアニル塩酸塩 6419101、アルテメテル・ルメファントリン 6419102、は肺炎の適応なし

参考資料

参考値

参考資料

1. 日本標準商品分類（平成 2 年 6 月改定）中分類 87－医薬品及び関連製品
http://www.soumu.go.jp/main_content/000294493.pdf
2. 成人肺炎診療ガイドライン 2024. 日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン 2024 作成委員会

基本情報

指標番号

2031_7

名称

市中肺炎症例に対する、注射抗菌薬開始時の抗緑膿菌薬投与割合

分母

市中肺炎症例に対し、入院中に注射抗菌薬を投与された症例数

分子

分母のうち、注射抗菌薬の投与初日に、抗緑膿菌薬を処方された症例数

指標群

感染症系

意義

エンピリック治療における抗菌薬の選択

年度

2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル,D ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に入退院した症例を対象とする。
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、市中肺炎症例。DPC コードの上 6 桁が 040070（インフルエンザ、ウイルス性肺炎）、040080（肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎）いずれかでかつ、肺炎の重症度分類の 7 桁目（コードでは 8. 院内肺炎、市中肺炎）が「5」（市中肺炎）の症例
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く
5. 入院中に注射抗菌薬を投与された症例

薬価基準コード 7 桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]* *	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○	○	○

分子の定義

1. 分母のうち、注射抗菌薬の投与初日に、抗緑膿菌薬を処方された症例数。EF ファイルの薬剤情報
の点数コードに、下記いずれかの薬価基準コード 7 桁に対応するレセ電コードが含まれる症例

薬価基準コード 7 桁	系列	代表薬	成分名	記号
6131403	1. ペニシリン系	ペントシリン	ピペラシリン	PIPC
6139505	1. ペニシリン系	ゾシン	ピペラシリン/タゾバクタム	PIPC/TAZ
6132418	2. セフェム系	モダシン	セフトジジム	CAZ
6132425	2. セフェム系	マキシピーム	セフェピム	CFPM
6132426	2. セフェム系	ファーストシン	セフォゾプラム	CZOP
6139500	2. セフェム系	スルペラゾン	スルバクタム・セフォペラゾン	SBT/CPZ
6139501	3. カルバペネム系	チエナム	イミペネム/シラスタチン	IPM/CS
6139400	3. カルバペネム系	メロペン	メロペネム	MEPM
6139401	3. カルバペネム系	オメガシン	ビアペネム	BIPM
6139402	3. カルバペネム系	フィニバックス	ドリペネム	DRPM
6139503	3. カルバペネム系	カルベニン	パニペネム/ベタミブロン	PAPM/BP
6241013	4. ニューキノロン系	クラビット	レボフロキサシン	LVFX
6241400	4. ニューキノロン系	シプロキササン(注射)	シプロフロキサシン	CPFX
6241008	4. ニューキノロン系	シプロキササン(内服)	シプロフロキサシン	CPFX
6241401	4. ニューキノロン系	パシル	パズフロキサシン	PZFX
6134407	5. アミノグリコシド系	ゲンタシン(注射)	ゲンタマイシン	GM
6123402	5. アミノグリコシド系	アミカシン	アミカマイシン	AMK
6123401	5. アミノグリコシド系	トブラシン	トブラマイシン	TOB
6123404	5. アミノグリコシド系	イセパシン	イセパマイシン硫酸塩	ISP
6134400	5. アミノグリコシド系	パニマイシン	ジベカシン	DKB

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 市中肺炎において緑膿菌が起因菌となることはまれであり、薬剤耐性の観点からも安易な抗緑膿菌薬の使用が多剤耐性菌のリスクとなることから、エンピリック治療においては重症度等を勘案して適切に選ぶためのモニタリング指標。指標の並びは「昇順」で示すが、総合的な判断が求められる。
2. D ファイルのない場合の結果は参考値（QIP では疑似的に DPC コードを生成し、そのコードを利用し指標値を算出している）

参考資料

参考値

参考資料

1. 日本標準商品分類（平成 2 年 6 月改定）中分類 87－医薬品及び関連製品
http://www.soumu.go.jp/main_content/000294493.pdf
2. 成人肺炎診療ガイドライン 2024. 日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン 2024 作成委員会

基本情報

指標番号

2107_6

名称

血液培養検査において、同日に 2 セット以上の実施割合（外来）

分母

血液培養のオーダー日数（人日）

分子

血液培養のオーダーが 1 日に 2 件以上ある日数（人日）

指標群

感染症系

意義

血液培養は 1 セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2 セット以上行うことが推奨されている

年度

2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

外来 F ファイル,外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 実施日が解析期間のケースを対象とする
2. このうち、EF ファイルより下記の血液培養オーダー、1 患者 1 日毎に実施された日数を集計する。同一日に複数のレコードがあっても、1 とカウント。

レセ電コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
160058610	細菌培養同定検査（血液）	D018_3	○	○	○	○	○	○	○	○

分子の定義

1. 上記血液培養の実施回数が 1 日 2 回以上の日数を合計する。実施回数は 1 患者 1 日で合計する。実施回数は、EF ファイルでは EF-7='000'以外のレコード（F ファイル相当）から集計し、行為回数 EF-21×使用量 EF-12（ただし、使用量は「0」の場合 1 として計算）を 1 日当たりで合計したもののが 2 以上、あるいは出来高実績点数 EF-16 の 1 日当たり合計が 2 回分以上（2015 年度まで 190 点、2016 年度より 210 点のため、算出としては例えば合計が 380 点以上で判定）を分子とする。E ファイル F ファイルが別の場合、F ファイルより使用量 F-12 あるいは出来高実績点数 EF-16 を抽出し、それに紐づく E ファイルの行為回数 E-15 を掛け合わせて算出する。（使用量「0」の場合の処理は同様）

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 2014 年度データ以降で測定（2014 年度診療報酬改定から、血液を 2 か所以上から採取した場合に限り、2 回算定できる）
2. 「DPC 導入の影響評価に係る調査」実施説明資料では行為回数（E-15、EF-21）の入力について、「同一日に同一行為が複数回発生した場合は、合計した点数が E-11、12、13 に計上され、回数は 1 とすることを基本とする。（薬剤等） 但し、合計処理が不可能な場合で、各々を別レコードとして分離できず、かつ、点数が 1 回当たり点数となる場合は、回数として 2 以上が入る。合計処理は、統一データ処理にて実施。」と記載されており、その入力方法の解釈により行為回数のみを用いた場合、分子に含まれないことがあるため、出来高実績点数も利用した指標としている。ただし、出来高実績点数には 0 を入力しているデータも多く存在し、DPC データによる判定では分子に含まれないケースが潜在的に存在しうる。
3. ガイドラインの推奨からは、年齢によらず新生児も含めて 2 セットの実施を指標として参照することが望まれる。ただし実運用として、特に小児を考慮した他の施設での実施状況との比較として、年齢別の指標値を併せた検討も考慮できる。
4. 感染を疑わないスクリーニング検査として 1 回のみの実施を多く行っている場合、実施率が低くなる。

参考資料

参考値

参考資料

1. JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2017－敗血症およびカテーテル関連血流感染症－

基本情報

指標番号

2107

名称

血液培養検査において、同日に 2 セット以上の実施割合

分母

血液培養のオーダー日数（人日）

分子

血液培養のオーダーが 1 日に 2 件以上ある日数（人日）

指標群

感染症系

意義

血液培養は 1 セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2 セット以上行うことが推奨されている

年度

2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 実施日が解析期間のケースを対象とする
2. このうち、EF ファイルより下記の血液培養オーダー、1 患者 1 日毎に実施された日数を集計する。同一日に複数のレコードがあっても、1 とカウント。

レセ電コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
160058610	細菌培養同定検査（血液）	D018_3	○	○	○	○	○	○	○	○

3. 特定機能病院を除く(2024 年 9 月まで、2024 年 10 月以降は含む)

分子の定義

1. 上記血液培養の実施回数が 1 日 2 回以上の日数を合計する。実施回数は 1 患者 1 日で合計する。実施回数は、EF ファイルでは EF-7='000'以外のレコード（F ファイル相当）から集計し、行為回数 EF-21×使用量 EF-12（ただし、使用量は「0」の場合 1 として計算）を 1 日当たりで合計したもののが 2 以上、あるいは出来高実績点数 EF-16 の 1 日当たり合計が 2 回分以上（2015 年度まで 190 点、2016 年度より 210 点のため、算出としては例えば合計が 380 点以上で判定）を分子とする。E ファイル F ファイルが別の場合、F ファイルより使用量 F-12 あるいは出来高実績点数 EF-16 を抽出し、それに紐づく E ファイルの行為回数 E-15 を掛け合わせて算出する。（使用量「0」の場合の処理は同様）

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 2014 年度データ以降で測定（2014 年度診療報酬改定から、血液を 2 か所以上から採取した場合に限り、2 回算定できる）
2. 「DPC 導入の影響評価に係る調査」実施説明資料では行為回数（E-15、EF-21）の入力について、「同一日に同一行為が複数回発生した場合は、合計した点数が E-11、12、13 に計上され、回数は 1 とすることを基本とする。（薬剤等） 但し、合計処理が不可能な場合で、各々を別レコードとして分離できず、かつ、点数が 1 回当たり点数となる場合は、回数として 2 以上が入る。合計処理は、統一データ処理にて実施。」と記載されており、その入力方法の解釈により行為回数のみを用いた場合、分子に含まれないことがあるため、出来高実績点数も利用した指標としている。ただし、出来高実績点数には 0 を入力しているデータも多く存在し、DPC データによる判定では分子に含まれないケースが潜在的に存在しうる。
3. 特定機能病院では、微生物学的検査は基本的検体検査実施料に含まれ、検査項目が EF ファイルに記載されない場合が多かった。しかし 2024 年 10 月データからは特定機能病院でも記載されるようになるため、2024 年 9 月までは特定機能病院のデータは除外、2024 年 10 月データからは含む。
4. ガイドラインの推奨からは、年齢によらず新生児も含めて 2 セットの実施を指標として参照することが望まれる。ただし実運用として、特に小児を考慮した他の施設での実施状況との比較として、年齢別の指標値を併せた検討も考慮できる。
5. 感染を疑わないスクリーニング検査として 1 回のみの実施を多く行っている場合、実施率が低くなる。

参考資料

参考値

参考資料

1. JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2017 –敗血症およびカテーテル関連血流感染症–

基本情報

指標番号

2108

名称

抗 MRSA 薬投与症例対して、細菌検査を実施された割合

分母

抗 MRSA 薬を投与された症例数

分子

分母のうち、細菌検査を測定された症例

指標群

感染症

意義

抗 MRSA 薬使用時は、抗 MRSA 薬および他の抗菌薬に対する感受性（耐性）の確認が勧告されている

年度

2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

F ファイル,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に入退院した症例を対象とする。
2. このうち、抗 MRSA 薬を投与された症例。E/F ファイルの薬剤情報の点数コードに、以下のいずれかの薬価基準コード 7 桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。

薬価基準コード 7 桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6113400	バンコマイシン塩酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6119400	アルベカシン硫酸塩	注射薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6119401	テイコプラニン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6119402	ダプトマイシン	注射薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6249401	リネゾリド	注射薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6249002	リネゾリド	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○

3. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く
4. 特定機能病院を除く(2024 年 9 月まで、2024 年 10 月以降は含む)

分子の定義

1. 分母のうち、細菌培養同定検査が実施された症例。E/F ファイルの診療行為の点数コードのいずれかに以下のいずれかが含まれる症例

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
160058210	細菌培養同定検査（口腔からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○	○	○
160144410	細菌培養同定検査（気道からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○	○	○
160144510	細菌培養同定検査（呼吸器からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○	○	○
160058310	細菌培養同定検査（消化管からの検体）	D018_2	○	○	○	○	○	○	○	○
160058610	細菌培養同定検査（血液）	D018_3	○	○	○	○	○	○	○	○
160144710	細菌培養同定検査（穿刺液）	D018_3	○	○	○	○	○	○	○	○
160058410	細菌培養同定検査（泌尿器からの検体）	D018_4	○	○	○	○	○	○	○	○
160144610	細菌培養同定検査（生殖器からの検体）	D018_4	○	○	○	○	○	○	○	○
160058710	細菌培養同定検査（その他の部位からの検体）	D018_5	○	○	○	○	○	○	○	○
160058810	細菌培養同定検査（簡易培養）	D018_6	○	○	○	○	○	○	○	○
160058970	嫌気性培養加算（細菌培養同定検査）	D018_7	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 感受性の確認が推奨されるが、診療報酬上、結果として菌が検出できず実施できなかった場合には細菌薬剤感受性検査は算定しないため、細菌培養同定検査の有無を指標とする。
2. 特定機能病院では、微生物学的検査は基本的検体検査実施料に含まれ、検査項目が EF ファイルに記載されない場合が多かった。しかし 2024 年 10 月データからは特定機能病院でも記載されるようになるため、2024 年 9 月までは特定機能病院のデータは除外、2024 年 10 月データからは含む。

参考資料

参考値

参考資料

1. 「抗 MRSA 薬使用の手引き」 <http://www.kansensho.or.jp/guidelines/>
2. MRSA 感染症の診療ガイドライン 2024

基本情報

指標番号

2124_2

名称

カルバペネム・ニューキノロン・抗 MRSA 薬使用までの培養検査実施率

分母

カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬、抗 MRSA 薬（バンコマイシン内服は除く）投与を開始した入院症例数

分子

分母のうち投与開始初日までに培養検査を実施した人数

指標群

感染症

意義

広域抗菌薬を使用する際の望ましいプラクティス

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 入院中の広域抗菌薬(下記) に該当するものを検索する。また入院中の最初の算定日を同定し、最初の算定日のみを対象とする。

薬 価 基 準 コード 7 桁	名称	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6113400	抗MRSA注射薬	バンコマイシン塩 酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
6119400	抗MRSA注射薬	アルベカシン硫酸 塩	○	○	○	○	○	○	○	○
6119401	抗MRSA注射薬	テイコプラニン	○	○	○	○	○	○	○	○
6119402	抗MRSA注射薬	ダプトマイシン	○	○	○	○	○	○	○	○
6139400	カルバペネム系 注射薬	メロペネム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
6139401	カルバペネム系 注射薬	ビアペネム	○	○	○	○	○	○	○	○
6139402	カルバペネム系 注射薬	ドリペネム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
6139501	カルバペネム系 注射薬	イミペネム水和 物・シラスタチン ナトリウム	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準 コード 7 桁	名称	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6139503	カルバペネム系 注射薬	パニペネム・ベタ ミプロン	○	○	○	○	○	○	○	○
6241400	ニューキノロン 系注射薬	シプロフロキサシ ン	○	○	○	○	○	○	○	○
6241401	ニューキノロン 系注射薬	パズフロキサシン メシル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
6241402	ニューキノロン 系注射薬	レボフロキサシン 水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
6249401	抗MRSA注射薬	リネゾリド	○	○	○	○	○	○	○	○
6249402	抗MRSA注射薬	テジゾリドリン酸 エステル					○	○	○	○
6249002	抗MRSA経口薬	リネゾリド	○	○	○	○	○	○	○	○
6249003	抗MRSA経口薬	テジゾリドリン酸 エステル					○	○	○	○

2. 特定機能病院を除く(2024 年 9 月まで、2024 年 10 月以降は含む)

分子の定義

- 入院日より分母で同定した広域抗菌薬の最初の算定日まで(最初の算定日を含む)に、下記の培養の実施があれば分子 1 とする。

診療行為 コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
16005821 0	細菌培養同定検査(口腔か らの検体)	D018_ 1	○	○	○	○	○	○	○	○
16014441 0	細菌培養同定検査(気道か らの検体)	D018_ 1	○	○	○	○	○	○	○	○
16014451 0	細菌培養同定検査(呼吸器 からの検体)	D018_ 1	○	○	○	○	○	○	○	○
16005831 0	細菌培養同定検査(消化管 からの検体)	D018_ 2	○	○	○	○	○	○	○	○
16005861 0	細菌培養同定検査(血液)	D018_ 3	○	○	○	○	○	○	○	○
16014471 0	細菌培養同定検査(穿刺 液)	D018_ 3	○	○	○	○	○	○	○	○
16005841 0	細菌培養同定検査(泌尿器 からの検体)	D018_ 4	○	○	○	○	○	○	○	○
16014461 0	細菌培養同定検査(生殖器 からの検体)	D018_ 4	○	○	○	○	○	○	○	○
16005871 0	細菌培養同定検査(その他 の部位からの検体)	D018_ 5	○	○	○	○	○	○	○	○
16005881 0	細菌培養同定検査(簡易培 養)	D018_ 6	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. バンコマイシンの内服薬は腸炎への利用であり、用途が異なり分母から削除した
2. 本定義では、広域抗菌薬を「抗 MRSA 薬（内服、注射、バンコマイシン内服は除く）、カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬」としている（2018 年度の定義の見直し時）
3. 外来や紹介元での検査結果をもとに治療している場合、指標値が低くなる
4. スクリーニング検査などを実施している場合、指標値が高くなる
5. 特定機能病院では、微生物学的検査は基本的検体検査実施料に含まれ、検査項目が EF ファイルに記載されない場合が多かった。しかし 2024 年 10 月データからは特定機能病院でも記載されるようになるため、2024 年 9 月までは特定機能病院のデータは除外、2024 年 10 月データからは含む。

参考資料

参考値

参考資料

1. 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/1708_ASP_guidance.pdf
2. 抗微生物薬適正使用の手引き 第三版, 2023.厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001169116.pdf>

基本情報

指標番号
2124

名称
カルバペネム・ニューキノロン・抗 MRSA 薬使用時の血液培養実施率

分母
カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬、（バンコマイシン内服は除く）投与を開始した入院症例数

分子
分母のうち投与開始初日に血液培養検査を実施した人数

指標群
感染症

意義
広域抗菌薬を使用する際の望ましいプラクティス

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 入院中の広域抗菌薬(下記) に該当するものを検索する。また入院中の最初の算定日を同定し、最初の算定日のみを対象とする。

薬 価 基 準 コード 7 桁	名称	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6113400	抗MRSA注射薬	バンコマイシン塩 酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
6119400	抗MRSA注射薬	アルベカシン硫酸 塩	○	○	○	○	○	○	○	○
6119401	抗MRSA注射薬	テイコプラニン	○	○	○	○	○	○	○	○
6119402	抗MRSA注射薬	ダプトマイシン	○	○	○	○	○	○	○	○
6139400	カルバペネム系 注射薬	メロペネム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
6139401	カルバペネム系 注射薬	ビアペネム	○	○	○	○	○	○	○	○
6139402	カルバペネム系 注射薬	ドリペネム水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
6139501	カルバペネム系 注射薬	イミペネム水和 物・シラスタチン ナトリウム	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準 コード 7 桁	名称	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6139503	カルバペネム系 注射薬	パニペネム・ベタ ミプロン	○	○	○	○	○	○	○	○
6241400	ニューキノロン 系注射薬	シプロフロキサシ ン	○	○	○	○	○	○	○	○
6241401	ニューキノロン 系注射薬	パズフロキサシン メシル酸塩	○	○	○	○	○	○	○	○
6241402	ニューキノロン 系注射薬	レボフロキサシン 水和物	○	○	○	○	○	○	○	○
6249401	抗MRSA注射薬	リネゾリド	○	○	○	○	○	○	○	○
6249402	抗MRSA注射薬	テジゾリドリン酸 エステル					○	○	○	○
6249002	抗MRSA経口薬	リネゾリド	○	○	○	○	○	○	○	○
6249003	抗MRSA経口薬	テジゾリドリン酸 エステル					○	○	○	○

2. 特定機能病院を除く(2024 年 9 月まで、2024 年 10 月以降は含む)

分子の定義

1. 分母で同定した広域抗菌薬の最初の算定日に、血液培養の実施があれば分子 1 とする。

レセ電コ ード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
16005861 0	細菌培養同定検査（血 液）	D018_3	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- バンコマイシンの内服薬は腸炎への利用であり、用途が異なり分母から削除した
- 本定義では、広域抗菌薬を「抗 MRSA 薬（内服、注射、バンコマイシン内服は除く）、カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬」としている（2018 年度の定義の見直し時）但し、抗 MRSA 薬の外用薬及び、バンコマイシン塩酸塩内服薬は除く。

3. 特定機能病院では、微生物学的検査は基本的検体検査実施料に含まれ、検査項目が EF ファイルに記載されない場合が多かった。しかし 2024 年 10 月データからは特定機能病院でも記載されるようになるため、2024 年 9 月までは特定機能病院のデータは除外、2024 年 10 月データからは含む。

参考資料

参考値

参考資料

1. 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス - 日本感染症学会
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/1708_ASP_guidance.pdf
2. 抗微生物薬適正使用の手引き第三版, 2023.厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001169116.pdf>

基本情報

指標番号
2128

名称
経口第 3 世代セフェム処方が経口抗菌薬全体に占める割合

分母
外来にて経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日

分子
外来にて経口第 3 世代セフェム処方の含まれる処方が実施された人日

指標群
感染症

意義
経口第 3 世代セフェムの削減は、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの目標項目である。2020 年までに（2013 年比）50%削減が成果指標として掲げられている。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日を算出する。1 日に複数の種類（例：セフェム系経口抗菌薬とカルバペネム系経口抗菌薬）の処方や複数回の処方が見られた場合も 1 人日とする。

薬価基準コード 7 桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6111002	ベンジルペニシリンベンザチン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6112001	クリンダマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6112003	リンコマイシン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6113001	バンコマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6119001	フィダキソマイシン	内服薬					○	○	○	○
6121001	ピブメシリナム塩酸塩	内服薬	○	○	○					
6123003	カナマイシン一硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6125001	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6126001	ポリミキシン B 硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6129001	セフチブテン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○		
6131001	アモキシシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6131002	アンピシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6131004	バカンピシリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6131005	シクラシリン	内服薬	○							

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6131008	スルタミシリントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132001	セファトリジンプロピレングリコール	内服薬	○							
6132002	セファレキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132005	セファクロル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132006	セフロキサジン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132007	セファドロキシル	内服薬	○							
6132008	セフィキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132009	セフテラム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132010	セフロキシム アキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132011	セフポドキシム プロキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132012	セフォチアム ヘキセチル塩酸塩	内服薬	○	○	○	○				
6132013	セフジニル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132015	セフジトレン ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132016	セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6135001	ホスホマイシンカルシウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6139001	ファロペネムナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6139002	テビペネム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6139100	アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6141001	エリスロマイシンエチルコハク酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6141002	エリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6141004	エリスロマイシンステアリン酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6142001	スピラマイシン酢酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6145001	ジョサマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	
6145002	ジョサマイシンプロピオン酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	
6146001	ミデカマイシン	内服薬	○							
6146002	酢酸ミデカマイシン	内服薬	○							
6149001	ロキタマイシン	内服薬	○	○	○					
6149002	ロキシスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6149003	クラリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6149004	アジスロマイシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6149005	テリスロマイシン	内服薬	○							
6151001	クロラムフェニコール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6151002	パルミチン酸クロラムフェニコール	内服薬	○							
6152002	テトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6152003	デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6152004	ドキシサイクリン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6152005	ミノサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6191001	アンピシリン水和物・クロキサシリンナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6199001	リファキシミン	内服薬				○	○	○	○	○
6212002	スルファメトキサゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6213001	スルファジメトキシ	内服薬	○	○	○	○				
6219001	サラゾスルファピリジン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6219002	スルファメチゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6222006	デラマニド	内服薬			○	○	○	○	○	○
6241001	ナリジクス酸	内服薬	○	○	○	○				
6241002	ピペミド酸水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241003	ピロミド酸	内服薬	○							
6241004	シノキサシン	内服薬	○	○	○					
6241005	ノルフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241006	オフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241007	エノキサシン	内服薬	○							
6241008	シプロフロキサシン塩酸塩	内服薬					○	○	○	○
6241008	塩酸シプロフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241009	塩酸ロメフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241010	トスフロキサシントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241011	スパルフロキサシン	内服薬	○							
6241013	レボフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241015	プルリフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241016	モキシフロキサシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241017	メシル酸ガレノキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241018	シタフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241019	ラスクフロキサシン塩酸塩	内服薬					○	○	○	○
6249002	リネゾリド	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6249003	テジグリドリン酸エステル	内服薬					○	○	○	○
6290100	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6419006	スピラマイシン	内服薬					○	○	○	○

2. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 外来 EF ファイルより、経口第3世代セフェムの含まれる処方が実施された人日を算出する。
1日に複数の薬剤処方や複数回の処方が見られた場合も1人日で集約する。

薬価基準コード 7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6129001	セフチブテン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○		
6132008	セフィキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132009	セフテラム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132011	セフポドキシム プロキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132013	セフジニル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132015	セフジトレン ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132016	セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

日

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 投与量が十分であれば適正使用となることもあるが、ごく稀と考えられ、基本的に目標値はゼロである。

参考資料

参考値

1. 経口抗菌薬全体の 22%が第 3 世代セフェム 2)

参考資料

1. 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000120769.pdf>
2. 藤田基資. 5 年で 50%？ 経口セフェムは削減できるか？. 小児感染免疫. 2016;28(4):302-310. <http://www.jspid.jp/journal/full/02804/028040302.pdf>.

基本情報

指標番号
2129

名称
経口カルバペネム処方数が経口抗菌薬全体に占める割合

分母
外来にて経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日

分子
外来にて経口カルバペネム処方の含まれる処方が実施された人日

指標群
感染症

意義
経口カルバペネム系抗菌薬の削減は、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの目標項目である。
2020 年までに（2013 年比）50%削減が成果指標として掲げられている。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日を算出する。1 日に複数の種類（例：セフェム系経口抗菌薬とカルバペネム系経口抗菌薬）の処方や複数回の処方が見られた場合も 1 人日とする。

薬価基準コード 7 桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6111002	ベンジルペニシリンベンザチン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6112001	クリンダマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6112003	リンコマイシン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6113001	バンコマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6119001	フィダキソマイシン	内服薬					○	○	○	○
6121001	ピブメシリナム塩酸塩	内服薬	○	○	○					
6123003	カナマイシン一硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6125001	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6126001	ポリミキシンB 硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6129001	セフチブテン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○		
6131001	アモキシシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6131002	アンピシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6131004	バカンピシリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6131005	シクラシリン	内服薬	○							

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6131008	スルタミシリントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132001	セファトリジンプロピレングリコール	内服薬	○							
6132002	セファレキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132005	セファクロル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132006	セフロキサジン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132007	セファドロキシル	内服薬	○							
6132008	セフィキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132009	セフテラム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132010	セフロキシム アキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132011	セフポドキシム プロキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132012	セフォチアム ヘキセチル塩酸塩	内服薬	○	○	○	○				
6132013	セフジニル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132015	セフジトレン ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6132016	セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6135001	ホスホマイシンカルシウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6139001	ファロペネムナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6139002	テビペネム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6139100	アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6141001	エリスロマイシンエチルコハク酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6141002	エリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6141004	エリスロマイシンステアリン酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6142001	スピラマイシン酢酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6145001	ジョサマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	
6145002	ジョサマイシンプロピオン酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	
6146001	ミデカマイシン	内服薬	○							
6146002	酢酸ミデカマイシン	内服薬	○							
6149001	ロキタマイシン	内服薬	○	○	○					
6149002	ロキシスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6149003	クラリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6149004	アジスロマイシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6149005	テリスロマイシン	内服薬	○							
6151001	クロラムフェニコール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6151002	パルミチン酸クロラムフェニコール	内服薬	○							
6152002	テトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
6152003	デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6152004	ドキシサイクリン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6152005	ミノサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6191001	アンピシリン水和物・クロキサシリンナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6199001	リファキシミン	内服薬				○	○	○	○	○
6212002	スルファメトキサゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6213001	スルファジメトキシ	内服薬	○	○	○	○				
6219001	サラゾスルファピリジン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6219002	スルファメチゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6222006	デラマニド	内服薬			○	○	○	○	○	○
6241001	ナリジクス酸	内服薬	○	○	○	○				
6241002	ピペミド酸水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241003	ピロミド酸	内服薬	○							
6241004	シノキサシン	内服薬	○	○	○					
6241005	ノルフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241006	オフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241007	エノキサシン	内服薬	○							
6241008	シプロフロキサシン塩酸塩	内服薬					○	○	○	○
6241008	塩酸シプロフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241009	塩酸ロメフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241010	トスフロキサシントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241011	スパルフロキサシン	内服薬	○							
6241013	レボフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241015	プルリフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241016	モキシフロキサシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241017	メシル酸ガレノキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241018	シタフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6241019	ラスクフロキサシン塩酸塩	内服薬					○	○	○	○
6249002	リネゾリド	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6249003	テジゾリドリン酸エステル	内服薬					○	○	○	○
6290100	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○	○
6419006	スピラマイシン	内服薬					○	○	○	○

分子の定義

1. 外来 EF ファイルより、経口カルバペネムの含まれる処方を実施された人日を算出する。 1 日に複数の薬剤処方や複数回の処方が見られた場合も 1 人日で集約する。

レセ電コード	漢字名称	成分名	薬価基準コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
610411055	ファロム錠 150mg	ファロペネムナトリウム水和物	6139001 F1028	○	○	○	○	○	○	○	○

レセ電コード	漢字名称	成分名	薬価基準コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
610411056	ファロム錠 200mg	ファロペネ ムナトリウ ム水和物	613900 1 F2024	○	○	○	○	○	○	○	○
620008702	ファロムド ライシロッ プ小児用1 0% 10 0mg	ファロペネ ムナトリウ ム水和物	613900 1 R1032	○	○	○	○	○	○	○	○
621926801	オラペネム 小児用細粒 10% 1 00mg	テビペネム ピボキシル	613900 2 C1026	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

日

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 基本的に目標値はゼロである。

参考資料

参考値

参考資料

1. 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000120769.pdf>

基本情報

指標番号

2194

名称

広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率（厚労省）

分母

広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数

分子

分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数

指標群

感染症

意義

年度

2022,2023,2024

必要データセット

EF ファイル、外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. 入院後 24 時間以内に死亡した患者、生後 1 週間以内に死亡した新生児、下記臓器移植は対象外とする。

手術コード	手術名	2022	2023	2024
K014	皮膚移植術(生体・培養)	△	○	△
K014-2	皮膚移植術(死体)	△	○	△
K514-4	同種死体肺移植術	△	○	△
K514-6	生体部分肺移植術	△	○	△
K605-2	同種心移植術	△	○	△
K605-4	同種心肺移植術	△	○	△
K697-5	生体部分肝移植術	△	○	△
K697-7	同種死体肝移植術	△	○	△
K709-3	同種死体脾臓移植術	△	○	△
K709-5	同種死体脾臓腎移植術	△	○	△
K709-6	同種死体脾臓島移植術	△	○	△
K716-4	生体部分小腸移植術	△	○	△
K716-6	同種死体小腸移植術	△	○	△

手術コード	手術名	2022	2023	2024
K780	同種死体腎移植術	△	○	△
K780-2	生体腎移植術	△	○	△
K922	造血幹細胞移植	△	○	△

3. 広域スペクトルの抗菌薬 以下の薬価基準コードの薬剤が投与された患者を抽出する（入院期間の外来 EF データを含む）

	薬価基準コード 7桁	名称	2022	2023	2024
ピペラシリン	6131403	ピペラシリン	△	○	△
カルバペネム系	6139002	デビペネムピボキシル	△	○	△
カルバペネム系	6139400	メロペネム水和物	△	○	△
カルバペネム系	6139401	ビアペネム	△	○	△
カルバペネム系	6139402	ドリペネム	△	○	△
カルバペネム系	6139501	イミペネム・シラスタチンナトリウム	△	○	△
カルバペネム系	6139503	パニペネム・ベタミプロン	△	○	△
カルバペネム系	6139505	タゾバクタム	△	○	△
第4世代セフェム系	6132418	セフトジジム水和物	△	○	△
第4世代セフェム系	6132424	セフピロム硫酸塩	△	○	△
第4世代セフェム系	6132425	セフェピム塩酸塩水和物	△	○	△
第4世代セフェム系	6132426	セフォゾプラン塩酸塩	△	○	△

4. 2022 年 4 月から 2024 年 9 月データでは特定機能病院を除く
5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 入院日より分母で同定した広域スペクトルの抗菌薬の最初の算定日まで（最初の算定日を含む）（期間の外来データを含む）に、下記の算定があった患者を抽出し、分子を1とする。

レセプト電算コード	名称	2022	2023	2024
160058210	細菌培養同定検査（口腔）	△	○	△
160144410	細菌培養同定検査（気道）	△	○	△
160144510	細菌培養同定検査（呼吸器）	△	○	△
160058310	細菌培養同定検査（消化管）	△	○	△
160058610	細菌培養同定検査（血液）	△	○	△
160144710	細菌培養同定検査（穿刺液）	△	○	△
160058410	細菌培養同定検査（泌尿器）	△	○	△
160144610	細菌培養同定検査（生殖器）	△	○	△
160058710	細菌培養同定検査（その他）	△	○	△
160058810	細菌培養同定検査（簡易培養）	△	○	△
160058970	嫌気性培養加算（細菌培養同定検査）	△	○	△
160212670	質量分析装置加算（細菌培養同定検査）	△	○	△

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 厚労省の示す 2023 年度データによる計測定義では、2023 年度データを利用することになっているが、QIP での計測では、例えば 2023 年 4 月 1 日退院の症例について、2022 年度の EF ファイルなど、他年度の EF ファイルデータも用いる。
2. 医療機能評価機構における医療の可視化プロジェクトでは、薬剤ごとの投与日の最初を検索することを想定し、いずれかで 1 回でも分子に含めることを可としているが、算出の技術的な問題および意義的観点から、QIP では対象となる抗菌薬投与のうち、最初の投与日を抗菌薬投与日とする解析とした。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号
2048

名称
薬剤管理指導実施割合（実施患者数ベース）

分母
入院症例数

分子
分母のうち、薬剤管理指導を受けた症例数

指標群
マネジメント

意義
薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020, 2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 薬剤指導管理実施の算定されている症例

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
113010710	薬剤管理指導料 1（救命救急入院料等算定患者）	○	○	○	○				
113010810	薬剤管理指導料（安全管理を要する医薬品投与患者）	○	○	○	○	○	○	○	○
120001610	薬剤管理指導料	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力
いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法
分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 薬剤管理指導料は、算定には特定の施設基準を満たしている必要があり、実施が「0」の施設は、未実施という意味ではない可能性が高い（これらの施設件数も比較には参考となると考えられるため、表・グラフには、0 の施設も併記はする）。必ずしも、すべての患者に薬剤管理指導を要するわけではなく、100%を目指す指標ではない。分子の薬剤管理指導は、特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者に対して行う場合以外も含め、管理指導が実施の有無の計測を主旨とする。指標としては、このほかに、実施回数を考慮したものが考えられる。

参考資料

参考値

参考資料

1. 日本医療・病院管理学会誌 49(4)195-203

基本情報

指標番号

2071

名称

悪性腫瘍症例に対する退院支援の割合

分母

悪性腫瘍入院症例数

分子

分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例

指標群

マネジメント

意義

患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成 28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成 30（2018）年度以降）」が新設された。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. 医療資源を最も利用した傷病名に、ICD-10 コードとして以下のコードが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
C\$	C00-D48 新生物
D\$	D50-D89 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害

3. このうち、退院時転帰が「6. 最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7. 最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算が算定されている症例。以下のいずれかが算定されている症例

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190128310	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○							
190128410	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○							

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190137110	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院支援計画作成加算）	○							
190137210	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○							
190137310	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○							
190137410	急性期病棟等退院調整加算 1	○							
190137510	急性期病棟等退院調整加算 2	○							
190141470	退院調整加算（認知症治療病棟入院料）	○	○	○	○	○	○	○	○
190147610	退院調整加算（一般病棟入院等）（～14日）		○	○	○				
190147710	退院調整加算（一般病棟入院等）（15日～30日）		○	○	○				
190147810	退院調整加算（一般病棟入院等）（31日～）		○	○	○				
190147910	退院調整加算（療養病棟入院等）（～30日）		○	○	○				
190148010	退院調整加算（療養病棟入院等）（31日～90日）		○	○	○				
190148110	退院調整加算（療養病棟入院等）（91日～120日）		○	○	○				
190148210	退院調整加算（療養病棟入院等）（121日～）		○	○	○				
190173310	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（～14日）			○	○				
190173410	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（15日～30日）			○	○				
190173510	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（31日～）			○	○				
190173610	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（～30日）			○	○				
190173710	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（31日～90日）			○	○				
190173810	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（91日～120日）			○	○				
190173910	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（121日～）			○	○				
190192310	入退院支援加算 1（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192410	入退院支援加算 1（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192510	入退院支援加算 2（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192610	入退院支援加算 2（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190192910	入退院支援加算（特定地域）（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190193010	入退院支援加算（特定地域）（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190207470	入院時支援加算 2（入退院支援加算）					○	○	○	○
190217970	入院時支援加算 1（入退院支援加算）						○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- たとえば、入退院支援加算の算定対象は「退院困難な要因」（下記）のある患者とされている。したがって、必ずしも特定の疾患を対象としたものではないが、本指標ではとくに悪性腫瘍を対象として測定を行っている。※入退院支援加算 1 / 2 の対象となる「退院困難な要因」ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること イ 緊急入院であること ウ 要介護状態であるとの疑いがあるが要介護認定が未申請であること（介護保険法施行令（平成 10 年政令第 412 号）第 2 条各号に規定する特定疾病を有する 40 歳以上 65 歳未満の者及び 65 歳以上の者に限る。） エ 家族又は同居者から虐待を受けている又はその疑いがあること オ 生活困窮者であること カ 入院前に比べ ADL が低下し、退院後の生活様式の再編が必要であること（必要と推測されること。） キ 排泄に介助を要すること ク 同居者の有無に関わらず、必要な養育又は介護を十分に提供できる状況にないこと ケ 退院後に医療処置（胃瘻等の経管栄養法を含む。）が必要なこと コ 入退院を繰り返していること サ その他患者の状況から判断してアからコまでに準ずると認められる場合
- 入退院支援加算 1 と 2 では施設基準が異なるが、本指標では両者を合算した数を測定している
- 年度により算定基準が異なることに注意が必要である。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号
2079

名称
糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への栄養管理実施割合

分母
18 歳以上の糖尿病・慢性腎臓病であり、それらへの治療が主目的ではない入院症例の食事

分子
分母のうち、特別食加算の算定

指標群
マネジメント

意義
積極的な栄養管理の介入

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020, 2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、入院時併存症として糖尿病か慢性腎臓病が診断されている入院した症例。入院時併存症に、ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
E10\$～ E14\$	糖尿病
N03\$	慢性腎炎症候群
N04\$	ネフローゼ症候群
N18\$	慢性腎不全

4. このうち、主傷病名、入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名のいずれかに糖尿病か慢性腎臓病が該当する症例は除外する（コードは上記と同一）
5. 算定された食事回数（EF-12×EF-21 の合計、ただし「0」が入力されたものは「1」として集計）を計測する。下記レセ電コードの算定回数

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
197000110	入院時食事療養（1）（1食につき）	○	○	○	○	○	○	○	○

6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く
7. 分子の値が分母の値を超える場合除外する（分子の定義、測定上の限界・解釈上の注意を参照）

分子の定義

1. 分母で抽出された症例に対し、特別食加算の算定された回数（EF-12×EF-21 の合計、ただし「0」が入力されたものは「1」として集計）を計測する。

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
197000470	特別食加算（食事療養）	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 分母の値を超えるときは分母共に除外（例：1 入院毎の集計で除外を判定 測定上の限界・解釈上の注意を参照）

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. EF ファイルを利用する場合は、F ファイル相当のレコードのみ利用する。本指標は主に急性期医療の症例を対象とするため、下記は対象外としている

レセ電コード	行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
197001310	入院時生活療養（1）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○	○	○
197001710	入院時生活療養（2）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 本来は分子は分母に含まれるが、本指標の計測の定義ではデータのずれが出てくることもあるため、割合が 1 を超える数値で出てくる場合がある。このため、本定義では各症例の入院ごとに分母となる数と分子となる数を抽出集計し、それら各々について分子が分母を超えないかどうかの確認を行い、超えていない整合性のあるデータのみ利用する方法を提示した。このほか 1 症例 1 日毎での判定などより詳細にデータ処理も可能である。
3. 食事回数は EF-12×EF-21 の合計、ただし「0」が入力されたものは「1」として集計しているが、データの入力方法によれば必ずしも食事「回数」にならないことがある。「DPC 導入の影響評価に係る調査」実施説明資料では行為回数（E-15、EF-21）の入力について、「同一日に同一行為が複数回発生した場合は、合計した点数が E-11、12、13 に計上され、回数は 1 とすることを基本とする。（薬剤等） 但し、合計処理が不可能な場合で、各々を別レコードとして分離できず、かつ、点数が 1 回当たり点数となる場合は、回数として 2 以上が入る。合計処理は、統一データ処理にて実施。」と記載されており、その入力方法の解釈により行為回数のみを用いた場合、回数が少なく集計されることがある。出来高実績点数の利用も可能だが、点数が複雑になるため、本指標では、EF12 と EF21 のみを利用する。

4. 流動食（市販されているものに限る。）のみを経管栄養法により提供したときは、特別食加算として算定しない（厚生労働省通知 保医発 0304 第 5 号 3 特別食加算（1））ため、市販流動食のみの提供に相当する診療行為は分母の定義としては含めない。
5. 197000710 入院時食事療養（2）（1 食につき）を算定した場合には加算の算定はされないものとして、本指標から除外した。

参考資料

参考値

参考資料

1. <http://www.nutri.co.jp/nutrition/keywords/append/>
2. 保医発 0304 第 5 号「入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養の実施上の留意事項について」の一部改正について
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000114858.pdf>

基本情報

指標番号
2080

名称
糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への早期栄養管理実施割合

分母
18 歳以上の糖尿病・慢性腎臓病であり、それらへの治療が主目的ではない入院症例の入院翌日までの食事

分子
分母のうち、特別食加算の算定

指標群
マネジメント

意義
積極的な栄養管理の介入

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020, 2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 18 歳以上の症例。
3. このうち、入院時併存症として糖尿病か慢性腎臓病が診断されている入院した症例。入院時併存症に、ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
E10\$ ~E14\$	糖尿病
N03\$	慢性腎炎症候群
N04\$	ネフローゼ症候群
N18\$	慢性腎不全

4. このうち、主傷病名、入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名のいずれかに糖尿病か慢性腎不全が該当する症例は除外する（コードは上記と同一）
5. 上記にて抽出された症例に対して、入院翌日までに算定された食事回数を計測する。下記レセ電コードの算定回数

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
197000110	入院時食事療養（1）（1食につき）	○	○	○	○	○	○	○	○

6. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母で抽出された症例に対し、入院翌日までに特別食加算の算定された回数を計測する。

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
197000470	特別食加算（食事療養）	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. EF ファイルを利用する場合は、F ファイル相当のレコードのみ利用する。本指標は主に急性期医療の症例を対象とするため、下記は対象外としている

レセ電コード	行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
197001310	入院時生活療養（1）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○	○	○
197001710	入院時生活療養（2）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 197000710 入院時食事療養（2）（1食につき）を算定した場合には加算の算定はされないものとして、本指標から除外した。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号
2090

名称
DPC 入院期間 II 以内の割合

分母
退院症例数（DPC 分析対象）

分子
入院期間 II 以内の退院数

指標群
マネジメント

意義
マネジメント

年度
2014,2016,2018,2020, 2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、分科会の分析対象データを参考に、以下の基準で除外を行う ① 在院日数 1 日以下（外泊日数含む）② 外泊>=在院日数 ③ 年齢 0 歳未満 120 歳超 ④ 一般病棟以外の病棟との移動あり（DPC 対象病棟となる入院料を算定していないもの）⑤ 24 時間以内の死亡 ⑥ 移植手術あり ⑦ DPC 該当せず ⑧ 治験の実施 ⑨ 生後 7 日以内の死亡
3. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母のうち、入院期間 II 以内の退院数

その他

薬剤一覧の出力
いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法
分子÷分母

指標の単位
パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 症例の限定は分科会定義に準じるが、完全に一致はしない。 マネジメントの指標値であつて、計測値の解釈は個別に必要。 DPC 対象の精神病棟への入院も除外している。

参考資料

参考値

参考資料

1. 平成 22 年度第 9 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000ysr0.html>
2. 平成 23 年度第 9 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001u23a.html>
3. 平成 24 年度第 5 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002hs9l.html>
4. 平成 25 年度第 7 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000023522.html>
5. 平成 26 年度第 5 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000056344.html>
6. 平成 27 年度第 7 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000104146.html>
7. 平成 28 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043.html>
8. 平成 29 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00001.html
9. 平成 30 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00003.html
10. 令和元年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00004.html
11. 令和 2 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00005.html
12. 令和 3 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00006.html
13. 令和 4 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/newpage_39119.html

基本情報

指標番号

2091

名称

DPC 入院期間 III 超えの割合

分母

退院症例数（DPC 分析対象）

分子

入院期間 III より長い退院数

指標群

マネジメント

意義

マネジメント

年度

2014,2016,2018,2020, 2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、分科会の分析対象データを参考に、以下の基準で除外を行う ① 在院日数 1 日以下（外泊日数含む）② 外泊>=在院日数 ③ 年齢 0 歳未満 120 歳超 ④ 一般病棟以外の病棟との移動あり（DPC 対象病棟となる入院料を算定していないもの）⑤ 24 時間以内の死亡 ⑥ 移植手術あり ⑦ DPC 該当せず ⑧ 治験の実施 ⑨ 生後 7 日以内の死亡
3. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母のうち、在院日数が入院期間 III より長い退院数

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 症例の限定は分科会定義に準じるが、完全に一致はしない。 マネジメントの指標値であつて、計測値の解釈は個別に必要。 DPC 対象の精神病棟への入院も除外している。

参考資料

参考値

参考資料

1. 平成 22 年度第 9 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000ysr0.html>
2. 平成 23 年度第 9 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001u23a.html>
3. 平成 24 年度第 5 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002hs9l.html>
4. 平成 25 年度第 7 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会 議事次第
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000023522.html>
5. 平成 26 年度第 5 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000056344.html>
6. 平成 27 年度第 7 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000104146.html>
7. 平成 28 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043.html>
8. 平成 29 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00001.html
9. 平成 30 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00003.html
10. 令和元年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00004.html
11. 令和 2 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00005.html
12. 令和 3 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00006.html
13. 令和 4 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/newpage_39119.html

基本情報

指標番号

2102

名称

誤嚥性肺炎症例に対する退院支援の割合

分母

誤嚥性肺炎入院症例数

分子

分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例

指標群

マネジメント

意義

患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成 28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成 30（2018）年度以降）」が新設された。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. 医療資源を最も利用した傷病名に、ICD-10 コードとして以下のコードが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
J69\$	固形物および液状物による肺臓炎

3. このうち、退院時転帰が「6. 最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7. 最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算が算定されている症例。以下のいずれかが算定されている症例

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190128310	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○							

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190128410	慢性期病棟等退院調整加算 2 (退院加算・障害者施設等入院基本料等)	○							
190137110	慢性期病棟等退院調整加算 1 (退院支援計画作成加算)	○							
190137210	慢性期病棟等退院調整加算 1 (退院加算・療養病棟入院基本料等)	○							
190137310	慢性期病棟等退院調整加算 1 (退院加算・障害者施設等入院基本料等)	○							
190137410	急性期病棟等退院調整加算 1	○							
190137510	急性期病棟等退院調整加算 2	○							
190141470	退院調整加算 (認知症治療病棟入院料)	○	○	○	○	○	○	○	○
190147610	退院調整加算 (一般病棟入院等) (～14日)		○	○	○				
190147710	退院調整加算 (一般病棟入院等) (15日～30日)		○	○	○				
190147810	退院調整加算 (一般病棟入院等) (31日～)		○	○	○				
190147910	退院調整加算 (療養病棟入院等) (～30日)		○	○	○				
190148010	退院調整加算 (療養病棟入院等) (31日～90日)		○	○	○				
190148110	退院調整加算 (療養病棟入院等) (91日～120日)		○	○	○				
190148210	退院調整加算 (療養病棟入院等) (121日～)		○	○	○				
190173310	退院調整加算 (一般病棟入院等) (特定地域) (～14日)			○	○				
190173410	退院調整加算 (一般病棟入院等) (特定地域) (15日～30日)			○	○				
190173510	退院調整加算 (一般病棟入院等) (特定地域) (31日～)			○	○				
190173610	退院調整加算 (療養病棟入院等) (特定地域) (～30日)			○	○				
190173710	退院調整加算 (療養病棟入院等) (特定地域) (31日～90日)			○	○				
190173810	退院調整加算 (療養病棟入院等) (特定地域) (91日～120日)			○	○				

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190173910	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（121日～）			○	○				
190192310	入退院支援加算 1（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192410	入退院支援加算 1（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192510	入退院支援加算 2（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192610	入退院支援加算 2（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192910	入退院支援加算（特定地域）（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190193010	入退院支援加算（特定地域）（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190207470	入院時支援加算 2（入退院支援加算）					○	○	○	○
190217970	入院時支援加算 1（入退院支援加算）						○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- たとえば、入退院支援加算の算定対象は「退院困難な要因」（下記）のある患者とされている。したがって、必ずしも特定の疾患を対象としたものではないが、本指標ではとくに誤嚥性肺炎を対象として測定を行っている。※入退院支援加算の対象となる「退院困難な要件」ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること。イ 緊急入院であること。など複数規定されている（ア～タまで 令和6年度診療報酬改定）
- 入退院支援加算 1 と 2 では施設基準が異なるが、本指標では両者を合算した数を測定している
- 年度により算定基準が異なることに注意が必要である。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号
2103

名称
認知症を伴う症例に対する退院支援の割合

分母
認知症を伴う入院症例数

分子
分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例

指標群
マネジメント

意義
患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成 28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成 30（2018）年度以降）」が新設された。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット
DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 解析期間に退院した症例を対象とする
- 傷病名のいずれかに、ICD-10 コードとして以下のコードが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
F00\$	アルツハイマー病の認知症
F01\$	血管性認知症
F02\$	他に分類されるその他の疾患の認知症
F03\$	詳細不明の認知症
G30\$	アルツハイマー病
G31\$	神経系のその他の変性疾患

- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算が算定されている症例。以下のいずれかが算定されている症例

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190128310	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○							

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190128410	慢性期病棟等退院調整加算 2 (退院加算・障害者施設等入院基本料等)	○							
190137110	慢性期病棟等退院調整加算 1 (退院支援計画作成加算)	○							
190137210	慢性期病棟等退院調整加算 1 (退院加算・療養病棟入院基本料等)	○							
190137310	慢性期病棟等退院調整加算 1 (退院加算・障害者施設等入院基本料等)	○							
190137410	急性期病棟等退院調整加算 1	○							
190137510	急性期病棟等退院調整加算 2	○							
190141470	退院調整加算 (認知症治療病棟入院料)	○	○	○	○	○	○	○	○
190147610	退院調整加算 (一般病棟入院等) (～14日)		○	○	○				
190147710	退院調整加算 (一般病棟入院等) (15日～30日)		○	○	○				
190147810	退院調整加算 (一般病棟入院等) (31日～)		○	○	○				
190147910	退院調整加算 (療養病棟入院等) (～30日)		○	○	○				
190148010	退院調整加算 (療養病棟入院等) (31日～90日)		○	○	○				
190148110	退院調整加算 (療養病棟入院等) (91日～120日)		○	○	○				
190148210	退院調整加算 (療養病棟入院等) (121日～)		○	○	○				
190173310	退院調整加算 (一般病棟入院等) (特定地域) (～14日)			○	○				
190173410	退院調整加算 (一般病棟入院等) (特定地域) (15日～30日)			○	○				
190173510	退院調整加算 (一般病棟入院等) (特定地域) (31日～)			○	○				
190173610	退院調整加算 (療養病棟入院等) (特定地域) (～30日)			○	○				
190173710	退院調整加算 (療養病棟入院等) (特定地域) (31日～90日)			○	○				
190173810	退院調整加算 (療養病棟入院等) (特定地域) (91日～120日)			○	○				

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
190173910	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（121日～）			○	○				
190192310	入退院支援加算 1（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192410	入退院支援加算 1（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192510	入退院支援加算 2（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192610	入退院支援加算 2（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190192910	入退院支援加算（特定地域）（一般病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190193010	入退院支援加算（特定地域）（療養病棟入院基本料等）				○	○	○	○	○
190207470	入院時支援加算 2（入退院支援加算）					○	○	○	○
190217970	入院時支援加算 1（入退院支援加算）						○	○	○

その他

薬剤一覧の出力
いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法
分子÷分母

指標の単位
パーセント

結果提示時の並び順
降順

測定上の限界・解釈上の注意

- たとえば、入退院支援加算の算定対象は「退院困難な要因」（下記）のある患者とされている。したがって、必ずしも特定の疾患を対象としたものではないが、本指標ではとくに認知症を対象として測定を行っている。※入退院支援加算の対象となる「退院困難な要因」ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること。イ 緊急入院であること。など複数規定されている（ア～タまで 令和 6 年度診療報酬改定）
- 入退院支援加算 1 と 2 では施設基準が異なるが、本指標では両者を合算した数を測定している
- 年度により算定基準が異なることに注意が必要である。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号

2104

名称

薬剤管理指導実施開始の平均日数

分母

入院症例のうち、薬剤管理指導を受けた症例数

分子

分母のうち、入院日から薬剤指導管理実施を最初に算定された日までの日数（入院日を1）

指標群

マネジメント

意義

薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. 薬剤指導管理実施の算定されている症例

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
113010710	薬剤管理指導料 1（救命救急入院料等算定患者）	○	○	○	○				
113010810	薬剤管理指導料（安全管理を要する医薬品投与患者）	○	○	○	○	○	○	○	○
120001610	薬剤管理指導料	○	○	○	○	○	○	○	○

3. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 入院日から薬剤指導管理実施を最初に算定された日までの日数。入院日を1とする

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

日

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 必ずしも、すべての患者に薬剤管理指導を要するわけではないが、本指標では「実施された症例」に限定している点に注意。また、入院途中に介入が必要となった症例が多い場合、指標値としては低く算出される。

参考資料

参考値

参考資料

基本情報

指標番号

2139

名称

薬剤管理指導入院 3 日以内実施割合（実施患者数ベース）

分母

入院症例数

分子

分母のうち、入院 3 日内（入院日を 1 とする）に薬剤管理指導を受けた症例数

指標群

マネジメント

意義

薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

DPC 様式 1（親様式 1 のみ）,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 入院 3 日内（入院日を 1 とする）に薬剤指導管理実施の算定されている症例

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
113010710	薬剤管理指導料 1（救命救急入院料等算定患者）	○	○	○	○				
113010810	薬剤管理指導料（安全管理を要する医薬品投与患者）	○	○	○	○	○	○	○	○
120001610	薬剤管理指導料	○	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 薬剤管理指導料は、算定には特定の施設基準を満たしている必要があり、実施が「0」の施設は、未実施という意味ではない可能性が高い（これらの施設件数も比較には参考となると考えられるため、表・グラフには、0 の施設も併記はする）。必ずしも、すべての患者に薬剤管理指導を要するわけではなく、100%を目指す指標ではない。分子の薬剤管理指導は、特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者に対して行う場合以外も含め、管理指導が実施の有無の計測を主旨とする。指標としては、このほかに、実施回数を考慮したものが考えられる

参考資料

参考値

参考資料

1. 日本医療・病院管理学会誌 49(4)195-203